基　本　計　画　書

基本計画		
事項	記入欄	備考
計画の区分	学部の設置	
フリガナ 設置者	ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝ　ﾔﾏﾅｼｶﾞｸｲﾝ 学校法人 山梨学院	
フリガナ 大学の名称	ﾔﾏﾅｼｶﾞｸｲﾝﾀﾞｲｶﾞｸ 山梨学院大学　(Yamanashi Gakuin University)	
大学本部の位置	山梨県甲府市酒折二丁目４番５号	
大学の目的	本大学は、法令の定めるところに従い法学、商学、経営情報学及び栄養学並びに国際教養学の理論とその応用とを教授研究し、広い教養と深い専門の知識をもつ有為の人材を養成することを目的とする。	
新設学部等の目的	国際リベラルアーツ学部国際リベラルアーツ学科は、英語による卓越したコミュニケーション能力と国際的な視点に基づく教育（liberal arts）の実践により、グローバルな視野を有する専門知識を身に付けた実践力ある人材を養成し、国際社会及び地域社会に貢献することを目的とする。	

新設学部等の名称等	申請学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設の時期及び開設年次	所在地
	国際リベラルアーツ学部 (College of International Liberal Arts) 国際リベラルアーツ学科 (Department of International Liberal Arts)	年 4	人 ８０	年次人 －	人 ３２０	学　士 (国際リベラルアーツ)	平成２７年４月 第１年次	山梨県甲府市酒折 二丁目４番５号
	計		８０	－	３２０			

同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	入学定員変更 法学部 法学科〔定員減〕（△ 30）（平成２７年４月） 経営情報学部 経営情報学科〔定員減〕（△ 50）（平成２７年４月）

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数
		講義	演習	実験・実習	計	
	国際リベラルアーツ学部 国際リベラルアーツ学科	８１　科目	１９　科目	３３　科目	１３３　科目	１２４　単位

教員組織の概要	学部等の名称	専任教員等 教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等
新設分	国際リベラルアーツ学部 国際リベラルアーツ学科	人 １１ （7）	人 8 （8）	人 7 （5）	人 0 （0）	人 ２６ （２０）	人 0 （0）	人 １７ （8）
	計	１１ （7）	8 （8）	7 （5）	0 （0）	２６ （２０）	0 （0）	１７ （8）
既設分	法学部　法学科	１１ （１１）	8 （8）	1 （1）	0 （0）	２０ （２０）	0 （0）	２４ （２４）
	法学部　政治行政学科	１７ （１７）	3 （3）	0 （0）	0 （0）	２０ （２０）	0 （0）	１２ （１２）
	現代ビジネス学部　現代ビジネス学科	１１ （１１）	8 （8）	3 （3）	0 （0）	２２ （２２）	0 （0）	２３ （２３）
	経営情報学部　経営情報学科	１８ （１８）	6 （6）	0 （0）	0 （0）	２４ （２４）	0 （0）	２６ （２６）
	健康栄養学部　管理栄養学科	6 （6）	4 （4）	1 （1）	0 （0）	１１ （１１）	5 （5）	１１ （１１）
	計	６３ （６３）	２９ （２９）	5 （5）	0 （0）	９７ （９７）	5 （5）	９６ （９６）
	合計	７４ （７０）	３７ （３７）	１２ （１０）	0 （0）	１２３ （１１７）	5 （5）	１１３ （１０４）

（　）内は開設時に係る教員数で内数。

左のほか、国際リベラルアーツ学部には、語学学習補助職員を２人配置。

教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計
	事務職員	６４　人 （６４）	５５　人 （５５）	１１９　人 （１１９）
	技術職員	1 （1）	0 （0）	1 （1）
	図書館専門職員	6 （6）	7 （7）	１３ （１３）
	その他の職員	１２ （１２）	0 （0）	１２ （１２）
	計	８３ （８３）	６２ （６２）	１４５ （１４５）

注：記入は大学全体

事項	記入欄				備考
校地等 区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用等	計	注：記入は大学全体 共用先：山梨学院短期大学 〔校地：255,747㎡〕 《収容定員》 食物栄養科 220人 保育科 300人 専攻科（保育専攻） 30人
校舎敷地	0 ㎡	71,136 ㎡	0 ㎡	71,136 ㎡	
運動場用地	0 ㎡	127,005 ㎡	0 ㎡	127,005 ㎡	
小計	0 ㎡	198,141 ㎡	0 ㎡	198,141 ㎡	
その他	0 ㎡	57,606 ㎡	0 ㎡	57,606 ㎡	
合計	0 ㎡	255,747 ㎡	0 ㎡	255,747 ㎡	
校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用等	計	注：記入は大学全体 共用先：山梨学院短期大学 （共用する施設：図書館、ホール、管理棟） 国際リベラルアーツ学部 専用校舎 5,570.88 ㎡ （他に学生寮 4,413.49 ㎡）
	36,835 ㎡ (36,835 ㎡)	20,149 ㎡ (20,149 ㎡)	10,867 ㎡ (10,867 ㎡)	67,851 ㎡ (67,851 ㎡)	

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	注：記入は大学全体 国際リベラルアーツ学部 専用校舎 講義室： 7室 演習室：10室 実験実習室： 2室 情報処理学習施設： 0室 語学学習施設： 0室
	４６ 室	４２ 室	１０ 室	９ 室 （補助職員４人）	２ 室 （補助職員３人）	

専任教員研究室	申請学部等の名称	室数	
	国際リベラルアーツ学部 国際リベラルアーツ学科	２８ 室	教員研究室は、全て国際リベラルアーツ学部専用校舎内に配置

図書・設備 新設学部等の名称	図書〔うち外国書〕 冊	学術雑誌〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用分
国際リベラルアーツ学部 国際リベラルアーツ学科	40,471〔9,285〕 (39,808〔8,633〕)	96〔55〕 (41〔0〕)	2,101〔2,100〕 (2,101〔2,100〕)	5,208 (4,946)	1,899 (1,248)	0 (0)	図書 268,469冊 〔56,792冊〕 学術雑誌 577タイトル 〔8タイトル〕 電子ジャーナル 2,561タイトル 〔2,530タイトル〕 視聴覚資料 7,572点 データベース数 16件
計	40,471〔9,285〕 (39,808〔8,633〕)	96〔55〕 (41〔0〕)	2,101〔2,100〕 (2,101〔2,100〕)	5,208 (4,946)	1,899 (1,248)	0 (0)	

図書館	面積	閲覧座席数	収容可能冊数	
	3,984.22 ㎡	４９４ 席	約 ３１万 冊	

体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要		体育館：山梨学院短期大学と共用
	4,264.00 ㎡	武道館	3,008.77 ㎡	武道館：大学専用

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次
経費の見積り	教員１人当り研究費等		330 千円	330 千円	330 千円	330 千円
	共同研究費等		400 千円	400 千円	400 千円	400 千円
	図書購入費	3,945 千円	4,975 千円	678 千円	211 千円	49 千円
	設備購入費	233,147 千円	59,289 千円	0 千円	0 千円	0 千円

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次
	1,695 千円	1,495 千円	1,495 千円	1,495 千円

学生納付金以外の維持方法の概要	私立大学等経常経費補助金、手数料収入、等。

事項	記入欄								備考
既設大学等の状況	大学の名称	山梨学院大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	法学部	4	420	－	1,680	－	1.04	昭和37年度	山梨県甲府市酒折二丁目４番５号
	法学科	4	250	－	1,000	学士（法学）	1.04	昭和37年度	山梨県甲府市酒折二丁目４番５号
	政治行政学科	4	170	－	680	学士（政治行政学）	1.05	平成３年度	山梨県甲府市酒折二丁目４番５号
	現代ビジネス学部 現代ビジネス学科	4	200	－	800	学士（商学）	1.03	昭和40年度	山梨県甲府市酒折二丁目４番５号
	経営情報学部 経営情報学科	4	200	－	800	学士（経営情報学）	0.96	平成６年度	山梨県甲府市酒折二丁目４番５号
	健康栄養学部 管理栄養学科	4	40	３年次 10	180	学士（栄養学）	1.16	平成22年度	山梨県甲府市酒折二丁目４番５号
	大学の名称	山梨学院大学大学院							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	社会科学研究科 公共政策専攻 （修士課程）	2	20	－	40	修士（公共政策）	0.97	平成７年度	山梨県甲府市酒折二丁目４番５号
	法務研究科 法務専攻 （専門職学位課程：法科大学院）	3	20	－	85	法務博士（専門職）	0.38	平成16年度	山梨県甲府市酒折二丁目４番５号	法務研究科は、平成２５年度より、入学定員を変更 35→30人（△5） 法務研究科は、平成２６年度より、入学定員を変更 30→20人（△10）
	大学の名称	山梨学院短期大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	食物栄養科	2	110	－	220	短期大学士（食物栄養学）	1.04	昭和23年度	山梨県甲府市酒折二丁目４番５号
	保育科	2	150	－	300	短期大学士（保育学）	1.16	昭和42年度	山梨県甲府市酒折二丁目４番５号
	専攻科 保育専攻	2	15	－	30	－	0.83	平成14年度	山梨県甲府市酒折二丁目４番５号	大学評価・学位授与機構の認定専攻科（平成１４年４月１日付認定） 〔学士（教育学）〕 根拠：学校教育法第１０４条第４項第１号（基礎となる学科：保育科）
附属施設の概要	なし								

学校法人山梨学院　設置認可等に関わる組織の移行表

平成２６年度	入学定員	編入学定員	収容定員		平成２７年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
山梨学院大学					山梨学院大学				
法学部　法学科	250		― 1,000	→	法学部　法学科	220	―	880	定員変更
法学部　政治行政学科	170		― 680		法学部　政治行政学科	170	―	680	
現代ビジネス学部　現代ビジネス学科	200		― 800		現代ビジネス学部　現代ビジネス学科	200	―	800	
経営情報学部　経営情報学科	200		― 800		経営情報学部　経営情報学科	150	―	600	定員変更
健康栄養学部　管理栄養学科	40	３年次	10 180		健康栄養学部　管理栄養学科	40	３年次 10	180	
					国際リベラルアーツ学部　国際リベラルアーツ学科	80		320	学部の設置（認可申請）
計	860		10 3,460		計	860	10	3,460	
山梨学院大学大学院					山梨学院大学大学院				
社会科学研究科　公共政策専攻（Ｍ）	20		― 40	→	社会科学研究科　公共政策専攻（Ｍ）	20	―	40	
法務研究科　法務専攻（Ｐ）	20		― 60		法務研究科　法務専攻（Ｐ）	20	―	60	
計	40		100		計	40		100	
山梨学院短期大学					山梨学院短期大学				
食物栄養科	110		― 220	→	食物栄養科	110	―	220	
保育科	150		― 300		保育科	150	―	300	
専攻科（保育専攻）	15		― 30		専攻科（保育専攻）	15	―	30	
計	275		550		計	275		550	

教　育　課　程　等　の　概　要

（国際リベラルアーツ学部　国際リベラルアーツ学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
English for Academic Excellence（アカデミック英語（EAE））		English for Academic Excellence：A（アカデミック英語：A）	1前・後		15		○			3	3	4				
		English for Academic Excellence：B（アカデミック英語：B）	1前・後	15			○			3	3	4				
		小計（2科目）	－	15	15	0	－			3	3	4	0	0	兼0	
Foundation Courses（基幹教育）		Composition 1（英作文1）	1前・後		3		○			3	3	5				
		Composition 2（英作文2）	1前・後		3		○			3	3	5				
		Academic Reading Across Disciplines（分野横断型アカデミック・リーディング）	1前・後		3		○			3	3	5				
		Expository Research Writing（リサーチ・ライティング）	1前・後		3		○			3	3	5				
		Introduction to World Issues（国際問題入門）	1前・後	3			○			1						
		Critical Thinking & Debate（批判的思考とディベート）	1前・後		3		○			3						
		The Art of Making Presentations（プレゼンテーション技術）	1前		1				○	1						
		Critical and Creative Thinking（批判的・創造的思考技術）	2前		1				○	1						
		Graduation Research Project（卒業研究）	4前・後	2				○		8	2					
		Academic Study Abroad Preparatory Course（留学準備コース）	1前		12		○			3	3	4				
		Career Design 1（キャリア・デザイン1）	2前	1				○		2						オムニバス
		Career Design 2（キャリア・デザイン2）	3・4前	1				○		2						オムニバス
		Internship（インターンシップ）	3･4前・後			1			○	1						集中
		小計（13科目）	－	7	29	1	－			11	5	5	0	0	兼0	
Humanities（人文教養）	Language Arts（英語）	Introduction to Language Concepts（言語概念入門）	1後		3		○			2						
		Sociolinguistics（社会言語学）	2後		3		○			1						
		World Englishes（世界の英語）	3・4前		3		○			1						
		Literature Appreciation（文学鑑賞）	1後		3		○			1		1				
		Lyric Poetry（叙情詩）	2前		3		○			1						
		Major Themes in World Literature（世界の文学の主要テーマ）	3・4後		3		○			1		1				
		Comparative Literature Studies（比較文学研究）	3・4後		3		○			1		1				
		Creative Writing Across Genres（領域横断型クリエイティブ・ライティング）	3・4後		3		○			1		1				
		Advanced Expository Writing（英作文上級）	2後		3		○			3	2	1				
		English Communication for the Workplace（職場での英語コミュニケーション）	3・4後		3		○			1	2					
		Seminar（Language Arts）（英語演習）	4前・後		1			○		2						
		小計（11科目）	－	0	31	0	－			3	3	1	0	0	兼0	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	選択	自由	授業形態 講義	演習	実験・実習	専任教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	備考	
Humanities（人文教養）	Japanese Language（日本語研究）	Elementary Japanese 1 （日本語初級１）	１前・後		3			○			1	2				
		Elementary Japanese 2 （日本語初級２）	１前・後		3			○			1	2				
		Elementary Japanese 3 （日本語初級３）	１前・後		3			○			1	2				
		Intermediate Japanese 1 （日本語中級１）	１前・後		3			○			1	2				
		Intermediate Japanese 2 （日本語中級２）	１前・後		3			○			1	2				
		Advanced Japanese （日本語上級）	１前・後		3			○			1	2				
		Professional Writing in Japanese （社会人としての日本語作文）	１前・後		3			○			1	2				
		Reading Japanese Newspapers （日本語新聞読解）	１後		1				○		1	2				
		Public Speech in Japanese （日本語スピーチ）	１前・後		1				○		1	2				
		Workshop: Experiencing Teaching Japanese （ワークショップ：日本語教育体験／観察）	２前・後		1			○			1	2				
		小計（１０科目）	－	0	24	0	－			0	1	2	0	0	兼0	
	Arts（芸術）	Art Appreciation （美術鑑賞）	１後		3		○				1					
		History of Western Art （西洋美術史）	２前		3		○				1					
		Japanese Art （日本美術）	１後		3		○				1					
		Traditional Japanese Handicraft （日本の伝統的手工芸）	２前		3		○				1					
		Comparative Art Studies （比較美術研究）	３・４前		3		○				1					
		Seminar (Arts) （芸術演習）	４前・後		1			○			1					
		Workshop: Drawing Ⅰ （ワークショップ：絵画実習Ⅰ）	１前		1				○						兼1	
		Workshop: Drawing Ⅱ （ワークショップ：絵画実習Ⅱ）	２前		1				○						兼1	
		Workshop: Sculpting Ⅰ （ワークショップ：彫刻実習Ⅰ）	１後		1				○		1					
		Workshop: Sculpting Ⅱ （ワークショップ：彫刻実習Ⅱ）	２後		1				○		1					
		Workshop: Traditional Japanese Culture （ワークショップ：日本の伝統的文化実習）	１前・後		1				○						兼2	オムニバス
		Workshop: Calligraphy （ワークショップ：書道実習）	１後		1				○	1						
		小計（１２科目）	－	0	22	0	－			1	1	0	0	0	兼3	
	Performing Arts（芸能）	Western Film & Theater （西洋映画・演劇）	１前		3		○			1						
		Japanese Film & Theater （日本映画・演劇）	１後		3		○			1						
		Manga & Anime Studies （マンガ・アニメーション学）	１後		3		○			1						
		Film History （映画史）	３・４前		3		○			1						
		Japanese Traditional Theater （日本の伝統演劇）	２後		3		○			1						
		Comparative Theater Aesthetics （比較演劇美学）	３・４前		3		○			1						
		Seminar (Performing Arts) （芸能演習）	４前・後		1			○		1						
		Workshop: Acting Ⅰ （ワークショップ：演技実習Ⅰ）	１前		1				○						兼1	
		Workshop: Acting Ⅱ （ワークショップ：演技実習Ⅱ）	２後		1				○						兼1	
		Workshop: Directing （ワークショップ：演劇監督実習）	１前		1				○						兼1	
		Workshop: Noh Theater （ワークショップ：能実習）	１前		1				○						兼1	
		小計（１１科目）	－	0	23	0	－			1	0	0	0	0	兼2	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	選択	自由	授業形態 講義	演習	実験・実習	専任教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	備考	
Humanities（人文教養）	Music（音楽）	How We Listen to Music: Foundations of Music Perception, Cognition, and Acoustics （音楽鑑賞：知覚認知と音響学の基礎）	1後		3		○				1					
		History of Western Music （西洋音楽史）	2前		3		○				1					
		Japanese Traditional Music （日本の伝統音楽）	2後		3		○								兼1	
		Introduction to Music Technology （音楽技術入門）	2後		3		○				1					
		History of Modern Music （近代音楽の歴史）	3・4後		3		○				1					
		Music Fundamentals: Harmony, Musicianship, and Arranging （音楽基礎：和声、音楽的能力、編曲）	3・4前		3		○				1					
		Music and Other Media: Interdisciplinary Perspectives （音楽と他のメディア：学際的視点）	3・4前		3		○				1					
		Seminar (Music) （音楽演習）	4前・後		1			○			1					
		Workshop: Music Practice Ⅰ (Improvisation Ensemble) （ワークショップ：音楽実習Ⅰ（即興アンサンブル））	1後		1				○		1					
		Workshop: Music Practice Ⅱ (Keyboards) （ワークショップ：音楽実習Ⅱ（キーボード））	2後		1				○						兼1	
		Workshop: Music Practice Ⅲ (Choral Ensemble) （ワークショップ：音楽実習Ⅲ（合唱アンサンブル））	2後		1				○						兼1	
		Workshop: Music Practice Ⅳ (Japanese Koto) （ワークショップ：音楽実習Ⅳ（琴））	1後		1				○						兼1	
		Workshop: Music Practice Ⅴ (Shakuhachi) （ワークショップ：音楽実習Ⅴ（尺八））	1後		1				○						兼1	
		Workshop: Music and Creativity Ⅰ （ワークショップ：音楽と創造性実習Ⅰ）	1前		1				○						兼1	
		Workshop: Music and Creativity Ⅱ （ワークショップ：音楽と創造性実習Ⅱ）	1後		1				○						兼1	
		Workshop: Music Composition for Western and Traditional Japanese Instruments （ワークショップ：洋楽器と和楽器のための作曲実習）	1前		1				○						兼1	
		Workshop: Interpretative Dance （ワークショップ：創作ダンス実習）	2後		1				○						兼1	
		小計（１７科目）	－	0	31	0	－			0	1	0	0	0	兼6	
	History（歴史学）	World History （世界史）	1後	3			○								兼1	
		Japanese History （日本史）	2前		3		○								兼1	
		History of Technology in Japan （日本技術史）	2前		3		○								兼1	
		小計（3科目）	－	3	6	0	－			0	0	0	0	0	兼1	
	Philosophy & Religious Studies（哲学・宗教学）	Philosophy, Culture & Civilization （哲学と文明・文化）	2後		3		○			1						
		History of Western Philosophy （西洋哲学史）	2前		3		○			1						
		History and Philosophy of Science （科学史・科学哲学）	2後		3		○			1						
		Creativity in the Sciences and the Arts （科学と学芸における創造性）	3・4前		3		○			1						
		Comparative Philosophy （比較哲学）	3・4前		3		○			1						
		Philosophy and Environmental Issues （哲学と環境問題）	3・4後		3		○			1						
		Seminar (Philosophy) （哲学演習）	4前・後		1			○		1						
		World Religions （世界の宗教）	3・4前		3		○								兼1	
		Comparative Religious Studies （比較宗教学）	3・4前		3		○								兼1	
		Spiritual Dimensions and Traditions in the Japanese Martial Arts （日本武道における精神的側面と伝統）	1後		3		○			1						
		Workshop: Practicing Zen （ワークショップ：禅実習）	1後		1				○						兼1	集中
		Workshop: Experiencing Shinto （ワークショップ：神道体験）	1後		1				○						兼1	
		小計（１２科目）	－	0	30	0	－			2	0	0	0	0	兼3	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	選択	自由	授業形態 講義	演習	実験・実習	専任教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	備考	
Social Sciences（社会科学）	Economics（経済学）	Microeconomics （ミクロ経済学）	1後	3			○			1						
		Intermediate Microeconomics （中級ミクロ経済学）	2後		3		○			1						
		Macroeconomics （マクロ経済学）	2前		3		○			1						
		Japanese Economy & Business （日本経済とビジネス）	1前		3		○			1						
		International Trade & Economics of Globalization （国際貿易とグローバル経済）	3・4前		3		○			1						
		Entrepreneurship （起業・ベンチャー論）	3・4前		3		○			1						
		Corporate Finance （コーポレートファイナンス）	3・4後		3		○			1						
		Economic Growth: Theories and Evidence （経済成長：理論と実証）	3・4後		3		○			1						
		History of Economic Thought （経済思想史）	3・4前		3		○			1						
		Money & Banking （金融論）	3・4前		3		○			1						
		Japanese Economy & Business (in Japanese) （日本語による日本経済とビジネス）	3・4後		3		○			1						
		Competitive Strategy （競争戦略）	3・4後		3		○			1						
		Seminar (Economics) （経済学演習）	4前・後		1			○		2						
		小計（１３科目）	－	3	34	0	－			3	0	0	0	0	兼0	
	Political Science（政治学）	Introduction to Political Science （政治学入門）	2前・後		3		○			1						
		Social Policy （社会政策）	2前		3		○								兼1	
		US Politics （アメリカ政治）	3・4前		3		○			1						
		Nationalism & Ethnic Conflict in Asia （ナショナリズムとアジアの民族紛争）	3・4前		3		○								兼1	
		Japanese Politics and International Relations （日本の政治と国際関係）	2後		3		○			1						
		Global Politics （グローバル政治）	3・4後		3		○			1						
		Comparative Political Systems （比較政治体制）	3・4前		3		○			1						
		Seminar (Political Science) （政治学演習）	4前・後		1			○		1						
		Workshop: Political Simulation Game （ワークショップ：政治シミュレーションゲーム）	3・4後	1					○	2						集中・共同
		小計（9科目）	－	1	22	0		－		2	0	0	0	0	兼2	
	Sociology（社会学）	Workshop: Fuji Culture （ワークショップ：富士山と文化）	1前		1				○						兼1	集中
		Social Theory （社会理論）	2前		3		○			1						
		Methods of Social Research （社会調査方法論）	2前		3		○								兼1	
		Sociology of Globalization （グローバル化の社会学）	3・4前		3		○			1						
		Sociological Analysis of Nihonjinron （日本人論の社会学的分析）	2後		3		○			1						
		Cross-Culture Studies （比較文化研究）	3・4後		3		○			1						
		Seminar (Sociology) （社会学演習）	4前・後		1			○		1						
		小計（7科目）	－	0	17	0	－			1	0	0	0	0	兼2	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
Quantitative Reasoning & Natural Sciences (数的推理・自然科学)	Quantitative Reasoning (数的推理)	Math for Liberal Arts (リベラルアーツのための数学)	1前・後		3		○				1					
		College Algebra (大学代数学)	1前・後		3		○				1					
		Calculus (微積分学)	2前		3		○				1					
		Statistics (統計学)	2後		3		○				1					
		小計（4科目）	－	0	12	0	－			0	1	0	0	0	兼0	
	Natural Sciences (自然科学)	Integrated Science (科学総合)	1前・後		3		○				2					オムニバス
		Integrated Science Laboratory (科学総合実験)	1前・後		1				○		1					
		Modern Physics (現代物理学)	2後		3		○				1					
		History of Biotechnology (バイオテクノロジーの歴史)	2前		3		○				1					
		Genetics (遺伝学)	3・4後		3		○				1					
		Genetics Laboratory (遺伝学実験)	3・4後		1				○		1					
		Cell Biology Laboratory (細胞生物学実験)	3・4前		1				○		1					
		小計（7科目）	－	0	15	0	－			0	2	0	0	0	兼0	
Health & Physical Education (保健体育)		Health & Physical Education 1 (保健体育１) (種目：ナンバ式骨体操) (種目：合気道) (種目：柔道) (種目：空手) (種目：修験道)	1 前・後	1					○	1					兼3	1つの種目を選択履修
		Health & Physical Education 2 (保健体育２) (種目：合気道) (種目：柔道) (種目：空手)	1・2 前・後		1				○	1					兼2	1つの種目を選択履修
		小計（2科目）	－	1	1	0	－			1	0	0	0	0	兼3	
合計（１３３科目）			－	30	312	1	－			11	8	7	0	0	兼20	

学位又は称号	学士（国際リベラルアーツ）	学位又は学科の分野	文学関係

<table>
<tr><th>卒業要件及び履修方法</th><th colspan="2">授業期間等</th></tr>
<tr><td rowspan="3">≪卒業要件単位≫　１２４単位

≪履修方法≫
科目の履修にあたっては、以下に掲げる全ての要件を充足のうえ、124 単位以上を修得しなければならない。なお、体系的・段階的な学修を保障するため、各授業科目には、『Course Number（コースナンバー）』制に基づく前提要件の充足、または科目毎に定める当該科目が配置される科目区分範囲での一定の修得単位数の充足、もしくは特定の科目に係る単位修得の充足など、個別に履修に際しての前提要件を付す。

（1）科目区分ごとに以下の要件を充足のうえ、計 42 単位以上を修得する。
○　『English for Academic Excellence（アカデミック英語：EAE）』より必修科目を含め 15 単位以上
○　『Foundation Courses（基幹教育）』より必修科目および選択必修科目を含め 10 単位以上
○　『Humanities（人文教養）』より必修および選択必修科目を含め９単位以上
○　『Social Sciences（社会科学）』より必修科目を含め４単位以上
○　『Quantitative Reasoning & Natural Sciences（数的推理・自然科学）』より選択必修科目を含め３単位以上
○　『Health & Physical Education（保健体育）』より必修科目を含め１単位以上
（2）科目区分『Japan Studies Program（日本研究：JSP）』のうち、以下に掲げる『Japan Area Studies（日本地域研究：JAS）プログラム対象科目』より３単位以上を修得する。
○　科目区分『Humanities（人文教養）』
・「Language Arts（英語）」分野
「Comparative Literature Studies（比較文学研究）」
・「Arts（芸術）」分野
「Japanese Art（日本美術）」、「Traditional Japanese Handicraft（日本の伝統的手工芸）」、
「Workshop: Traditional Japanese Culture（ワークショップ：日本の伝統的文化実習）」、
「Workshop: Calligraphy（ワークショップ：書道実習）」
・「Performing Arts（芸能）」分野
「Japanese Film & Theater（日本映画・演劇）」、「Manga & Anime Studies（マンガ・アニメーション学）」、
「Japanese Traditional Theater（日本の伝統演劇）」、
「Workshop: Noh Theater（ワークショップ：能実習）」
・「Music（音楽）」分野
「Japanese Traditional Music（日本の伝統音楽）」、
「Workshop: Music Practice Ⅳ（Japanese Koto）（ワークショップ：音楽実習Ⅳ（琴））」、
「Workshop: Music Practice Ⅴ（Shakuhachi）（ワークショップ：音楽実習Ⅴ（尺八））」、
「Workshop: Music Composition for Western and Traditional Japanese Instruments（ワークショップ：洋楽器と和楽器のための作曲実習）」
・「History（歴史学）」分野
「Japanese History（日本史）」、「History of Technology in Japan（日本技術史）」
・「Philosophy & Religious Studies（哲学・宗教学）」分野
「Comparative Philosophy（比較哲学）」、「Comparative Religious Studies（比較宗教学）」、
「Spiritual Dimensions and Traditions in the Japanese Martial Arts（日本武道における精神的側面と伝統）」、
「Workshop: Practicing Zen（ワークショップ：禅実習）」、
「Workshop: Experiencing Shinto（ワークショップ：神道体験）」
○　科目区分『Social Sciences（社会科学）』
・「Economics（経済学）」分野
「Japanese Economy & Business（日本経済とビジネス）」、
「Japanese Economy & Business（in Japanese）（日本語による日本経済とビジネス）」
・「Political Science（政治学）」分野
「Japanese Politics and International Relations（日本の政治と国際関係）」
・「Sociology（社会学）」分野
「Workshop: Fuji Culture（ワークショップ：富士山と文化）」、
「Sociological Analysis of Nihonjinron（日本人論の社会学的分析）」
○　科目区分『Health & Physical Education（保健体育）』
「Health & Physical Education 1（保健体育１）（種目：ナンバ式骨体操、合気道、柔道、空手、修験道）」、
「Health & Physical Education 2（保健体育２）（種目：合気道、柔道、空手）」
（3）科目区分『Humanities（人文教養）』のうち、『Japanese Language（日本語研究）』に配置の「Professional Writing in Japanese（社会人としての日本語作文）」について、『Japan Studies Program（日本研究：JSP）』の要件として１科目３単位を修得する。
（4）科目区分にかかわらず、コースナンバー「300」～「400」レベルの選択科目を計 45 単位以上修得する。
（5）事前に学修計画を策定のうえ、学術交流協定に基づく海外大学への１年間の『Studying Abroad（海外留学）』を義務づける。この１年間の留学期間は在学期間に算入し、留学先の海外大学で履修し修得した単位を本学部で開設する授業科目の個別の内容に照らして、あるいは本学部の教育趣旨に整合する科目として妥当かを慎重に審査のうえ、本学で修得したものとみなし（授業科目ごとの個別単位認定方式）、42 単位を限度として卒業要件単位に算入する。なお、海外留学における学修計画は本学部が指定する専任教員と事前に協議のうえ策定し、留学の許可を得るものとする。
（6）『Writing-Across-the-Curriculum Program（WAC）（カリキュラム横断型作文プログラム；ラーニング・ポートフォリオ）』を活用した「Graduation Research Project（卒業研究：GRP）」（大学設置基準第 21 条第３項の定めに基づく卒業論文等）の合格を義務づける。GRP の達成のため、全ての学生は第３年次までの WAC における個別の研究成果を活用するとともに、第４年次において WAC の研究テーマに基づく科目区分の「Seminar（演習）」を履修し、単位を修得しなければならない。

≪英語を母国語とする外国人留学生に対する履修方法の特例≫
学校教育法施行規則第 150 条第１号および昭和 56 年文部省告示第 153 号に基づく外国人留学生は、前述の履修方法のうち、科目区分『English for Academic Excellence（アカデミック英語：EAE）』に係る要件を、科目区分『Japan Studies Program（日本研究：JSP）』のうち『Japanese Language Program（日本語研究：JLP）』に配置の「Intermediate Japanese 2（日本語中級２）」までの達成に読み替える。また、前述（3）に掲げる科目区分『Humanities（人文教養）』のうち、『Japanese Language（日本語研究）』に配置の「Professional Writing in Japanese（社会人としての日本語作文）」１科目３単位の修得要件を免除する。

（履修科目の登録の上限：第１年次３６単位、第２年次４２単位、第３年次４２単位、第４年次４２単位（年間））</td><td>１学年の学期区分</td><td>２　学　期

（前期・後期）

一部のワークショップ科目は、反復的な集中学習による教育効果を高める目的から、学則に定める後期末の休暇期間を利用した特別授業期間『冬期集中授業期間』に授業を実施することがある。

なお、『冬期集中授業期間』を利用して、「English for Academic Excellence（アカデミック英語:EAE）」及び「Study Abroad Preparatory Course（留学準備コース）」の補習授業を行う。</td></tr>
<tr><td>１学期の授業期間</td><td>１　５　週</td></tr>
<tr><td>１時限の授業時間</td><td>７　５　分

（１日あたり６時限制）

第１時限　9:00～10:15
第２時限　10:30～11:45
第３時限　12:30～13:45
第４時限　14:00～15:15
第５時限　15:30～16:45
第６時限　17:00～18:15</td></tr>
</table>

授　業　科　目　の　概　要

（国際リベラルアーツ学部　国際リベラルアーツ学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
English for Academic Excellence アカデミック英語(EAE)	English for Academic Excellence : A （アカデミック英語：A）	Course Description: English for Academic Excellence (EAE) A consists of five core components and will also be closely integrated with the Self-Directed Practice course conducted in the Language Acquisition Center (the LAC). The five course components are: Reading/Writing, Writing/Reading, Listening/Speaking, Content-Based Learning, and Testing Practice. These courses are taught and evaluated independently of each other, but are closely connected in respect to materials, methods and course content. Some activities overlap two or more of the components, but concentrate on different aspects of the language-learning process. EAE is a "program," and not just a collection of separate courses. EAE A course targets low-to-mid intermediate level students and will introduce the fundamentals of the English level with a focus on academic English. For this reason, course content is carefully selected to build not only English proficiency and functional academic ability, but also a knowledge base that students will need to succeed in the undergraduate program. In preparing students for the future goal of study abroad where TOEFL scores often are an ITP 550 or an iBT as high as 100, the EAE will administer regular proficiency tests, which include in-house proficiency instruments in reading and writing. Students will be placed into sections based on their proficiency levels at the beginning of the course. This intensive course will consist of 10 75-minute koma per week. This is a homework intensive course, and students will be required to spend at least two hours on homework preparation and study for every scheduled class hour. Course Objectives: The broad objectives of the course are twofold: 1) to bring students to an ITP TOEFL score of about 460 or its equivalent on other standard measurements and in-house essay/reading exam, 2) to prepare students to perform academic tasks with at least an intermediate level of proficiency in all language skills. （授業科目の概要：『アカデミック英語（EAE）A』は５つのコアとなる単元で構成され、言語学習センター（LAC）で行われる「自律学習（SDP)」と密接に連携して実施される。本科目の５つの単元とは、「リーディング／ライティング（R/W)」「ライティング／リーディング（W/R)」「リスニング／スピーキング（L/S)」「コンテンツベース学習（CBL)」「英語運用能力試験実践（TP)」である。これらの単元は互いに独立して教授・評価されるが、教材や教育方法、授業内容の点で密接につながっている。学習活動によっては２つあるいはそれ以上の単元にわたって行われるものもあるが、それぞれ言語学習の異なる側面に焦点を当てたものである。EAE は１つのまとまりのある"プログラム"であり、単なる個別単元の寄せ集めではない。『EAE A』は英語学習における中級レベルのうち低～中段階の学生を対象とし、アカデミック英語の基本を学習していく。このため、授業内容は、英語能力や実用的な学術能力だけではなく、本学部で成功するのに必要な知識基盤も構築できるよう、厳密に選択されている。卒業要件である交換留学に際し必要とされる TOEFL の点数が ITP で 550 点、iBT で 100 点にも達することも多い中で、その準備のため、リーディングやライティング能力を測る独自試験を含む定期的な英語運用能力試験を本学部内で実施する。 本科目の開始時に、英語能力別にクラス編成を行う。本科目は、各 75 分、週 10 回の授業からなる複合型の授業である。本科目は課外学習を重視した科目であり、授業時間１時間につき、提出課題や準備学習のため少なくとも２時間を費やすことが求められる。 授業科目の目的：本科目の目標は、大きく分けて次の２つである。（１）TOEFL ITP で 460 点程度、またはその他の英語運用能力試験や本学部内で実施するライティング・リーディング独自試験で同等のスコアを達成すること、（２）学術的な課題を遂行する際にすべての言語スキルにおいて、最低でも中級レベルの能力が発揮できるよう準備すること。）	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
English for Academic Excellence アカデミック英語(EAE)	English for Academic Excellence : B （アカデミック英語：B）	Course Description: English for Academic Excellence (EAE) B consists of five core components and will also be closely integrated with the Self-Directed Practice course conducted in the Language Acquisition Center (the LAC). The five course components are: Reading/Writing, Writing/Reading, Listening/Speaking, Content-Based Learning, and Testing Practice. These courses are taught and evaluated independently of each other, but are closely connected in respect to materials, methods and course content. Some activities overlap two or more of the components, but concentrate on different aspects of the language-learning process. EAE is a "program," and not just a collection of separate courses. EAE B course targets mid-to-high intermediate level students and will introduce the fundamentals of the English level with a focus on academic English. For this reason, course content is carefully selected to build not only English proficiency and functional academic ability, but also a knowledge base that students will need to succeed in the undergraduate program. In preparing students for the future goal of study abroad where TOEFL scores often are an ITP 550 or an iBT as high as 100, the EAE will administer regular proficiency tests, which include in-house proficiency instruments in reading and writing. Students will be placed into sections based on their proficiency levels at the beginning of the course. This intensive course will consist of 10 75-minute koma per week. This is a homework intensive course, and students will be required to spend at least two hours on homework preparation and study for every scheduled class hour. Course Objectives: The broad objectives of the course are twofold: 1) to bring students to an ITP TOEFL score of about 500 or its equivalent on other standard measurements and in-house essay/reading exam, 2) to prepare students to perform academic tasks with at least a high intermediate level of proficiency in all language skills. （授業科目の概要：『アカデミック英語（EAE）B』は５つのコアとなる単元で構成され、言語学習センター（LAC）で行われる「自律学習（SDP)」と密接に連携して実施される。本科目の５つの単元とは、「リーディング／ライティング（R/W)」「ライティング／リーディング（W/R)」「リスニング／スピーキング（L/S)」「コンテンツベース学習（CBL)」「英語運用能力試験実践（TP)」である。これらの単元は互いに独立して教授・評価されるが、教材や教育方法、授業内容の点で密接につながっている。学習活動によっては２つあるいはそれ以上の単元にわたって行われるものもあるが、それぞれ言語学習の異なる側面に焦点を当てたものである。EAE は１つのまとまりのある“プログラム”であり、単なる個別単元の寄せ集めではない。『EAE B』は英語学習における中級レベルのうち中～高段階の学生を対象とし、アカデミック英語の基本を学習していく。このため、授業内容は、英語能力や実用的な学術能力だけではなく、本学部で成功するのに必要な知識基盤も構築できるよう、厳密に選択されている。卒業要件である交換留学に際し必要とされる TOEFL の点数が ITP で 550 点、iBT で 100 点にも達することも多い中で、その準備のため、リーディングやライティング能力を測る独自試験を含む定期的な英語運用能力試験を本学部内で実施する。 本科目の開始時に、英語能力別にクラス編成を行う。本科目は、各 75 分、週 10 回の授業からなる複合型の授業である。本科目は課外学習を重視した科目であり、授業時間１時間につき、提出課題や準備学習のため少なくとも２時間を費やすことが求められる。 授業科目の目的：本科目の目標は、大きく分けて次の２つである。（1）TOEFL ITP で 500 点程度、またはその他の英語運用能力試験や本学部内で実施するライティング・リーディング独自試験で同等のスコアを達成すること、（2）学術的な課題を遂行する際にすべての言語スキルにおいて、最低でも中級レベルのうち高段階の能力が発揮できるよう準備すること。）	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Foundation Courses 基幹教育	Composition 1 （英作文１）	Course Description: *Composition 1* offers students an introduction to university essay writing and also introduces *Composition 2*. *Composition 1* gives students multiple and consistent opportunities to write– both in class and out. Academic writing is generally *reading-based*, or *text-dependent*, so *Composition 1* requires a lot of reading. Students will be instructed in reading strategies and given opportunities to develop their abilities to discuss what they read in small groups and write about what they read. Students will be required to complete a variety of writing assignments, including summaries of readings, autobiographical essays, personal response essays, and various types of multi-draft academic essays. However, some of these writing tasks will be in common with *Academic Reading Across Disciplines,* which will be complementary to *Composition 1.* Students will be introduced to common academic genres that they will use throughout their academic careers: extended definition, observation, comparison/contrast, and argument. They will also be required to maintain writing portfolios of all their writing that will become part of their *Writing Across the Curriculum* portfolio. Throughout the course, students will be expected to respond to each other’s writing in a peer review process that will be carefully explained. During the course students may view films, read stories or novels and engage in cross-disciplinary studies and learning activities, which will also form the basis of discussion and writing assignments. Course Objectives: The main objective of the course is to introduce the academic writing skills of paragraph organization, essay organization, effective and grammatical academic reports, summaries and personal responses to academic reading. （授業科目の概要：「英作文１」は、大学レベルのライティングの入門となり、「英作文２」への入り口となる。多角的かつ継続的なライティングの機会が授業内及び授業以外の時間の両方で与えられることになる。学術的ライティングが一般にリーディングを基に行われることに照らして、「英作文１」でも多くのリーディングを課す。学生はリーディング手法を学び、リーディングに基づき小グループで議論し合う能力や文章に書き表す能力を高めていく。学生は、読んだものの要約、自伝的な作文、所感文、その他数次にわたって推敲を重ねる様々な学術英作文の課題を課されることになる。なお、これらの英作文課題は、「英作文１」と補完関係にある「分野横断型アカデミック・リーディング」と共通する。 詳細な定義、観察、比較・対照、議論等の、大学レベルの学術的な文章類型の導入も行う。また、この科目を通して作成されたライティングは、学生が各自管理し、「カリキュラム横断型作文プログラム(WAC)」のポートフォリオの一部とする。本授業で学生は、十分な指導のもとお互いの英作文を批評し合うピアレビューを行う。本授業では、映画等の鑑賞や物語・小説の読書、および複数の分野にわたる学習活動を行い、それに基づいてディスカッションやライティング課題を課す。 授業科目の目的：本科目の主な目的は、段落の構成、文章の構成、効果的で文法的に正しい学術的レポート、学術的リーディングに対する要約および所感文、といった学術的なライティング技法を導入することである。）	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Foundation Courses 基幹教育	Composition 2 （英作文２）	Course Description: *Composition 2* provides opportunities for the student to strengthen his or her academic writing skills through developing inquiry and research. Students investigate issues and questions that require serious inquiry through a variety of sources beyond those supplied by the instructor or the course textbook, e.g., library resources, the Internet, etc. *Composition 2* requires multiple-draft writing, the format of which may vary, e.g., a series of brief papers and a single lengthier paper. It is possible that individual students might work at self-selected research projects for which they also choose their own readings. In the context of this course, the critical analysis of ideas (i.e., claims and evidence) through the synthesis of a variety of texts, e.g., readings, film, Internet, and so on, is a major goal. Throughout the course, primary emphasis is given to formal inquiry. A substantive amount of reading is required for each class meeting, which is necessary for in-class, small group discussions that occur in every class. Because reading plays an integral role in the course, students will spend the first few weeks developing their reading abilities and strategies through a variety of activities. The aim of these activities is to foster greater speed and comprehension while reading academic texts for research purposes. In addition, students will engage one another's writing in a peer review process. Each student will maintain a portfolio of all writing completed within the course. Course Objectives: Main objectives of this course are to learn the proper techniques of academic research writing, distinguishing opinions and facts in an academic text from those of the writer's, and mastering summary, paraphrase and critical thinking at a high level. （授業科目の概要：「英作文２」では、知的探求と調査を通して学術的なライティング技術をさらに高める機会を与える。学生は、教員から与えられた資料や教科書だけでなく、図書館にある資料やインターネット等を利用し、本格的に追及する必要がある問題点や課題に取り組む。この授業では、一連の比較的短いレポートから一本の長文レポートまで、数次にわたって推敲を重ねる様々な形態の作文が必須課題である。学生自身が選択した調査課題に、自ら集めた文献を用いて取り組むこともある。この授業の主要目標は、書籍、映像、インターネット等、様々なテキストやその他の情報を統合して、主張や論拠等の批判的分析を行えるようになることである。本授業を通して最も重要視されるのは、学術的手続きに則った調査である。 授業内で少人数グループ・ディスカッションを行うのに必要となる、相当量のリーディングが毎回の授業で課される。リーディングはこの科目で重要な役割を担うため、学生は最初の数週間、様々な活動を通してリーディング能力や手法を伸ばしていく。これは、リサーチのために学術的文献を読む際の速度や理解度を向上させるためである。さらに、学生は、相互にライティングを読み合いピアレビューを行う。この科目を通して作成されたライティングはポートフォリオで管理される。 授業科目の目的：本授業の主な目的は、学術的なリサーチ・ライティングにおける適切な技術の習得、学術的文章の中から著者の意見と事実とを識別すること、また高度なレベルにおける要約、言い換え、および批判的思考を身につけることである。）	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Foundation Courses 基幹教育	Academic Reading Across Disciplines （分野横断型アカデミック・リーディング）	Course Description: *Academic Reading Across Disciplines* provides instruction in reading strategies and practices requiring reading texts in a wide variety of academic fields, from social sciences to sciences to humanities. Intensive reading will be addressed in the classroom with time devoted to small group discussion in addition to teacher-centered lessons. An extensive reading program will also take place in and outside the classroom with students also spending time in the LAC on their required extensive reading projects. These include small-group discussion of the readings they select from the LAC materials or on their own, with approval from the instructor. This course also requires a lot of writing: summaries, paraphrase, and personal responses. Practice with citation and close text commentary will be part of the course as well. Another important part of this course is academic vocabulary study beyond the words learned in EAE. The class will also be offered to International students who did not sit for or pass the placement exam for *Expository Research Writing*. Course Objectives: The main course objective is to improve reading comprehension, reading speed of academic texts and responding accurately and effectively to academic readings across diverse disciplines. （授業科目の概要：本科目では、リーディング手法や実践の指導を行う。授業では、社会科学から自然科学、人文科学までの多様な学術分野のテキストを読むことが求められる。教員の先導による講義の他、少人数でのグループ・ディスカッションに時間を割き、精読に取り組む。学生は、言語学習センター（Language Acquisition Center；LAC）での必須の課題を始めとする多読についても授業時間内外で取り組む。また、LAC の図書や各自で選択し教員の許可を得た書籍のリーディングに基づいたグループ・ディスカッションも行う。この授業は、要約、解釈、感想文等のライティングも多く要求される。また、文献引用や注釈に関する実践も授業の一部となる。この授業の重要なもう一つの側面は、EAE で学ぶ単語の枠を超えた学術的語彙力の習得である。また、この科目は、「リサーチ・ライティング」の履修の前提となる試験を受験していない、又は合格しなかった外国人留学生に対しても開講される。 授業科目の目的：本授業の主な目的は、読解力の強化、および学術的テキストを読む速度や、幅広い分野に渡る学術的リーディングに対して正確且つ有効的に対処する能力の向上である。）	
	Expository Research Writing （リサーチ・ライティング）	Course Description: *Expository Research Writing* (ERW) is an accelerated course combining the introduction to essay and genre of Composition 1 and the introduction to research techniques and writing in Composition 2. Students will be admitted to this course only after sitting for and passing a demanding reading/writing exam, which indicates that they have equal reading and writing proficiencies to those who have successfully completed Composition 1, Composition 2 and Academic Reading Across Disciplines sequence and therefore can enroll in the alternative ERW. Students would spend the first four to six weeks of the course reading and writing multi-draft essays of a more general academic nature. This part of the course introduces students to basic academic genres of extended definition and argumentation, and writing summaries, paraphrases and personal responses to readings. The remaining weeks are spent writing multi-draft research essays, with close attention to proper documentation. Needless to say, this course is intensive in both the reading and writing expectations. Course Objectives: Objectives are the same as Composition 1 and Composition 2 combined: essay organization and effective writing of diverse rhetorical patterns, and writing a properly researched and documented research paper. （授業科目の概要：本科目は、「英作文１」で扱う文章類型と英作文への導入、及び「英作文２」で扱うリサーチ技術とライティングへの導入を統合した形で行われる。よって、本科目は、本学部内で実施する難易度の高いリーディング・ライティング試験に合格し、「英作文１」、「英作文２」及び「分野横断型アカデミック・リーディング」の各科目修了と同等の能力があると認められた学生を対象とする。学生は、最初の４～６週間は、学術一般に関わるリーディング及び数次にわたって推稿を重ねるライティングを行う。この期間では、詳細な定義、主張、要約、言い換え、および所感文の書き方等の基本的な学術的分類の導入を行う。残りの期間は、学術界で広く使われている引用ルールに則り、数次にわたって推稿を重ねるリサーチ・ライティングに取り組む。いうまでもないが、この科目はリーディングとライティングの両方において集中的かつ徹底した指導と実践が行われる。 授業科目の目的：本授業の目標は「英作文１」および「英作文２」それぞれの目標を統合したものである。作文の構成、多様な修辞的形式による効果的なライティング、および適切な調査と引用方法に基づいた研究レポートを書くことである。）	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Foundation Courses 基幹教育	Introduction to World Issues （国際問題入門）	Course Description: This course is the cornerstone of the Writing Across the Curriculum (WAC) program and introduces key terminology and concepts for more advanced course work. In this course, students will select one social issue that will become the basis for a research project and an academic paper in at least one of the subsequent courses every term until they graduate. The project will culminate in the senior thesis, which involves a synthesis of the previous treatments of the world issue topic. The content of this course introduces students to sociology, the study of the patterns of collective human existence. The focus is on the sociological terminology in order to address topics like culture, socialization, and social change. In each topic sociological key concepts and theories are introduced and connected to case studies (this allows not only an application of the theories in the interpretation of those cases, but also a test against the cases). And finally social issues with a global relevance are discussed. The course is an interactive lecture-type course with a strong emphasis on training practical English skills in discussions and in written discourse. Students are required to complete homework assignments prior to class, to contribute frequently to class discussions, to make a presentation, and to write quizzes and a final test. Course Objectives: At the end of this course, students should be able to: (i) see and comprehend the world through a sociological lens and demonstrate this understanding both in written and oral English, (ii) apply elementary sociological terminology, concepts and theories to cases and issues, (iii) think critically and express their opinion in English, and (iv) understand the complexity of social life and global issues. （授業科目の概要：本授業は、カリキュラム横断型作文プログラム（WAC）の礎となる科目であり、本学部でのより高度な学習に備えて重要な用語や概念を紹介する。各学生は国際的な社会問題を１つ選び、本科目を修了してから卒業するまでの毎学期、少なくとも１科目の中で選択したテーマについてレポートを作成することになる。最終的には、これら一連の学習成果を総合し、卒業論文を作成することで結実することになる。 授業内容としては、社会学（人間の共同生活の構造に関する研究）の基礎を紹介することになる。文化、社会化、社会変化といった、典型的な社会学のトピックを扱う上で必要となる社会学用語に焦点を当てる。それぞれのトピックに関する社会学上の主要概念と理論を、ケース・スタディを使って学ぶ。（理論がケース・スタディの分析にどのように適用できるかを学ぶだけではなく、逆に上手く適用できない場合についても検証する。）最後に、グローバルな重要性をもつ社会問題を議論していく。 本授業は、参加型の講義形式を取っており、口頭および書面の双方での実践的な英語能力の涵養を重視する。学生は、事前課題を終えた上で各授業に参加し、積極的にクラス討議に参加することが求められる。また、プレゼンテーション、小テスト、そして学期末テストが課される。 授業科目の目的：本授業終了後、学生は以下を達成することが期待される。（1）社会学的な視点から世の中を理解するとともに、それを書面と口頭の双方で英語で表現することができる。（2）基礎的な社会学概念と理論を、実際のケースや課題に応用することができる。（3）批判的思考に基づいて、自分の意見を英語でしっかりと説明できる。（4）社会生活と世界の課題の複雑性について理解できる。）	
	Critical Thinking & Debate （批判的思考とディベート）	Course Description: Critical thinking is a process we use to develop and support the views that we hold and to evaluate the views of others. Students will learn to advance their critical thinking skills through self-reflection and awareness of their own beliefs and moral inclinations that influence their own thinking while developing a sensitivity and understanding of thinking processes, belief systems, and ethical positions that may be different from their own. Critical thinking is honed through debate sessions designed to strengthen the ability to analyze information, construct logical arguments based on inductive and deductive reasoning, and engage in intelligent deliberation with classmates on a wide range of controversial topics. Course Objectives: At the end of this course, successful students will (i) have improved their analytical skills, (ii) be able to recognize fallacies of their own judgments, thoughts and language and that of others, (iii) be able to construct well-reasoned arguments, and (iv) recognize the assumptions upon which their own conclusions and those of others are constructed. （授業科目の概要：批判的思考（クリティカル・シンキング）は、自分の考えを展開させ、その裏付けを行いながら、他者の考えを評価するためのプロセスである。本授業では、他者の思考プロセス、信念体系、倫理的立場などに対する感受性を高め、理解しつつ、自分自身の思考に影響を与える自身の信念や道徳性向を分析し、批判的思考のスキルを伸ばすことを学ぶ。情報分析力を高め、帰納法、演繹法に基づく論理的な議論を構築し、賛否両論ある幅広いトピックについて、クラスメートと知的な討論を行うことで、批判的思考を修得していく。 授業科目の目的：本授業終了後には、（1）分析力を高め、（2）自己および他者の判断・思考・言葉の誤謬を認識でき、（3）論理的な議論を構築することができ、（4）自己と他者の思考の基礎を成している前提を認識できるようになることが期待される。）	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Foundation Courses 基幹教育	The Art of Making Presentations （プレゼンテーション技術）	Course Description: In this course students will master the elements, tools, and techniques that make up the art of giving highly effective presentations. Best practices will be modeled from TED speakers, and through practice and feedback in giving presentations, students will learn how to develop and organize content, tell stories to make a point, use dynamic delivery techniques, and presentation software. This course will help students recognize, model, and expect excellence in presentations; and offer them the opportunity to practice and experience the whole process with feedback for improvement. Students will develop their skills to a high level in how to communicate ideas, persuade people, and gain cooperation. Course Objectives: At the end of this course, students should become able to: (i) create and organize content for a spoken or slide presentation which speaks to audience interests with a clear and purposeful message, (ii) is easy for both presenter and audience to remember, and opens and closes with impact, (iii) construct and deliver a Story with a message that engages the audience and motivates them to take action, (iv) deliver the presentation with good posture, expressive body language, engaging eye contact, and vocal variety, (v) appreciate the world's top presenters in English while developing their own style, and (vi) capture and express ideas with impact and confidence. （授業科目の概要：本授業では、世界水準のプレゼンテーションの基本的なツールとテクニックを学習する。TED（Technology Entertainment Design）のスピーチからの優れた事例をモデルにし、プレゼンテーションを行う上での実践やフィードバックを通して、学生はコンテンツの展開の仕方と整理方法、主張を持った語り、力強さのある話し方のテクニック、またプレゼンテーションで用いるソフトウェアの使い方などを学習する。この授業はまた、学生が優れたプレゼンテーションを見分け、見本とし、うまくやれると自信を持つための手助けをし、改善するためのフィードバックを与えながら、実践やすべてのプロセスを経験する機会を与える。これによって学生は、アイディアの伝え方、説得力、協力を得る方法などを高いレベルで身につけることができる。 授業科目の目的：本授業終了後、学生は以下を達成することが期待される。（1）明確で、目的があり、かつメッセージ性に富んだ、スピーチないしはスライドを用いたプレゼンテーションのためのコンテンツの作成および体系化。（2）インパクトのあるオープニングとクロージングがあり、発表者にとって覚えやすく、また聞き手の心にも留まる発表ができる。（3）聞き手が惹きつけられ、モチベーションに繋がる語り方で、ストーリー（物語）を構成して話せるようになる。（4）プレゼンテーションを良い姿勢、豊かな表現力のあるボディーランゲージ、アイコンタクト、声の抑揚に配慮して行うことができる。（5）優れたスピーカーの英語によるプレゼンテーションを味わい、その中で自分のスタイルを確立できる。（6）影響力と自信を持って自分の考えを捉え表現することができる。）	
	Critical and Creative Thinking （批判的・創造的思考技術）	Course Description: This course explores the differences between Convergent (left-brain critical) and Divergent (right-brain associative) Thinking. It looks at the tools and techniques for thinking with both sides of the brain, discovering your own thinking preference and style, and integrating both sides in a whole brain approach to thinking. Students will emerge with a better sense of balance in solving problems and communicating solutions. Students will produce a notebook that reflects their development of both types of thinking throughout the course. This course will also look at the thinking and note taking styles of several great Geniuses of history such as Leonardo da Vinci and Thomas A. Edison. Course Objectives: At the end of this course, students should be able to: (i) recognize common cognitive errors, or deviations from rational, reasonable thought and behavior, (ii) be able to engage in simple Socratic questions at the heart of critical thinking, (iii) capture ideas in a creative handwritten notebook, including visual notes with diagrams and sketches to enhance memory and observation skills, (iv) demonstrate effective use of tools for idea generation such as Brainstorming and Idea Mapping, and (v) write a paper on a famous artist, scientist, or leader, showing how ideas and other people influenced their creative work. （授業科目の概要：本授業は、収束的（いわば「左脳的」・「批判的」）及び拡散的（「いわば右脳的」・「結合的」）な思考の違いを学ぶ。「両方の脳を使った」思考のためのツールやテクニックを用い、自身の思考のスタイルと好みを理解しながら、「全脳思考」のアプローチで両側面を統合させる。これにより学生は、問題解決やコミュニケーションをバランス良く行えるようになる。履修を通して学生は、自身の両タイプの思考の発達について内省するためノートによる記録を作成する。授業ではまた、レオナルド・ダヴィンチやトーマス・エジソンのような歴史的に有名な天才の思考やノート術についても学ぶ。 授業科目の目的：本授業終了後、学生は以下を達成することが期待される。（1）よくある非論理的な思考のワナや、偏った思考や行動を見抜ける力が身についている。（2）批判的思考の中心となる、簡単なソクラテス的発問を用いることができる。（3）発想力を養うための手書きやイラストを含んだノートを作成し、メモ、図、スケッチを用い日頃の訓練により観察力、記憶力、発想力を養う。（4）ブレーン・ストーミングやアイディア・マッピングなど発想力をかき立てるツールを使いこなせるようになる。（5）有名なアーティスト、科学者やリーダーの創造的な業績が、いかに思想・概念や他の人の影響を受けているかについてレポートを書く。）	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Foundation Courses 基幹教育	Graduation Research Project (GRP) (卒業研究)	Course Description: All students are required to write a graduation thesis. The graduation thesis is the end result of the Writing Across the Curriculum (WAC) program. The WAC program begins with the "Introduction to World Issues" course. For non-native English speakers, this is after they complete the English for Academic Excellence (EAE) program. At completion of the "Introduction to World Issues" course, students must choose from among a list of themes that will become the focus of their WAC requirements. Students select from a long list of "world issues" a theme that will be the focus of their WAC project. Possible WAC themes include poverty, world peace, sustainability, freedom, literacy, environment, gender equality, religion, north-south issues, nationalism, terrorism, economic development, and self-designed themes. As students progress through the curriculum, many courses require that they write a short term paper in English or Japanese examining their WAC theme through the lens of that particular course. Through this process students build a portfolio of short term papers that helps them connect knowledge across the curriculum and operationalizes interdisciplinarity, which is a core feature of liberal arts education at this department. This process culminates in the Graduation Research project that is basis of their Senior Seminar. Senior Seminar faculty will be responsible for the oversight and evaluation of students' individual research projects and the writing of theses. Course Objectives: At the end of this course, students should be able to: (i) conduct fairly rigorous academic research, (ii) combine knowledge about a particular social issue from the perspective of a wide range of disciplines, and (iii) write an academic thesis. （授業科目の概要：全ての学生には、卒業論文の執筆が求められている。この卒業論文は、カリキュラム横断型作文プログラム (WAC) の最終結果という位置づけである。WAC は、「国際問題入門」の履修から始まり、英語を母国語としない学生にとっては、アカデミック英語 (EAE) プログラムの修得後にスタートする。また、「国際問題入門」受講後、各学生は、様々な国際問題のリストの中から、自分の WAC プロジェクトで取り上げるテーマを選ばなければならない。WAC のテーマの例としては、「貧困」「世界平和」「持続可能性」「自由」「リテラシー」「環境」「ジェンダー」「宗教」「南北問題」「ナショナリズム」「テロリズム」「経済発展」、あるいは学生が自分自身で設定する独自のテーマが挙げられる。学生は、本学部の様々なカリキュラムを通じ、多くの授業でそれぞれの授業内容の視点から、自分の WAC テーマを検討し、そのための英語及び日本語の短いレポートを提出しなければならない。こうした経験を通して、学生は徐々に各授業で学んできた知識を横断的に理解するような短いレポートのポートフォリオを作成できるようになる。このような学問分野を横断した能力育成こそが、本学部のリベラルアーツ教育のコアとなる特徴である。こうした一連のプロセスが、最終的に４年次の演習の卒業研究として、結実することになる。４年次の演習担当教員は、各学生の研究ならびに論文執筆の指導・評価の責任を負う。 授業科目の目的：本授業終了後、学生は以下を達成することが期待される。（1）学術調査についてかなり精通しており、（2）広範な研究分野の視点から特定の社会問題を考察することができる。そして（3）学術論文が執筆できるようになっている。）	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Foundation Courses 基幹教育	Academic Study Abroad Preparatory Course （留学準備コース）	Course Description: The Academic Study Abroad Preparatory Course consists of four core components: Reading/Writing, Writing/Reading, Speaking/Listening and Content-Based Language Learning. This course is designed to prepare students with modest English proficiency to meet the language and study skills prerequisites necessary for successful study abroad in an English medium university. The course will combine content-based instruction with intensive reading, writing and oral skills instruction. Students will also strengthen areas of weakness in the Language Acquisition Center through extensive advising and self-reflection. In Reading/Writing students are exposed to high-level academic texts, as well as an extensive reading program to be executed outside of the classroom and supplemented with discussion sessions and short written and oral reports. Writing/Reading stresses grammatical and organizational instruction with extensive practice. The Speaking/Listening course will stress academic listening and speaking tasks, including listening to lectures and making academic presentations. The Content-Based Language Learning course is a simulated university-level content on a unified theme, such as the environment, in which students are taught various kinds of study techniques, exposed to various forms of testing formats and instructional media. The students will be expected to spend at least two hours of homework preparation for every hour in class. The course consists of 8 75-minute koma distributed throughout the week to ensure continuous exposure to academic English and related study techniques. Course Objectives: The broad objectives of the course are threefold: 1) to bring students to an ITP TOEFL score of about 500 or its equivalent on other standard measurements and in-house essay/reading exam, and 2) to prepare students to perform academically in university-level course work with at least “survival proficiency” in all language skills. 3) Specifically, the course will focus on skill integration of various kinds in the four components listed and will provide a realistic exposure to academic rigor at the university level. （授業科目の概要：『留学準備コース』は、「リーディング／ライティング（R/W）」、「ライティング／リーディング（W/R）」、「スピーキング／リスニング（S/L）」、そして「コンテンツベース言語学習（CBLL）」の４つの単元から構成される。本授業は、英語が教授言語である大学への留学を無事成功させるため、英語能力を向上させる必要がある学生を対象に、事前に習得しておく必要のある言語能力と学習スキルを身につけさせることを目的としている。授業はコンテンツベースの学習と集中的なリーディング、ライティング、および会話力を伸ばす指導とを組み合せたものである。学生はまた、言語学習センター（LAC）での詳細なアドバイスや内省を通じて自身の苦手な分野の強化を図る。「リーディング／ライティング（R/W）」では、高いレベルの学術的テキストに触れ、また授業以外の時間においても広範な多読の実施、及びディスカッション・セッションや短い書面および口頭での報告などが追加で課せられる。「ライティング／リーディング（W/R）」においては徹底した練習を通じた文法および文章構成の学習が重視される。「スピーキング／リスニング（S/L）」では、講義の聞き取りや学術的なプレゼンテーションを含む、アカデミックなリスニングとスピーキング活動を重視する。「コンテンツベース言語学習（CBLL）」は、大学レベルの内容による模擬授業で、環境問題のような統一された一つのテーマを用い、学生に様々な学習方法や、異なるスタイルの試験形式や授業形態を経験させる単元である。学生は、１時間の授業につき最低でも２時間を課題の準備に費やすことが期待される。本科目は各 75 分、週８回の授業で構成され、学術的な英語と関連する学習方法に継続して触れられるように工夫されている。 授業科目の目的：本科目の目標は、大きく分けて次の３点である。（1）TOEFL ITP で 500 点程度、またはその他の英語運用能力試験や本学部内で実施するライティング・リーディング独自試験で同等のスコアを達成すること、（2）大学レベルの授業での言語スキルにおいて、少なくとも「課題に対応できる」だけの能力が発揮できるよう準備すること。さらに、（3）本科目では特に、前述の４つの単元における多様なスキルを統合させることに重点を置くとともに、大学レベルの学術的な授業の厳しさの現実を体験する場を提供する。）	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Foundation Courses 基幹教育	Career Design 1 （キャリア・デザイン１）	Course Description: Students will learn how to identify their personality strengths, interests, and talents, as well as how to develop their personal profile. The course will look at what it means to pursue a career and life mission, not just a job. Students will learn how to research about a career, and think intelligently about it rather than be influenced by assumptions and opinions. This will serve as a foundation in career selection and development. Course Objectives: At the end of this course, students should become able to: (i) understand and talk about themselves in terms of their interests and abilities, (ii) understand what elements make a job satisfying and sustaining, (iii) be familiar with tools and templates for self-discovery before beginning the job search, (iv) learn how to ask questions and discover more about a job or career of interest, and (v) map out a possible future and what skills, contacts, and experiences they might want to develop to reach their goals. This course will be taught by Prof. Reed and will also feature Prof. Suga, who will give students a perspective on the creative and entrepreneurial job options available to them by teaching the first and last lectures. （授業科目の概要：この授業では、学生が自身のパーソナリティの強み、興味、才能を特定し、自分のプロフィール（略歴）を発展させる方法を学ぶ。将来のキャリアを単なる生活費のための仕事ではなく、生涯の目的として捉えることの意味を考察する。学生はキャリアに関するリサーチの方法を修得し、人の意見や先入観に左右されず、自身のキャリアについて知的に考察できるようになる。将来の就職やキャリア選びに多いに役立つ基礎となる。 授業科目の目的：本授業終了後、学生は以下を達成することが期待される。（1）自分自身について自身の持つ興味、強みの観点から語れるようになる。（2）仕事を満足でき持続するものにするために必要な要素を理解する。（3）就職活動を始める前の段階で、自己発見の手助けとなるツールや枠組みに精通している。（4）興味のある仕事やキャリアについての探求方法やリサーチの仕方を学ぶ。（5）考えうる将来の計画を立て、目標を達成するために揃えなくてはならないスキル、ネットワーク、経験について考察する。 （オムニバス方式／全１５回） （3　須賀　等／2回） 創造的・革新的なキャリア上の選択肢について考える授業を初回と最終回に担当する。 （9　リード、ウィリアム・エヴァラード／１３回） キャリアについて考え、選択する上で必要となる知識や方法等について担当する。）	オムニバス方式
	Career Design 2 （キャリア・デザイン２）	Course Description: Students will learn how to develop a strategy for the job search, as well as the tools to support their jobs interviews in a global setting. They will learn how to talk to potential employers about what they have learned at this department, as well as their overseas study experience. They will learn how to ask good questions of themselves and potential employers. They will develop a portfolio including resume, strategy, network, stories, and interview practice. They will also explore how employment alternatives such as internships or graduate school that might further enhance their capabilities. Course Objectives: At the end of this course, students should become able to: (i) develop a resume that reflects their skills and goals, (ii) establish a job research strategy and career path plan, (iii) identify possible mentors and network of people who can help them in their career, (iv) develop 3 stories that demonstrate their skills/values, and (v) practice interviews for their job search recorded on video for feedback. This course will be taught by Prof. Reed and will also feature Prof. Suga, who will give students a perspective on the creative and entrepreneurial job options available to them by teaching the first and last lectures. （授業科目の概要：就職活動に必要な戦略を立て、グローバルな場面での面接に役立つツールを使いこなすことができるようになる。本学部で学んだことや、海外留学で得た知識やスキルについて、面接の場で語る方法を修得する。自分自身、および雇用者となりうる人々に関する質の良い質問ができるようになる。また、自分の履歴書、戦略、ネットワーク、面接で話す内容を含めたポートフォリオの作成を行う。インターンシップ、大学院など、自分の将来に役に立つ他のオプションについても考察していく。 授業科目の目的：本授業終了後、学生は以下を達成することが期待される。（1）自分の才能と目標に合う履歴書が書けるようになる。（2）職探しの戦略と進路を策定することができる。（3）将来のキャリア上支えとなるメンターや人脈を特定する。（4）自分の才能や価値観を表す３つのストーリーを用意できる。（5）フィードバックを受けるためのビデオ撮影を行いながら、就職活動の一環として面接練習をすることができる。 （オムニバス方式／全１５回） （3　須賀　等／2回） 創造的・革新的なキャリア上の選択肢について考える授業を初回と最終回に担当する。 （9　リード、ウィリアム・エヴァラード／１３回） キャリア形成上、必要となる戦略やスキル等について担当する。）	オムニバス方式

科 目 区 分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
Foundation Courses 基幹教育	Internship （インターンシップ）	Course Description: All students are encouraged to take part in an internship. Internships provide students an opportunity to experience the world of work by observing professionals at work in a particular area of their interest. Internships should be for a period no less than two weeks and amount to at least 80 hours of work at the site of the internship. As an intern, students may or may not receive a salary. To earn credit for the internship, students must write a term paper no less than five pages long describing the institution where the internship took place, the work that was accomplished, and what lessons were learned from the experience and must provide a letter from the internship provider verifying that at least 80 hours of work were performed. Course Objectives: Internships may provide (1) an opportunity for students to test their aptitude and interest in a particular profession before committing to it; (2) an opportunity for the prospective employer to judge the suitability of the student for a possible career position at the institution; (3) an opportunity for the student to develop interpersonal skills that are different from the interpersonal skills developed at the university, and (4) an opportunity for the student to develop employment references that may be useful when the student begins job hunting. （授業科目の概要：全ての学生は、インターンシップへの参加を強く推奨される。インターンシップを通して学生は、自分の興味分野で実際に働く人を観察し、プロの世界を体験することができる。インターンシップの期間は、最低２週間、そして就業時間が少なくとも計80時間必要である。有給・無給は、問わないものとする。本授業の単位を得るために学生は、インターンシップ先の組織、実際に行った業務実績、そしてインターンシップ経験から学んだ教訓をまとめた最低５頁の学期末レポートを、提出しなければならない。さらに、80時間以上就労したことを証明するインターンシップ先からの証明書の提出も求められる。 授業科目の目的：インターンシップを通して、（1）学生は、実際に就職する前に、自分の特定業務に対する興味と適正を、試すことができる。（2）同時に企業側も、インターンする学生の特定業務に対する適正を、判断することができる。そして（3）学生は、学生時代とは違う対人関係スキルを養うことができる。最後に（4）学生は、実際の就職活動の際に役立つ可能性のある信用照会先を、開拓することができる。）	集中

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Humanities（人文教養）	Language Arts（英語）	Introduction to Language Concepts （言語概念入門）	Course Description: *Introduction to Language Concepts* offers students an introduction to language by viewing similarities and differences among a variety of languages from a scientific point-of-view. A study of the uniqueness of human language also means looking at the human mind and the relationship of cognition to language. In this course, we will think about questions like: *What is language? What does it mean to know a language? In what ways do people acquire their first language? How do they acquire additional languages? How is language unique to the human species and the evolution of human cognition and culture? How is language a kind of window into the mind? How might language influence identity?* Linguistics is comprised of several formal areas of study: *words* (morphology), *sentences* (syntax, what most people call "grammar"), *meanings* (semantics), and *sounds* (phonetics and phonology). It also includes the study of how *knowledge about language* is applied in social situations in different cultures (sociolinguistics), and *how people learn language* (language acquisition). We will study each of these aspects of language. Finally, this course serves as an introduction to the diverse range of languages and language types spoken across the globe. Virtually every act and certainly every field of knowledge, even nonverbal fields such as mathematics and music, depend on language as the primary means of instruction and learning. Language is arguably the single most important cognitive ability of the human species. Because human languages are so diverse, and language is integral to the construction of culture, it follows that some basic linguistic knowledge is greatly enlightening, if not essential, for students wanting to understand deeply the multiplicity of cultures and human nature itself. Course Objectives: The main objective of this course is to introduce students to the nature of Language itself, and its fundamental role in human thought and behavior. The capital letter here is intentional, since it underlies the scientific nature of linguistics as a science that seeks to uncover the *principles,* by examining the details. The student will also learn to approach various aspects of language: morphology, syntax, phonology- from a problem-solving perspective, and in doing so, learn how linguists study language and the inherent nature of these inter-woven systems that underlie all human languages. Through out the course, the objective of letting students experience the *universality* of language systems, rather than their discreteness, is paramount. Language is mainly what makes us *homo sapiens*, and is the root of nearly all human-specific thought patterns and behavior. （授業科目の概要：この授業では、様々な言語の類似点と相違点を科学的観点から捉え、言語について考える。人間の言語の特性を研究することは、同時に人間の心や言語と認知の関係性を考察することをも意味する。この授業では、「言語とは何か」、「言語を理解するとはどういうことか」、「人はいかにして第一言語を習得するのか」、「人は第二言語以降はどのように習得するのか」、「人間の認知と文化の進化、及び人類にとって言語の持つ特性とは何か」、「言語はどのようにして人の心を知る手段となるのか」、「言語が人のアイデンティティにどのように影響を与えるか？」等の問いについて考察する。 言語学は、語（形態論）、文（統語論（一般に「文法」と呼ばれる分野））、意味（意味論）、音（音声学及び音韻論）等の研究分野から構成される。さらには、異なる文化の様々な社会的場面で、言語知識がどのように適用されているかといった研究（社会言語学）や、人はどのようにして言語を学ぶのかといった研究（言語習得）も含まれる。ここでは、このような言語学の各分野について学んでいく。 この授業では、世界中で話されている様々な言語やそれらの言語類型も紹介する。事実上全ての行為、また数学や音楽のような非言語的分野も含めて、全ての学問分野における教授と学習は言語によって行われる。言語は、最も重要な人類の認知能力であると言っても過言ではない。人間の言語は多岐に渡り、また文化の構築に不可欠であることから、文化の多様性や人間の本質を深く理解したい学生にとって基本的な言語学的知識の習得は、不可欠とまでは言えないにしても非常に意義のあることである。 授業科目の目的：本授業の主な目的は、特定の言語に依拠しない「言語」そのものの性質、および人類の思考や行動において言語が担う役割を紹介することである。「言語」と表記したのは、細部を検証することにより原理を明らかにしようとする、科学としての言語学の性質を強調するためである。学生はまた、形態論、統語論、音韻論といった言語のあらゆる要素への取り組み方についても問題解決の観点より学び、またそれを通して言語学者が言語を研究する方法や、すべての人類の言語の基礎にあるこれら密接に関連したシステムに内在する性質についても学習する。本科目を通して、学生に言語システムの個別性ではなく普遍性を体験させることが最も重要な点である。言語こそ我々を「人類」にしている主な要素であり、ほぼすべての人間特有の思考および行動の原点なのである。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Humanities（人文教養）	Language Arts（英語）	Sociolinguistics （社会言語学）	Course Description: This course introduces concepts of "sociolinguistics" to students with a rudimentary knowledge of linguistic terminology and methods. Sociolinguistics is the study of ways in which language and societies inter-relate. Students will study such topics as dialect variation, and social register (the varying social contexts of certain uses of language), and the ways in these factors influence and help shape identity and culture. Other topics covered in the course will be ideologies and attitudes related to language, and their political, educational, social and even economic consequences. Course Objectives: The main objective of the course is to teach the principles cited above, with the goal of increasing students' awareness of the central role of language in society and the prejudices that arise from a lack of language awareness. These particularly include attitudes toward less-favorably dialects, usually spoken by less favorable social groups. One can rarely separate racial and ethnic disparities from the languages members of these groups use. （授業科目の概要：この授業では、言語学の初歩的な専門用語や手法の知識とともに、社会言語学の概念への導入を行う。社会言語学は言語と社会の相関性についての研究である。学生は、方言の変化やソーシャル・レジスター（特定の言語使用にまつわる社会的コンテクスト）、これらの要因がいかにアイデンティティーや文化に影響を及ぼし、それらを形作るのかといったテーマについて学ぶ。さらに、言語に関するイデオロギーや態度、言語の政治的、教育的、社会的、さらには経済的影響といったテーマも取り扱う。 授業科目の目的：本授業の主な目的は、上記で言及した原則について教授し、社会における言語の中心的な役割、そして言語に対する意識の欠如による偏見について、学生の認識を高めることである。とりわけそこに含まれるのは、多くの場合不利な社会的グループに属する人々により用いられるあまり好まれない方言に対する態度である。これらのグループの人々により使われている言語から人種的・民族的格差を引き離すことは難しいのである。）	
		World Englishes （世界の英語）	Course Description: This course offers an introduction to the formal study of the English language. As such, the course will focus on several key factors about the English language: its history, its current usage, and its spread in a variety of ways across the globe. In particular, as English becomes more globalized, or internationalized, various world Englishes have become a reality; this course explores some of those Englishes and the reasons for their proliferation. Students will read materials written for native speakers on some of the world's dominant varieties of English. The issues mentioned above lead to a natural discussion of what is "standard" English today and what is a "native speaker." One benefit of this course is that students will be expected to assess their own understanding and "level" of English on several levels- grammar, vocabulary, pronunciation, etc.- and discuss ways in which they can develop greater English fluency and proficiency. Students will also have opportunities to familiarize themselves with some English-embedded cultural values and literary expressions. In essence, this course will introduce students to the rich world of English as a language and medium of cultural storage. Course Objectives: The objective of this course, therefore, is to increase students' awareness of English as the dominant language of the 21st language and its impact on world events and cultural attitudes. A very important aspect of this course is to make students aware of the social and political implications of English as world *lingua franca*. （授業科目の概要：この授業では、本格的な英語の研究への導入を行う。例えば、英語の歴史、現在の使用法、世界への多様な広がりなどの重要な要因に焦点をあてる。特に、英語が世界語となるにつれて種々の世界英語の登場が現実化しており、この授業では、このような英語とその普及理由を探究する。学生は、ネイティブ・スピーカーを対象とした、いくつかの標準英語で書かれた文献を読む。前述の様々な英語の出現からは、何が今日の「標準的」な英語か、「ネイティブ・スピーカーとは何か」といった議論がおのずと提起される。 この授業を通して学生は、自らの文法、語彙、発音等の理解とレベルを自己評価し、英語能力をより高く伸ばす方法を検討できるという利点がある。また、学生は、英語に深く埋め込まれた文化的価値や言語表現に慣れ親しむ機会も得ることができる。基本的にこの授業は、言語や文化の貯蔵手段としての豊かな英語の世界に導くものである。 授業科目の目的：本授業の目的は、21 世紀の主要な言語としての英語、そして英語が世界の出来事や文化的態度に与える影響に対する、学生の認識を高めることにある。本授業の非常に重要な要素の一つは、学生に世界の共通語としての英語の社会的、及び政治的意味合いについて認識させることである。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Humanities（人文教養）	Language Arts（英語）	Literature Appreciation （文学鑑賞）	Course Description: *Literature Appreciation* will focus on the basic principles for reading, understanding, and appreciating poetry, fiction and drama. The course will start with short fiction, proceed to the reading of a short novel, a variety of poems, films related to poetry and poetry performances, and films related to literature. The course may end with a one-act play. The fiction consists of several representative short stories that will introduce students to the reading of stories and the basic terminology needed to discuss fiction. There will be a special emphasis on close reading of literary language and the manner in which language represents imaginative thinking, and merges thought with feeling. Students will consider poetry in a variety of ways, as both written and as living, continuously evolving, oral texts. The class will watch films like *Dead Poets Society* with its focus on poetry and feeling or the contemporary rap film, *Slam*. Another aspect of the course will introduce students to the relationship between poetry and other arts, especially painting and music. Students will be expected to participate in and lead small group discussions, write analytical papers, prepare ten journal entries that require accuracy of understanding and personal interpretation and, of course, read extensively. Most importantly, this class will be devoted to the living experience of literary language as the supreme language of feeling. Course Objectives: Objectives focus on teaching students how to approach various literary works and reach higher understanding of their surface and symbolic content. This includes understanding the structure of various kinds of poems and fictional works, as well as a close attention to language, both literal and figurative. The desired outcome is not merely understanding the content of literature but the value it brings to the student in terms of the capacity to empathize with the human condition more deeply and to think more deeply about universal human experiences and the social contexts in which people live their lives. （授業科目の概要：この授業では、詩、小説、戯曲を読み、理解し、鑑賞することの基本原理に焦点をあてる。まずは短編物語から始まり、次第に短編小説、様々な詩の読書へと移行し、文学や詩、表現についての映画やドキュメンタリーを鑑賞する。最終的には一幕物の演劇を行う可能性もある。いくつかの代表的な短編小説から構成される小説を用い、小説の読み方や小説について議論する際に必要な基本的専門用語の導入を行う。言葉によって想像的思考を表現したり、思考と感情を結合させたりするといった文学的言語や作法を丁寧に読むことに特に重点を置く。 学生は、詩を記述の文章として、また常に進化する生きた口頭の文章としての両方の面において様々な形で考察する。授業では、詩と感情に焦点を置いた『いまを生きる』（*Dead Poets Society*）や、現代的なラップ映画『Slam』のような映画の鑑賞を行う。また別の側面として、この授業では詩と他の芸術、とりわけ絵画と音楽との関係についての導入も行う。学生は、少人数のグループ・ディスカッションに主体的に参加し、分析的小論文や正確な理解と個人的解釈を必要とするジャーナルを10件提出する。また、当然のことながら多読を行う。この授業は、至上の感情表現としての文学的言語表現を実際に使用・体験することに重きを置く。 授業科目の目的：本授業の目的は、異なる文学作品への取り組み方と表面的および象徴的な内容についてより深く理解する方法を教授することである。具体的には、異なる種類の詩やフィクション作品の構造の理解、逐語的および比喩的言語に着目することなどが含まれる。履修によって期待されるのは、単に文学作品の内容を理解するだけではなく、人間であることの条件に対しより深く共感する能力、また普遍的な人類の体験や人々が存在する社会的状況についてより深く考察するという観点において、文学が学生にもたらす価値を理解することにある。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Humanities（人文教養）	Language Arts（英語）	Lyric Poetry (叙情詩)	Course Description: *Lyric Poetry* will introduce students to lyric poetry following an historical approach in two senses: 1) historical roots of the lyric will be studied through examples of ancient and modern lyrics, not necessarily from older to more recent, but with chronological reference points; 2) the historical, social and aesthetic background of many of the poems will be considered in the process of interpretation and appreciation. The tools of poetry as well as thematic comparisons will be an important part of the course. The format will be small-group discussion with lecture at a minimum. This class requires a lot of writing in response to poems, though not necessarily a long term paper. Some of the poets students must read include: Sappho, Catullus, and selected other Greek and Latin lyricists, some Provencal French poems. Shakespearean sonnets, George Wither, Blake, Wordsworth, Byron, Dickinson, Whitman, Marianne Moore, Elizabeth Bishop, William Carlos Williams, Wallace Stevens, Robert Frost, Ezra Pound, Stevie Smith, modern song lyricists like Bob Dylan, and many others. Course Objectives: The main objective is to increase the understanding and enjoyment of poetic works by looking, at their historical contexts, not mainly as chronological events but as works set in particular times addressing the conditions created by those events. Learning to read and *hear* poetry as the language of music is the salient objective of this course. （授業科目の概要：この授業では、以下の２点における歴史的アプローチを通して、叙情詩への導入を行う。（1）古代と現代の叙情詩の例を通してその歴史的ルーツを探る。(必ずしも古いものから新しいものへというわけではなく、年代順の基準点に基づいた方法による。)（2）解釈と評価の過程を通して、多数の詩の歴史的、社会的、美学的背景を考察する。詩の手法や主題比較は本授業の重要な部分となる。授業では、講義を最低限に抑え、少人数グループ・ディスカッションを行う。詩を読んだ上で多くのライティングが課されるが、これは必ずしも長文のレポートである必要はない。必読の詩として、サッポー、カトゥルスやその他のギリシャやラテンの叙情詩人によるもの、プロバンスのフランス人詩人のもの、シェークスピアによるソネット集や、ジョージ・ウィザー、ブレイク、ワーズワース、バイロン、ディキンソン、ホイットマン、マリアン・ムーア、エリザベス・ビショップ、ウィリアム・カルロス・ウィリアムズ、ウォレス・スティーヴンズ、ロバート・フロスト、エズラ・パウンド、スティーヴィー・スミス、現代の作詞家を代表するボブ・ディラン、他多数の詩人・作家による作品が挙げられる。 授業科目の目的：主な目的は、詩の作品の持つそれぞれの歴史的背景を、時系列的出来事としてではなく、特定の時期においてその時々に発生した出来事が引き起こした状況を語るものとして捉えることで、作品に対する理解と楽しみを高めることである。詩を読み、また音楽の言葉として「聴く」ことがこの授業の重要な目的である。)	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Humanities（人文教養）	Language Arts（英語）	Major Themes in World Literature （世界の文学の主要テーマ）	Course Description: *Major Themes of World Literature* will select a major theme from world literature and students will study the treatment of the theme across various *genres* and world literatures. Themes will be selected based on their appropriateness for the wider curriculum goals and inter-disciplinary approach. Students will read the selected works with specific purposes related to global understanding, literary styles and philosophical perspectives. One example of a possible theme would be "Reality and Illusion in Works of Magical Realism." With this theme students would read some or all of the following: Kurt Vonnegut's *Cat's Cradle,* Haruki Murakami's *The Hard Boiled Wonderland and the End of the World*, Gabriel Marquez's *One Hundred Years of Solitude,* Camera Laye's *The Radiance of the King,* Borges' "Borges and I" and a selection of other short stories and poems by great writers and poets around the world. I want to stress that these works may not all be considered "magical realism" by some critics but this is one of the critical challenges students face in the course— to decide for themselves how the works relate to or differ from one another. Another very exciting theme would be "The Role of Language in Post-colonial Literary and Critical Discourse," which would compare works of the African or Indian diaspora and those treating these events by European colonial period writers. Course Objectives: The objectives of this course are the same as the objectives of all literature courses: to increase the students' capacity to understand creative works and to grow intellectually and emotionally from the experience of reading great works. This naturally includes an awareness of historical and social events in history as well as human experiences in diverse cultures and historical periods. （授業科目の概要：この授業では、世界文学の主要テーマを取り上げ、様々なジャンルや世界文学にまたがるテーマの扱い方を学ぶ。テーマは、本学部のカリキュラムの目標や多角的アプローチに沿うものより選択される。学生は、推薦された作品を、グローバルな考え方、文学スタイル、哲学的視点という観点から読んでいく。一例として考えられるテーマは、「魔術的リアリズムの作品における現実と幻想」である。このテーマのもとでは、カート・ヴォネガットの『猫のゆりかご』、村上春樹の『世界の終わりとハードボイルド・ワンダーランド』、ガブリエル・ガルシア＝マルケスの『百年の孤独』、Camera Laye の『王の輝き（*The Radiance of the King*）』、ホルヘ・ルイス・ボルヘスの『ボルヘスとわたし』等の世界の偉大な作家や詩人による短編小説や詩の一部もしくはその全てを読むことになる。批評家によっては、これらの作品の全てが「魔術的リアリズム」であるとは考えない者もいるだろうということは強調しておくが、これこそがこの授業における学生にとっての大きな挑戦である。つまり、作品がどのように関係し合い、もしくは異なるのかを自分自身で結論付けるということである。もう一つ興味深いテーマとなりうるのは、「植民地独立後の文学、及び批判的ディスコースにおける言語の役割」である。このテーマのもとでは、アフリカ人やインド系ディアスポラによる作品と、ヨーロッパ植民地時代の作家によるディアスポラを取り扱った作品の比較を行うことが考えられる。 授業科目の目的：本授業の主な目的は、すべての文学科目と共通したものである。クリエイティブな作品に対する理解力を高め、優れた作品に触れることから知性と感性両方における成長を目指す。これには古今を通じた歴史的および社会的出来事、および異なる文化や歴史的時期における人類の体験に対する認識が含まれる。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Humanities（人文教養）	Language Arts（英語）	Comparative Literature Studies （比較文学研究）	Course Description: In *Comparative Literature Studies* we will examine literature and art from Japanese and Western writers that examine a central theme prominent in world literature, especially that of Japan. For example we may select works considered "postwar," in both the temporal and thematic sense, covering a selection of responses to World War II by both Japanese and Western writers and artists. We will encounter novels, plays, short stories, poems, essays, films, photographs, dance pieces, and a graphic novel as we consider reactions to and representations of the war, published over the past sixty-five years. While we will begin with a focus on responses to the Holocaust and the atomic bombs dropped on Hiroshima and Nagasaki, we will also read depictions of wartime experience that lie outside of these two pivotal events. Students will be asked to complete frequent writing assignments as we work together as a class to articulate the questions raised by these harrowing readings and viewings, with a particular focus on issues of trauma and memory, as well as the role of ethical responsibility that we may bear as readers and viewers. In addition to these shorter assignments, students will be required to write a final, ten-page research paper that deals with at least one text covered in the course, and at least one outside of it. Course Objectives: The main course objective is the growth of students' abilities to understand complex literary works, their social context and the human condition as it is revealed through the imaginative story-telling, poetic expressions or dramas the students must read in the course. By studying works in a comparative context, students learn a number of valuable critical thinking skills, ranging from linguistic awareness to profound cultural aspects of literary works. （授業科目の概要：この授業では、日本と西洋の作家の文学・芸術について分析する。世界の文学の中でも、特に日本文学において際立って中心的なテーマを研究するものを扱う。例えば、日本と西洋の作家・芸術家の第二次世界大戦への反応を内容とした、世俗的及びテーマ的な意味における「戦後」の作品を選定することが考えられる。戦争に対する反応や描写を考察する際には、過去65年間の小説、演劇、短編物語、詩、エッセイ、映画・ドキュメンタリー、写真、舞踏作品、グラフィック・ノベルなどを用いる。まずは、ホロコーストや広島・長崎に投下された原子爆弾に関する反響に焦点をあてつつ、これらの極めて重要な出来事の外に置かれた戦時中の体験を描写する作品も扱う。 学生には、このような悲惨な内容の本や作品から浮かび上がる問題点を明確化する授業での取り組みをもとに、トラウマや記憶の問題、さらには読者である我々が負う倫理的責任に着目したライティング課題の提出が頻繁に求められる。これらの比較的短いライティング課題に加え、授業内で扱った作品及び扱っていない作品をそれぞれ最低１つずつ取り上げて10ページの学期末リサーチ・レポートを書くことが求められる。 授業科目の目的：本授業の主な目的は、課題として読む創意に富んだ物語、詩的表現ないしは戯曲などの文学的作品を通じて明らかになる文学作品の複雑さ、およびそれらの作品の社会的背景や人間の状況を理解する能力の向上である。相対的な文脈においてこれらの作品を学ぶことで、学生は言語学的認識から文学作品の広範な文化的要素に至るまで、様々な重要な批判的考察のスキルを身につけることができる。）	
		Creative Writing Across Genres （領域横断型クリエイティブ・ライティング）	Course Description: *Creative Writing Across Genres* provides an opportunity for students to write creatively across *genres,* choosing at least two of the following: poetry, plays, fiction, or creative non-fiction essays, such as autobiography or travel writing. Works could be conceived as part of longer projects, such as a novel or book of poems but at least two of the *genres* listed above should be attempted during the course. Also part of this course would be a public reading of works produced toward the end of each term. Multi-media works are also encouraged, blending literature with music, stage performance, or the visual arts of drawing, painting or photography. Students will also be asked to read from selected works during the course. Course Objectives: Objectives of this course are to provide a student opportunities to write creatively in several chosen disciplines: poetry, fiction, drama, and/or creative nonfiction. The course is developmental and therefore aims primarily at encouraging young writers with a talent and interest in creative writing across disciplines. （授業科目の概要：この授業では、詩、戯曲、フィクション、自叙伝や旅行記などのクリエイティブ・ノンフィクション・エッセイのうち、最低２つの領域を選び、異なる領域にまたがって創造的な作文を書く機会を与える。これは、小説や詩集のような比較的長文の課題の一部として取り組むことも可能だが、その場合でも上述の領域のうち最低２つの領域に挑戦することが必要となる。 また、この授業の一環として、学期末に向けて取り組んだ作品の朗読会を行う。音楽、舞台演技や、デッサン、絵画、写真等の視覚芸術を文学と融合させるなど、多様な情報伝達媒体を用いた作品も奨励される。以上に加え、学生は教員が選んだ作品のリーディングも行う。 授業科目の目的：本授業の目的は、学生に対し、詩、フィクション、戯曲、クリエイティブ・ノンフィクションなどといった異なる分野より、各自が選択した内容でクリエイティブに書く機会を与えることである。また、本授業は、主として分野を超えたクリエイティブ・ライティングに関心を持つ才能ある若手のライターの成長を促すことを目的に据えている。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Humanities（人文教養）	Language Arts（英語）	Advanced Expository Writing （英作文上級）	Course Description: *Advanced Expository Writing* is designed to provide writing instruction and experience for students who elect to refine their basic writing abilities beyond the Composition 2 or Expository Research Writing levels. The themes and genres within expository writing are flexible and depend on teacher and student interests, but this course is essentially a workshop for student writers at an advanced level. The goal is for students to produce 2000 to 3000 words of refined writing covering at least three different writing projects during the course, though flexibility will be extended to students who have clear ideas and reasons to deviate from this general expectation. One outcome of the course might include a mini-journal publication of works written during the term and perhaps combined with works from other writing classes in the Language Arts area. Generally, the course will not require a documented academic research paper but would fall into the category of creative non-fiction, though students wishing to write academic papers may do so with permission of the instructor. Course Objectives: The main objective of this course is to improve writing skills in areas the student finds most interesting and useful, especially creative nonfiction but more academic writing if this is the student's chosen focus of attention in the course. （授業科目の概要：この科目では、「英作文２」又は「リサーチ・ライティング」より上のレベルのライティング力を磨きたい学生のために、ライティング指導及び実践の機会を与える。この授業で取り上げるテーマと分野はフレキシブルであり、教員と学生の関心に委ねられるが、基本的には高いレベルのライティング・スキルを有する学生のための授業となる。この授業の目標は、最低３つのライティング課題を含む、2,000 語から 3,000 語の長さの精巧な作文を完成させることであるが、明確なアイデアと理由がある学生には原則に留まらない柔軟性を認める。この授業で学生が書いたものと他の英語科目からの作文とを合わせ、授業の成果として小雑誌を発行することも考えられる。原則的に、この授業では、クリエイティブ・ノンフィクションの分類に入る作文を課題とし、学術的研究論文を求めるものではないが、希望する学生は教員の許可を得た上で学術論文を書くことも可能である。 授業科目の目的：本授業の主な目的は、学生自身がもっとも興味を持ち且つ有益であると考える分野におけるライティング能力の向上を図ることである。中でもクリエイティブ・ノンフィクションに特化した内容であるが、受講する学生が希望する場合は、より学術的なライティングに焦点を置くことも可能である。）	
		English Communication for the Workplace （職場での英語コミュニケーション）	Course Description: This course will provide students with practical writing skills for communicating with other people in the workplace, businesses, schools, and other institutions, where effective and appropriate professional interaction in English is required. Both writing and speaking skills will be modeled, practiced and evaluated. The course will combine what is often taught in technical writing courses with the content and activities often taught in speech communication courses or presentation courses. Some of the writing topics and practices including writing formal reports, writing appropriate emails, writing minutes and summaries of meetings, writing proposals and the like. Some of the speaking topics and activities include communicating in English on the phone or by Skype, communicating in group meetings, giving oral presentations with Power Point or some other presentation methodology. The main focus of this course is provide practical guidelines and practice for effective writing and speaking in professional contexts, which requires not only clear and logical organization of content, accurate grammatical usage, clear articulation of words and sentences, but also proper register that reflect appropriate degrees of politeness, formality and informality. Course Objectives: The main objective of this course is to prepare students to communicate effectively in both writing and speaking in various professional contexts. In order to do this, students will also strive to achieve the following: (1) Learn the forms and proper register for writing emails, reports, and formal proposals, business letters, and the preparation of letters of introduction to accompany Curriculum Vitae for job applications; and (2) Learn the forms and proper register for telephone communication, greetings and introductions, and formal and informal presentations. （授業科目の概要：本科目を通して、学生は職場やビジネスの場、各種学校、その他の機関等、英語による効果的かつ適切なコミュニケーション能力が要求される環境に対応しうる実践的なライティング技法を身につけるようになる。ライティング、スピーキングとも、示される模範形式を基に練習・実践を行い、それらが評価される。授業は、技術文書作成の授業の内容と、スピーチ・コミュニケーション及びプレゼンテーション技術等の授業で扱われる内容・活動を統合する形で行われる。ライティングに関しては、正式な報告書、適切な電子メール文書、会議等の議事録や要約、及び提案書等の文書を作成する。スピーキングに関しては、電話やSkype、グループ会議における英語コミュニケーション、及びパワーポイントを用いての口頭発表や、その他の手段を用いた英語でのプレゼンテーションを実践する。職場環境でのコミュニケーションは、明瞭かつ論理的な内容構成や語句・文章レベルでの文法的な正確さだけではなく、妥当な丁寧さの度合いや公式・非公式の別などを反映して、適切な言語形式を用いることが要求される。そのため、本科目は、職場で効果的なライティングとスピーキングを行う上で必要な実用的指針と実践を提供することを主眼としている。 授業科目の目的：本科目の主な目標は、さまざまな職場環境で、効果的にコミュニケーションをとるうえで必要となるライティングとスピーキング両方の能力を学生に身につけさせることである。そのために、学生には次の事項を学ぶことになる。（１）電子メール文書、報告書、正式な提案書、業務用書簡、履歴書に添える紹介文等を作成する際の立場や親疎を反映した適切な言語形式。（２）電話等でのコミュニケーション、挨拶及び自己紹介、及び公式・非公式なプレゼンテーションを行う際の立場や親疎を反映した適切な言語形式。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Humanities（人文教養）	Language Arts（英語）	Seminar (Language Arts) （英語演習）	（文学、担当教員：RECORD, Kirby Alison；レコード、カービー・アリソン） Course Description: This course is an intensive course covering topics in literature and fields related to literary study. It is wide-ranging across the literary genres of poetry, fiction and drama and will introduce a variety of approaches to the study of literature from varied cultures. Students can choose their topics freely from a concentration on the work of a particular author, to a thematic approach that covers more than one author, and also historical themes such as postcolonial literature dealing with European and the so-called "Third World" literatures of India, Africa or the Caribbean. The first half of the course will be spent reading and discussing various literary themes based on student interests. The second half will focus on the student projects in detail and will often consist of student presentations of various stages of their work on their seminar paper. Attendance of the seminar sessions is mandatory and will constitute a significant part of the course grade. Possible topics include: the writings of Paul Bowles, expatriate American, comparison of European and African/Indian postcolonial works, metaphors in works of magical realism, language use in the poetry and fiction of Paul Auster etc. Course Objectives: The main objective of the course is to guide students' own exploration of an area of interest in language and literature, to teach them how to do independent research, to analyze and synthesize information, and to respond to scholarly texts in a critical and informed manner. （授業科目の概要：この授業では、文学や文学研究に関連する分野を集中的に学ぶ。詩、小説、戯曲などの幅広い文学ジャンルを扱い、多様な文化を背景とする文学へのアプローチの方法について導入を行う。学生は、一人の作家に焦点をあてたものから複数の作家にまたがって一つのテーマを追求するもの、さらにはヨーロッパを題材にした植民地独立後の文学や、いわゆる「第三世界」と呼ばれるインド、アフリカ、カリブの文学などの歴史的テーマを追求するものまで、各自が自由にテーマを選択する。前半では、学生の関心に基づいて様々な文学的テーマについての読書とディスカッションを行う。後半では、学生の卒業研究をきめ細かく指導することに重点を置き、卒業研究の各段階における内容を発表するプレゼンテーションを行う。本授業への出席は必須であり、成績評価に大きく反映される。テーマの候補としては、在外アメリカ人作家ポール・ボウルズの作品、ヨーロッパとアフリカ、インドの植民地独立後の作品、マジック・リアリズムの作品における比喩的表現に関するもの、またポール・オースターの詩や小説における言語使用について等が考えられる。 授業科目の目的：本授業の主な目的は、言語と文学の分野において学生自身が行う調査の指導であり、具体的には自ら研究する方法の教授、情報の分析と総合、および学術的テキストに対する批判的かつ情報に基づいた対応である。）	
			（言語学、担当教員：OLAGBOYEGA, Kolawole Waziri；オラグボイエガ、コーラウォール・ワジリ） Course Description: This seminar will focus on issues related to language and its many interdisciplinary aspects. The student might write on any topic that is normally covered in linguistics or applied linguistics studies. Among these include language acquisition, sociolinguistic concerns with language and society, dialects, formal and informal approaches to grammar, vocabulary and meaning, universal grammar and its theoretical and practical implications etc. The course will be structured in the first half around lectures and discussions of readings on relevant topics. One of the main purposes of the course will be to help students select their research topic that will continue into the second half. The second half will focus on the student projects in detail and will often consist of student presentations of various stages of their work on their seminar paper. Attendance of the seminar sessions is mandatory and will constitute a significant part of the course grade. Course Objectives: The main objective of the course is to guide students' own exploration of an area of interest in language and literature, to teach them how to do independent research, to analyze and synthesize information, and to respond to scholarly texts in a critical and informed manner. （授業科目の概要：この授業は、言語に関連する諸問題や言語の学際的側面に焦点をあてる。学生は、言語学や応用言語学で通常取り扱われるテーマについて論文を書くことも可能であり、テーマとしては、言語習得、言語と社会に関する社会言語学的諸問題、方言、文法・語彙・意味の形式的手法と口語的手法、普遍文法とその理論的・実践的意味合いについてなどが考えられる。 授業前半では講義と関連テーマの読書に基づいたディスカッションを中心に行う。ここでの主目的は、学生が後半に続く自らのリサーチ・テーマを選択するサポートを行うことである。後半では、学生の卒業研究をきめ細かく指導することに重点を置き、卒業研究の各段階における内容を発表するプレゼンテーションを行う。本演習への出席は必須であり、成績評価に大きく反映される。 授業科目の目的：本授業の主な目的は、言語と文学の分野において学生自身が行う調査の指導であり、具体的には自ら研究する方法の教授、情報の分析と総合、および学術的テキストに対する批判的かつ情報に基づいた対応である。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Humanities（人文教養）	Japanese Language（日本語研究）	Elementary Japanese 1 （日本語初級１）	This course is for students who have no knowledge of Japanese language, aiming to acquire the four language skills (i.e. Speaking, Listening, Reading, and Writing) for basic/elementary level and to gain basic communication skills in Japanese. Students will familiarize themselves with the Japanese sound system first and learn hiragana/katakana. Approximately 70 kanji will be introduced throughout the course. Students will practice basic patterns and forms of greetings, self-introduction, speech-act expressions (e.g. request, permission, apology etc.). They will also learn how to formulate basic interrogatives, to describe people and objects, to expresses basic emotions, to compare things, and to state past and future events in a simple manner. They will learn and deepen their understanding of some aspects of Japanese culture simultaneously. （授業科目の概要及び目的：日本語未習学習者を対象としたコース。初級レベルにおける基礎的な４技能（話す・聞く・読む・書く）の習得と、日本語による基本的なコミュニケーション能力の獲得を目指す。まず日本語の音に慣れ、次にひらがな／カタカナ、その後約70字の基本漢字を学ぶ。基本的な挨拶や自己紹介、基本的な発話行為表現（依頼、許可、謝罪など）、基本的な疑問文の生成、基本的な人・物の描写、基本的な感情表現、基本的な比較表現、基本的な未来及び過去の描写、等を学ぶ。同時に、日本文化についての知識を深める。）	
		Elementary Japanese 2 （日本語初級２）	This course is for the students who have completed Elementary Japanese 1 at this department or the equivalent level elsewhere. Approximately 90% of class instruction and interaction will be conducted in Japanese with occasional English explanations when necessary. Students will expand their knowledge and enhance their language skills on top of what they learnt in Elementary Japanese 1 or equivalent as well as improving their communication skills. They will learn basic grammatical structures and situational/functional expressions used in introducing their countries, ordering food at a restaurant, booking a room at a hotel or a seat at a restaurant, and shopping at various shops. In addition, they will become able to state what they can do and what they cannot, and also give advice and suggestion to their friends. In this course, approximately 100 new kanji will be introduced. They will learn and deepen their understanding of some aspects of Japanese culture simultaneously. （授業科目の概要及び目的：本学部で「日本語初級１」を終了した学習者、あるいはそれと同等の日本語力を有すると認められた学習者を対象としたコース。授業の約 90%は日本語で行われ、適宜英語が用いられる。「日本語初級１」で学習した内容の拡張に加え、コミュニケーション能力の伸長を目指す。出身国・出身地域の紹介や、外食時の注文、ホテルやレストランの予約、買い物の際に必要な語彙・文型・表現を学ぶ。また、自分ができること・できないことを述べること、友人などへのアドバイスや示唆を与えること等ができるようになる。このレベルでは、新たに約100字の漢字を学ぶ。同時に、日本文化についての知識を深める。）	
		Elementary Japanese 3 （日本語初級３）	This course is for students who have completed Elementary Japanese 2 at this department or the equivalent level elsewhere. Approximately 90% of class instruction and interaction will be conducted in Japanese with occasional English explanations when necessary. This course aims at acquiring more accurate and creative use of the language based on what they learnt in Elementary Japanese 1 and Elementary Japanese 2, as well as improving their communication skills. Students will learn more complex grammatical structures such hearsay/indirect speech, passive, causative, causative-passive, and basic honorific expressions as well as approximately 100 new kanji, which helps students' smooth transition to a lower intermediate level. They will also learn and deepen their understanding of some aspects of Japanese culture simultaneously and present their ideas and findings based on their own study and research of Japanese culture. （授業科目の概要及び目的：本学部で「日本語初級２」を終了した学習者、あるいはそれと同等の日本語力を有すると認められた学習者を対象としたコース。授業の約90%は日本語で行われ、適宜英語が用いられる。「日本語初級１」及び「日本語初級２」の学習内容を再確認し、それを基により正確で創造的な日本語運用力とコミュニケーション能力の伸長を目指す。このレベルでは、伝聞、受動、使役、使役受身、基本的な敬意表現などの複雑な項目、また新たに約 100 字の漢字が導入され、初中級レベルへのスムーズな移行が図られる。日本文化についての知識を深めると同時に、興味・関心がある点について調査し、発表する。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Humanities（人文教養）	Japanese Language（日本語研究）	Intermediate Japanese 1 （日本語中級１）	This course is for students who have completed Elementary Japanese 3 at this department or the equivalent level elsewhere. Approximately 95% of class instruction and interaction will be conducted in Japanese. Based on what they learnt in the elementary levels, the students will learn lower intermediate level grammar, situational/functional expressions, and vocabulary and aim to improve their communication skills using these elements appropriately. Students are expected to read and listen while considering the writer/speaker’s intentions and to state their own opinions based on their interpretations of them. In addition, they will start to have a solid understanding of different speech levels determined by socio-cultural factors. Students will deepen their understanding of Japanese culture through discussions on certain cultural topics. （授業科目の概要及び目的：本学部で「日本語初級３」を終了した学習者、あるいはそれと同等の日本語力を有すると認められた学習者を対象としたコース。授業の約95%は日本語で行われる。初級レベルで学習したことを基に、このコースでは、初中級レベルの文法、表現、語彙を学び、それらを適切に運用するための４技能と、コミュニケーション能力の伸長を目指す。また、筆者・話者の意図を理解しながらの読み／聞きができ、それらに関して自分の意見を述べることができるようにする。さらに、基本的な待遇表現を適切に使用する意識を定着させる。日本文化に関するテーマの議論を通して、その理解を深める。）	
		Intermediate Japanese 2 （日本語中級２）	This course is for students who have completed Intermediate Japanese 1 at this department or the equivalent level elsewhere. More than 95% of class instruction and interaction will be conducted in Japanese. Based on what they learnt in Intermediate Japanese 1, students will learn upper intermediate level grammar, situational/functional expressions, and vocabulary. They are expected to become able to follow Japanese discourse while reading and listening, and also to state their opinions in both written and verbal forms on the basis of facts and their understandings. Throughout the intermediate levels, approximately 800 kanji will be introduced, which, together with intermediate grammatical items, vocabulary and cultural knowledge, helps the students’ smooth transition to an advanced level. Students will deepen their understanding of Japanese culture through discussions on certain cultural topics. （授業科目の概要及び目的：本学部で「日本語中級１」を修了した学習者、あるいはそれと同等の日本語力を有すると認められた学習者を対象としたコース。授業の約 95%以上は日本語で行われる。「日本語中級１」までに学んだことを踏まえ、中級後半の文法・表現・語彙を学び、日本語の論理展開を読み取る／聞き取ることができるようになる。また、根拠をあげて自分の意見を記述／口頭発表することができるようになる。中級１から中級２の終了時までには、約 800 の中級漢字を学び、日本語上級へのスムーズな移行を目指す。日本文化に関するテーマの議論を通して、その理解を深める。）	
		Advanced Japanese （日本語上級）	授業科目の概要及び目的：本学部で「日本語中級２」を修了した学習者、あるいはそれと同等の日本語力を有すると認められた学習者を対象としたコース。このレベルでは、「日本語中級２」までに学んだ日本語能力を基に、さらに高度な４技能の習得を目指す。授業は 100%日本語で行われる。教材は、上級レベルの日本語教科書に加え、新聞記事、小説、漫画、Web サイト等から、学習者の知的関心を引く題材を選び、テーマごとに口頭・記述による意見発表、及びクラス内でのディスカッションを中心に授業を進行する。同時に、上級レベルの文法・語彙・表現を用いたコミュニケーション能力の育成、及び日本語能力試験 N2 相当レベルへの到達を目標とする。 その他：本授業は、全て日本語で行う。	
		Professional Writing in Japanese （社会人としての日本語作文）	授業科目の概要及び目的：日本人学生と一部の上級以上の日本語学習者を対象にしたコース。アカデミックライティングをはじめ、様々な場面で社会人として通用する文章技法を学ぶ。定型表現を適切に使用する練習や、各種文書のテンプレートを利用し、適切な情報を記入する練習も含む。このコースでは、文法的に正確な文章の作成はもとより、ビジネス環境における依頼・断り・謝罪など、受講者が将来遭遇する可能性が高い場面で、社会文化的に適切は文書作成ができるようになることを目指す。また、各種文書の作成後、学生３～５人で構成する小グループ内での相互評価を行い、その結果を発表する。この手法により、学生がさまざまな文章・文体を分析する機会を得るとともに、そこでの気づき・学びを自らの文章作成に反映させることができる。 その他：本授業は、全て日本語で行う。	
		Reading Japanese Newspapers （日本語新聞読解）	授業科目の概要及び目的：本学部の「日本語上級」を履修中、またはそれと同等の日本語能力を有すると認められた学習者のためのコース。新聞記事をテキストに、話題になっているニュースや時事問題について、日本語で理解する力を養う。「日本文化・日本事情」の授業という趣旨も持ち、文法事項や語句の解説・使い方の練習も適宜加える。また、新聞記事を材料に、一つのテーマでいくつかの記事を読み、それらに関して議論することによりアカデミック・スキルやディスカッションの際の表現などの習得も目指す。さらに、文章の難易度や読む目的に合わせて適切な読解ストラテジーを選択し、内容を把握できるようになることを目指す。 その他：本授業は、全て日本語で行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Humanities（人文教養）	Japanese Language（日本語研究）	Public Speech in Japanese （日本語スピーチ）	授業科目の概要及び目的：本学部の「日本語上級」を履修中、またはそれと同等の日本語能力を有すると認められた学習者のためのコース。既習事項を基に、上級レベルの文法・語彙・表現、及び未習事項も適宜導入しながら、口頭発表能力の向上を目指す。日本語の話し言葉としての特徴（間の取り方、発音、イントネーション等）をより深く理解するとともに、聞き手に分かりやすく伝えるための方法など、パブリック・スピーチ全般についても考察する。また、様々なジャンルの読み物の音読、朗読、群読を取り入れることで、総合的な口頭表現能力を身につける。 その他：本授業は、全て日本語で行う。	
		Workshop: Experiencing Teaching Japanese （ワークショップ：日本語教育体験／観察）	授業科目の概要及び目的：日本人学生と一部の上級以上の日本語学習者で、日本語教育に関心がある者を対象にしたコース。日本人学生は初級１から上級、上級以上の日本語学習者は、初級１から中級２までの日本語コースを参観し、日本語が「外国語」としてどのように教授されているかを学ぶ。日本人学生は、母語である日本語について暗示的知識（implicit knowledge）は獲得しているが、それを明示的に説明できない場合が多い（例：「東京に行く」「東京へ行く」の「に」と「へ」、「公園でゴミを捨てる」「公園にゴミを捨てる」の「で」と「に」の違い等）。本ワークショップを受講することで、日本語を客観的に見直すとともに明示的知識（explicit knowledge）の獲得を目指す。上級以上の日本語学習者は、既習項目を復習するとともに、「教える」という視点から日本語を捉えることでさらに深い言語形式の理解を目指す。 なお、本ワークショップは「教える」という視点を中心に学ぶという観点から、他のワークショップと異なり演習による座学授業を中心として、日本語教育に関する授業の参観等を織り交ぜながら行う。このため、授業は毎週１時限、15 週として実施する。 その他：本授業は、全て日本語で行う。	
	Arts（芸術）	Art Appreciation （美術鑑賞）	Course Description: The course has four objectives: First, it introduces the vocabulary and concepts, principles and elements of design, color theory, and so forth, enabling an articulate discussion of art. Second, it introduces various types of art and artists, and their roles in society and religion, both historically and contemporarily. Third, it introduces basic studio terms and techniques used in printmaking, sculpture, ceramics, painting, etc. Fourth, it introduces concepts and methods toward making critical judgement for assaying the merits of various works of art. During the lectures many important works of art are introduced as exemplars. However, the purpose is not to memorize famous names, rather, to learn to appreciate and evaluate all art works, famous or not. Evaluation is through final examination and final critical essay. Course Objectives: At the end of this course, students should be able to: (i) demonstrate a reasonable command of the terms and concepts of art in critical discussion, (ii) identify principle roles and purposes of art in society, (iii) identify the techniques and terminology of various media, (iv) make informed descriptions and critiques of various works, both famous and unknown. （授業科目の概要：この授業には４つの目標がある：第一に、美術用語とコンセプト、デザインの原理と要素、色彩理論について紹介し、美術についての明確なディスカッションができるようにする。第二に、さまざまな種類の美術作品と芸術家、社会と宗教におけるそれぞれの役割を歴史的・現代的な観点から紹介する。第三に、版画、彫刻、陶芸、絵画などに関して使用されるアート・スタジオの基本的用語と技術を紹介する。第四は、さまざまな美術作品の価値を分析して批評するためのコンセプトと方法論を紹介する。講義の間、数多くの重要な美術作品の例を紹介するが、有名な芸術家や作品の名称を覚えるのではなく、作品の有名・無名を問わず、あらゆる作品の鑑賞・評価ができるようになることを目標とする。評価は筆記試験と期末評論レポートで行う。 授業科目の目的：本授業終了後、学生は以下を達成することが期待される。（1）美術用語とコンセプトを適切に用いて批評的なディスカッションを行う。（2）社会における美術の基本的役割と目的を識別する。（3）さまざまなメディアで使用されている技術と用語を識別する。（4）有名・無名を問わず、得られた情報に基づいてさまざまな作品の説明と批評を行う。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Humanities（人文教養）	Arts（芸術）	History of Western Art （西洋美術史）	Course Description: This survey course covers the development of western art from the bronze age and Mesopotamia through the 19th Century. While the course pivots around various iconic images whose identification is required, the course focuses upon the social, political, religious, and scientific developments which shaped the evolution of western art. Evaluation is through final written examination and research paper. Course Objectives: At the end of this course, students should be able to identify a number of iconic images of western art, specifically noting why that work is important in terms of the social/ political/ religious/ technological developments of the period, specifically noting how the art work encapsulates those developments. （授業科目の概要：この概説科目では青銅器時代、メソポタミアから19世紀までの西洋美術の発展について取り上げる。さまざまな象徴的イメージを中心に進めていく上で、そのイメージを識別する必要があるが、同時に、西洋美術の進化を形成した社会的、政治的、宗教的、科学的な発展に焦点を置く。評価は期末筆記試験と研究レポートで行う。 授業科目の目的：この授業科目の終了時、学生は、西洋美術の多数の象徴的イメージについて識別できるようになり、時代の社会的・政治的・宗教的・技術的発展の観点からその作品がいかに重要であるか、また、これらの発展がいかに作品に象徴されているかについて具体的に説明することができるようになる。）	
		Japanese Art （日本美術）	Course Description: This survey course introduces the aesthetics of Japanese art, architecture and traditional crafts. While the course provides a chronological approach as a historical framework, and covers master works from the Nara, Heian, and Kamakura periods, the course focuses upon work from the Momoyama period onward, that is, the fully developed traditional Japanese aesthetic. Beyond the identification of iconic images, salient architectural features and objects such as those used in the tea ceremony, the course includes writings regarding Japanese aesthetics by Tanizaki, Okakura, and Hearn, among others. Evaluation is through final written examination and research paper. Course Objectives: At the end of this course, students should be able to: (i) identify a variety of Japanese artwork and architecture by type, use, and period, (ii) explain general principles of Japanese aesthetics using the proper terms, (iii) ask informed questions and express reasoned opinions regarding unknown works, and (iv) demonstrate an informed appreciation for the art and architecture of traditional Japan. （授業科目の概要：この概説科目では日本の美術・建築、伝統工芸の美学について紹介する。この科目では歴史的枠組みとして編年的手法をとり、奈良・平安・鎌倉時代を代表する名作を取り上げるが、中でも桃山時代以降の作品、すなわち、完成度を極めた日本の伝統的な美学に重点を置く。この科目では、象徴的イメージ、顕著な建築学的特徴、茶道で使われるようなオブジェを識別する上、谷崎潤一郎、岡倉天心、ラフカディオ・ハーンなどによる日本美学に関する著述も含まれる。評価は期末筆記試験と研究レポートで行う。 授業科目の目的：本授業終了後、学生は以下を達成することが期待される。（1）日本のさまざまな美術作品と建築物の種類・用法・時代を識別する。（2）適切な用語を用いて日本美学の一般原則を説明する。（3）無名の作品に関して、情報に通じた質問をし、熟考した意見を述べる。（4）日本の伝統的な美術と建築について、情報に基づいた鑑賞を行う。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Humanities（人文教養）	Arts（芸術）	Traditional Japanese Handicraft （日本の伝統的手工芸）	Course Description: This course focuses upon traditional Japanese crafts common to life in rural Japan such as ceramics, lacquer, weaving, dyeing, carpentry, and blacksmithing, and specifically the terms, tools, techniques, uses and lore peculiar to each. While ostensibly a lecture course, there is field research, demonstrations, and hands on projects as well. Students will individually research a specific craft, concluding by making a presentation/demonstration, teaching to the others some command of tools, techniques, terms and concerns of that specific craft tradition before the class. Course Objectives: At the end of this course, the student should be able to: (i) demonstrate a reasonable command of the general terms and techniques of a variety of Japanese crafts covered during the semester through a written exam, (ii) demonstrate a specific command of tools, techniques, terms and concerns of one specific craft tradition. （授業科目の概要：この科目では、日本の農村部の生活に密着する伝統工芸（陶芸、漆器、織物、染色、木工、鍛冶など）について学習する。特に、それぞれの工芸に特有な用語、工具、用途、知識に重点が置かれる。講義形式の科目であるが、実地調査、実演、実践プロジェクトも含まれる。学生は特定の工芸について自主研究し、特定の伝統工芸についてプレゼンテーション・実演を行い、工具の使用方法、技術、用語、懸念事項について他の学生に教える。 授業科目の目的：本授業終了後、学生は以下を達成することが期待される。（1）学期中に学習したさまざまな日本工芸の一般用語と技術に関する適正な能力を筆記試験において示す、（2）１つの特定の伝統工芸について、工具を使用する特定の能力を示し、技術、用語、懸念事項について説明する。）	
		Comparative Art Studies （比較美術研究）	Course Description: The course is a survey of world art, and its place and role in a variety of societies and ethos. More specifically, it is the study of world aesthetic traditions, historical and contemporary, exploring them through exemplary objects and images. Art and design from all major cultural traditions are covered in lecture. In addition students select a specific world art or design perspective to research, concluding with their presentation/discussion of their findings before the class. Course Objectives: At the end of this course, students should be able to: (i) identify and compare the salient features of objects and images from number of aesthetic and cultural world traditions, as taught through lecture, measured by examination, (ii) demonstrate and explain articulately some fundamental aesthetic principle, or societal relevance, of some specific culture foreign to them (iii) understand the historicity of globalization as seen through the spreading of arts and aesthetic traditions and the objects, images and artifacts produced with appreciation. （授業科目の概要：この科目は、世界の美術について、また、さまざまな社会と思想における美術の立場と役割の概説である。具体的には、歴史的・現代的な観点から見た世界の伝統美学の研究であり、オブジェとイメージの例を挙げて探求する。すべての主要伝統文化における美術作品とデザインを講義で取り上げる。また、学生は特定の世界の美術またはデザイン視点を選択して研究し、研究結果のプレゼンテーション・ディスカッションをクラスで行う。 授業科目の目的：この授業科目の終了時、学生には以下が達成できることが期待される。（1）講義で学習した多数の美学と文化の世界的伝統の中から、オブジェとイメージの顕著な特徴を識別・比較する（これは試験によって評価される）、（2）受講学生にとって馴染みがない特定の文化についての基本的な美学の原則、または社会的関連性について示し、明確に説明する、（3）美術や伝統美学の普及や、審美眼を持って作られたオブジェ、イメージ、工芸品を通じて見られるグローバリゼーションの歴史性を理解する。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Humanities（人文教養）	Arts（芸術）	Seminar (Arts) （芸術演習）	Course Description: The role of the seminar in art is to support the students' individual research projects. Students have the responsibility to present their research at different stages of their project. Problems and challenges experienced with the research project will be discussed in the seminar (by all participants and not only by the professor). Such discussions give the presenters an opportunity to see their research from different perspectives and to learn from the advice of peers as well as from professors. Furthermore, through such interactions students may discover how to avoid problems in their own projects. Course Objectives: At the end of this course, students should be able to: (i) know how to analyze an issue, either in form or concept, and make constructive criticism, laying and evaluating alternatives, (ii) conduct their own research projects, and (iii) write their graduation thesis. （授業科目の概要：この美術演習の役割は、学生の個々の卒業研究をサポートすることである。学生は、研究を異なる段階で発表する責任がある。卒業研究で直面した問題と課題について演習でディスカッションを行う（これは教員とだけではなく、演習参加者全員により行われる）。このようなディスカッションにより、発表者は自己の研究を異なる観点から見て、他の演習参加者や教員のアドバイスから学ぶ機会を得ることができる。さらに、このような相互作用によって、自らの卒業研究の問題を避ける方法を見出すことができる。 授業科目の目的：この授業科目の終了時、学生には以下が達成できることが期待される。（1）問題に対し、形式もしくは概念を通して分析を行う方法を理解し、代替案を用意して評価することで建設的な批評を行う、（2）自身の卒業研究を遂行する、（3）卒業論文を書く。）	
		Workshop: Drawing I （ワークショップ：絵画実習Ⅰ）	Course Description: Using brain friendly, arts-based processes, participants learn the fine craft of drawing. Since people learn best by jumping in and trying it first hand, this is an interactive course. By utilizing 5 perceptual skills, students will learn how to draw what is actually there, not what they assume is there. The class will be based on Betty Edwards' Drawing on the Right Side of the Brain workshop. Course Objectives: At the end of this course, students should be able to: (i) see the way an artist sees, with active eyes and new found perceptual skills, (ii) gain an awareness of the different approaches of perception, and (iii) be able to develop a drawing in a clear and coherent manner. （授業科目の概要：本授業では、芸術中心のプロセスで頭を働かせ、洗練されたデッサン技法を学ぶ。実践こそもっとも有効な学習法であることから、本授業は対話型実践形式で行われる。五感をフル活用し、一切の思い込みを排除し、目の前にあるものをあるがままに描く方法を学ぶ。 ベティ・エドワーズの「脳の右側で描け」ワークショップを、ベースにした授業である。 授業科目の目的：本授業終了後、学生は以下を達成することが期待される。（1）目の活発な働きと新しく発見した知覚を使って、芸術家の視点でものを見られるようになる。（2）これまでとは違う新しい知覚に対する理解を深める。（3）一貫した手法で、デッサンができるようになる。）	
		Workshop: Drawing II （ワークショップ：絵画実習Ⅱ）	Course Description: By using art as a tool, which is problem solving in action, we focus on untapping the brain's potential, increasing creative and perceptual skills, and discovering the joy of creation. Since people learn best by jumping in and trying it first hand, this is an interactive course. Students will learn how to utilize the 5 perceptual skills to delve further into abstraction and creative problem solving. Course Objectives: At the end of this course, students should be able to: (i) see the way an artist sees, with active eyes and new found perceptual skills, (ii) know how to access flow state and problem solving mode, (iii) gain an awareness of the different approaches of perception, (iv) be able to develop an idea in a clear and coherent manner, and (v) be able to apply those skills to life and business situations. （授業科目の概要：本授業では、芸術を課題解決のための道具として捉え、脳の潜在能力の伸ばし方、創造力と認知力の高め方、そして創造することの喜びに焦点を当てていく。実践こそ一番有効な学習法であることから、本授業は対話型実践形式で行われる。抽象概念と創造的な課題解決を理解するために、如何に五感を活用すれば良いかについて学ぶ。 授業科目の目的：本授業終了後、学生は以下を達成することが期待される。（1）目の活発な働きと新しく発見した知覚を使って、芸術家の視線でものを見られるようになる。（2）フロー状態と課題解決モードに達する方法を修得する。（3）これまでとは違う新しい知覚に対する理解を深める。（4）一貫した手法で、考えをまとめることができるようになる。そして、（5）こうしたスキルを人生や仕事に応用させることができるようになる。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Humanities（人文教養）	Arts（芸術）	Workshop: Sculpting I （ワークショップ：彫刻実習Ⅰ）	Course Description: This course introduces 3D design and production of sculpture and such objects using direct methods of carving, construction, and forming; students produce a finished work in each during the semester, evaluated during four group critiques. In addition, there are weekly lectures regarding the history and seminal artists in modern sculpture and various movement, and presentations of various techniques, terminology, tool safety, etc., for which students are, along with assigned readings, measured by final written exam. Course Objectives: As a result of the course, students should (i) develop problem solving skills in three dimensional design, (ii) learn to adapt that which is at hand, (iii) appreciate technology and materials appropriate to the purpose, (iv) have a broad understanding of the principle forces, artists, and works of sculptors of the past century, and (v) have an enriched appreciation of the form and content of man made objects and sculpture. （授業科目の概要：この科目では、彫刻、建造、成形という直接的な手法により、彫刻やオブジェの3Dデザインと制作を行う。各学生は学期中に作品を制作し、４回のグループ批評会により評価される。さらに、現代彫刻の歴史と影響力のある彫刻家や、さまざまな運動に関する講義に加え、多様な技術、用語、工具の安全性などのプレゼンテーションを毎週行う。これらの内容の知識を評価する期末試験と、課題リーディングで学生評価を行う。 授業科目の目的：この授業科目の終了時、学生には以下が達成できることが期待される。（1）3D デザインの問題解決能力を養う、（2）手元にあるものを適合させることができるようになる、（3）目的に合った技術と素材の適切性を評価する、（4）前世紀の原理の力、芸術家、彫刻作品を幅広く理解する、（5）人造のオブジェと彫刻のフォルムと内容について豊かな審美眼を養う。）	
		Workshop: Sculpting II （ワークショップ：彫刻実習Ⅱ）	Course Description: This course continues 3D design and production of sculpture and such objects using the indirect methods of mold making and casting, with focus toward traditional Japanese methods in metals; students produce several finished works in different materials and processes during the semester, evaluated during four group critiques. In addition, there are weekly lectures regarding the history, techniques, and lore of casting methods from around the traditional world, with focus upon East Asian casting, and appropriate application for making art. There will be weekly presentations of various techniques, terminology, tool safety, etc., for which students are examined. Course Objectives: As a result of the course, students should (i) have some command of the physics, mathematics and problem solving skills in three dimensional design, specifically in designing and making molds and casting, (ii) learn to adapt that which is at hand, (iii) appreciate technology and materials appropriate to the purpose, (iv) have a clear understanding of the principles of casting, particularly in historical Japan, and (v) have an enriched imagination for, and appreciation of, the form and content of cast objects and sculpture. （授業科目の概要：この科目は、型作りと鋳造という間接的な手法により、彫刻やオブジェの3Dデザインと制作を、特に日本の伝統的な金属鋳造法に重点を置いて行う。学生は学期中に、異なる素材と工程を用いて作品を数点、制作・完成し、４回のグループ批評会により評価される。さらに、世界各地、特に東アジアの鋳造法に重点を置いた伝統的な鋳造法の歴史、技術、知識に関して、また、美術品を制作するための適切なアプリケーションに関しての講義を毎週行う。さまざまな技術、用語、工具の安全性などについて毎週プレゼンテーションを行い、これらの内容の知識を評価する試験を行う。 授業科目の目的：本授業終了後、学生は以下を達成することが期待される。（1）特に型のデザインと形成、鋳造に関して、3Dデザインの物理的、数学的表現能力と問題解決能力を養う、（2）手元にあるものを適合させることができるようになる、（3）目的に合った技術と素材を評価する、（4）鋳造法の原則、特に日本で過去に使われた鋳造法の原則について明確に理解する、（5）鋳造オブジェと彫刻のフォルムと内容について、豊かな創造力と審美眼を養う。）	
		Workshop: Traditional Japanese Culture （ワークショップ：日本の伝統的文化実習）	授業科目の概要及び授業科目の目的：本科目は、日本の伝統文化の中でも最も深層といわれている茶道と、仏教に基づく供花と平安時代の花々を愛でる慣習が室町時代に融合し確立したといわれる華道を、交互に並行して学ぶことにより、日本の伝統的な文化を学術的に把握しながら実践し、身につけることを目的とする。本科目は初学者をも想定した個別指導を行うため、履修者数の上限を20人とする。授業は毎週２時限、10週にわたり実施するが、履修者を10人ずつのグループに分けて茶道・華道を並行して行い、１時限ごとの教員入替制により実施する。茶道は、千利休により大成された。茶道は、歴史をひもときつつ学んでいく。茶道は、「道」、「学」、「実」、の三つの柱から構成される。「道」とは人としての道を、「学」とは茶道の歴史を、「実」とは茶道の実技を指し、それぞれを実習を通じて包括的に学んでいく。具体的な内容は、茶席の入り方、立ち方、座り方、床の間の拝見の仕方、茶碗の持ち方、お菓子のいただき方、お茶のいただき方、お茶の点て方、お茶の運び方など、もてなしの仕方の基本になるものである。この基本を学んだ後、茶道の儀式を体験していく。このようにして、授業を終える頃には、以前と違った見違える様な自分自身に遭遇することになる。即ち、茶道を学ぶ事は、心を養うことであり、それはなりたい自分になるための第一歩につながる。 華道では、華道の歴史、技とその心得（華道語録）、華道理論を、実習を通じて包括的に学んでいくことにより、伝統文化への理解と日本の歴史観を培う。 （オムニバス方式／全２０回） （３５　鶴田宗慶（鶴田慶子）／１０回） 茶道を担当する。 （３６　鶴田一杏（鶴田信俊）／１０回） 華道を担当する。 その他：本授業は、全て日本語で行う。	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Humanities（人文教養）	Arts（芸術）	Workshop: Calligraphy （ワークショップ：書道実習）	Course Description: Brush Calligraphy (*Shodo*) is both a meditation and an art form. With roots reaching deep into Japanese and Chinese history, the art of painting characters with the brush is a venerated tradition. At the same time, *Shodo* tends to be inaccessible to foreigners because it is written in a foreign and sometimes highly cursive script. Moreover, the language barrier prevents many foreign students from accessing this art form. This course will introduce the art to foreign and Japanese students as vital art form that can help you experience Japanese culture from the inside. Students will also learn to appreciate calligraphy as an art form. Course Objectives: At the end of this course, students should become able to: (i) demonstrate basic skills in writing strokes and characters with a brush, (ii) be able to paint reasonably good copies from a model *tehon*, (iii) experience painting in each of the major styles of brush calligraphy writing, *tensho, reisho, kaisho, gyousho,* and *sousho*, (iv) understand the meaning of major *kanji* radicals, and how to use this to remember and read *kanji*, and (v) produce an original work *sousaku* of calligraphy without working from a *tehon*. （授業科目の概要：書道には芸術と精神統一の二つの面がある。書道は中国や日本の文化に深いルーツがあり、筆を使って文字を書くということは尊敬すべき伝統である。同時に多くの外国人にとっては、馴染みのない文字を高度な草書体で書くことから理解しにくく、さらには外国からの留学生には言葉の壁もあり、アプローチしにくい芸術である。本授業では、その壁を乗り越えて、書を生きた芸術形式として紹介し、日本文化を実践の中から体験することを目的とする。また履修を通して学生は、芸術としての書道の作品を鑑賞することも修得する。 授業科目の目的：本授業終了後、学生は以下を達成することが期待される。（1）基礎的な筆の使い方および文字の書き方を実演することができる。（2）手本の臨書がある程度上手く書けるようになる。（3）書の世界の篆書、隷書、楷書、行書、草書などの主な書体を知り、書くことを体験する。（4）漢字の部首の意味と書き方を学習し、漢字の学習に役立てることができる。（5）手本なしのオリジナルな創作書を書く。）	
	Performing Arts（芸能）	Western Film & Theater （西洋映画・演劇）	Course Description: This course serves as an introduction to the theoretical, social and artistic traditions which are key to an understanding of the dramatic arts of the Western stage and screen. It will allow students access to a broad range of work, across the centuries, whilst encouraging them to think about such material as part of a greater, overall understanding of Western art/society in general. Course Objectives: At the end of this course, students should be able to: (i) identify the key terms, people and traditions which are important in the history of theatre and film-making in the West, (ii) know how to access and read primary sources to adopt a critical perspective on performing art, identify the concerns and intentions of secondary sources, and develop an awareness of different approaches to make sense of such art, (iii) understand how both film and theatre is both an artistic and social construct, carrying messages that go beyond their own time or place, (iv) engage thoroughly in writing about the key moments in art history by putting forward an argument and developing it in a clear and coherent manner, and (v) learn how to articulate and refine ideas in discussions and presentations. （授業科目の概要：本授業では、欧米の演劇や映画といった芸術を理解するための基礎となる理論的、社会的、芸術的な様式について学んでいく。学生は、何世紀にも亘る様々な作品に触れることを通して、欧米の芸術や社会一般について概観できるようになる。 授業科目の目的：本授業終了後、学生は以下を達成することが期待される。（1）欧米の演劇ならびに映画製作の歴史にとって重要な伝統、主要人物、そして専門用語について理解している。（2）一次資料に触れ、演劇芸術を批判的に分析できるようになり、二次資料の持つ課題と意図を判別でき、演劇芸術の様々な手法に対する認識を深めている。（3）映画と演劇が、いずれもいかに時と場所を超えて、芸術的・社会的意味を持つかについて理解している。（4）美術史における重要な時代に関する論文に親しみ、それについて明確で一貫した議論ができる。（5）討論やプレゼンテーションで、自分の考えを明確に表現する方法を学んでいる。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Humanities（人文教養）	Performing Arts（芸能）	Japanese Film & Theater （日本映画・演劇）	Course Description: This course serves as an introduction to the theoretical, social and artistic traditions which are key to an understanding of the dramatic arts of the Japanese stage and screen. It will allow students access to a broad range of work, across the centuries, whilst encouraging them to think about such material as part of a greater, overall understanding of Japanese art/society. Course Objectives: At the end of this course, students should be able to: (i) identify the key terms, people and traditions which are important in the history of Japanese theatre and film-making, (ii) know how to access and read primary sources to adopt a critical perspective on performing art, identify the concerns and intentions of secondary sources, and develop an awareness of different approaches to make sense of such art, (iii) understand how both film and theatre is both an artistic and social construct, carrying messages that go beyond their own time or place, (iv) engage thoroughly in writing about the key moments in art history by putting forward an argument and developing it in a clear and coherent manner, and (v) learn how to articulate and refine ideas in discussions and presentations. （授業科目の概要：本授業では、日本の演劇や映画といった芸術を理解する上での基礎となる日本の理論的、社会的、芸術的な様式について学んでいく。学生は、何世紀にも亘る様々な作品に触れることを通して、日本芸術そして日本社会について概観できるようになる。 授業科目の目的：本授業終了後、学生は以下を達成することが期待される。（1）日本の演劇ならびに映画製作の歴史にとって重要な伝統、主要人物、そして専門用語について理解している。（2）一次資料に触れ、演劇芸術を批判的に分析できるようになり、二次資料の持つ課題と意図を判別でき、演劇芸術の様々な手法に対する認識を深めている。（3）映画と演劇が、いずれもいかに時と場所を超えて、芸術的・社会的意味を持つかについて理解している。（4）美術史における重要な時代に関する論文に親しみ、それについて明確で一貫した議論ができる。（5）討論やプレゼンテーションで、自分の考えを明確に表現する方法を学んでいる。）	
		Manga & Anime Studies （マンガ・アニメーション学）	Course Description: This course serves as an introduction to the history, social impact and artistic traditions which are key to an understanding of the important role of anime and manga in modern Japanese history. It will introduce students to the key players in the story of the development of Japanese popular media culture, and give them an opportunity to engage directly with the processes of production, as well as exploring the unique characteristics of Japan’s most visible cultural export. Course Objectives: At the end of this course, students should be able to: (i) identify the key terms, people and traditions which are important in the history of Japanese visual media culture, (ii) know how to access and read primary sources to adopt a critical perspective on Japanese popular culture, identify the concerns and intentions of secondary sources, and develop an awareness of different approaches to make sense of such art, (iii) understand how comics and animation are tied into other forms of culture, and represent more than the disposable media of the young, (iv) engage thoroughly in writing about the key moments in Japanese popular culture history by putting forward an argument and developing it in a clear and coherent manner, and (v) learn how to articulate and refine ideas in discussions and presentations. （授業科目の概要：本授業では、日本の現代史におけるアニメとマンガの重要性について理解する上での基礎となる、歴史、社会的インパクト、そして芸術史について学んでいく。学生は、日本のポップ・メディア・カルチャーの発展における主要人物について学び、実際に制作過程を体験し、日本の最も顕著な文化的輸出物の独自性について検証していく。 授業科目の目的：本授業終了後、学生は以下を達成することが期待される。（1）日本のビジュアル・メディア・カルチャーの歴史にとって重要な伝統、主要人物、そして専門用語について理解している。（2）一次資料に触れ、日本のポップ・カルチャーを批判的に分析できるようになり、二次資料の持つ課題と意図を判別でき、ポップ・カルチャーの様々な手法に対する認識を深めている。（3）コミックとアニメが、若者だけの文化に留まらず、どのように他の文化と関連しているかについて理解している。（4）日本のポップ・カルチャー史における重要な時代に関する論文に親しみ、それについて明確で一貫した議論ができる。（5）討論やプレゼンテーションで、自分の考えを明確に表現する方法を学んでいる。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Humanities（人文教養）	Performing Arts（芸能）	Film History （映画史）	Course Description: This course serves as an in-depth exploration of the key players, economics, social impact and various genres which are key to an understanding of the history of film as a form of performing art. It will help students who have some background knowledge of the subject matter, to see the art of the screen from a variety of different contexts, and demonstrate that the history of the 'silver screen' is also the greatest legacy to mankind of the 20th Century. Course Objectives: At the end of this course, students should be able to: (i) apply previously acquired understanding of film as an historical object to a broader - more global - scope, (ii) have developed the ability to analyze film directly, as well as primary sources on film and express a refined perspective on the concerns and intentions of different film-makers/film-consumers, (iii) understand how film was/is tied into the history of the 20th century, and how such media helped/helps shape our own view of an increasingly global society, (iv) be able to produce a detailed critique of a specified period, genre, social context and/or director, and (v) refine their presentation skills further through open discussion and formal debate within the class. （授業科目の概要：本授業では、芸能形態の一つとしての映画を取り上げ、映画史について理解するための基礎となる、様々なジャンル、重要人物、経済、社会的インパクトについて、より深く学んでいく。本授業では、映画に関してある程度造詣のある学生が、様々な視点から映画技法を分析し、「銀幕」の歴史が 20 世紀の人類にとっての最高の遺産であることを理解していく。 授業科目の目的：本授業終了後、学生は以下を達成することが期待される。（1）これまで学んできた映画の歴史的視点を、より広いグローバルな視点に展開できる。（2）映画に関する一時資料と映画そのものを分析する能力を持っている。同時に、様々な映画製作会社と視聴者の関心と意図について、明確に説明できる。（3）映画がどのように 20 世紀の歴史に関わり、グローバル化する社会に対する我々の認識に影響を与えてきたかについて理解している。（4）特定の時代、ジャンル、社会的文脈、監督について、詳細な批判ができる。（5）公開討議やクラス内での正式な議論を通して、プレゼンテーションのスキルに一層磨きがかかっている。）	
		Japanese Traditional Theater （日本の伝統演劇）	Course Description: This course serves as an in-depth exploration of the key people, politics, social impact and various forms which are key to an understanding of the history of theater as a form of performing art in Japanese history. It will help students who have some background knowledge of the subject matter, to see the Japanese stage arts from a variety of different contexts, and demonstrate that the history of the theater in this country is rooted in a powerful, even mystical form of reverence for the Kami. Course Objectives: At the end of this course, students should be able to: (i) apply previously acquired understanding of theater as an historical object to an understanding of the key forms of art (Kabuki, Noh, Bunraku, Kagura, etc.), (ii) have developed the ability to analyze theater arts directly, as well as primary sources on the stage and express a refined perspective on the concerns and intentions of different playwrights/actors, (iii) understand how the Japanese stage was/is tied into the history of the country, and how such material helped/helps shape our own view of Japan as a nation, (iv) be able to produce a detailed critique of a specified period, genre, social context and/or actors, and (v) refine their presentation skills further through open discussion and formal performance within the class. （授業科目の概要：本授業では、日本芸能の一つとして、演劇を取り上げ、演劇史の重要性について理解するための基礎となる、様々な形態、重要人物、政治、社会的インパクトについて、より深く探求していく。本授業では、演劇に関してある程度造詣のある学生が、様々な視点から日本の舞台芸術を分析し、日本の演劇の歴史の起源は、「神」に通じる力強く神秘的なものであることを理解していく。 授業科目の目的：本授業終了後、学生は以下を達成することが期待される。（1）これまで学んできた演劇の歴史的視点を、歌舞伎、能、文楽、神楽といった主要な演劇を理解するために応用できる。（2）劇場芸術とそれに関連する一次資料を、批判的に分析できるようになる。そして、様々な演劇台本や役者の課題と意図を、分析することができる。（3）日本の演劇がどのように日本の歴史に関わり、日本という国に対する我々の認識に影響を与えてきたかについて理解している。（4）特定の時代、ジャンル、社会的文脈、役者について、詳細な批判ができる。（5）公開討議やクラス内での正式な議論を通して、プレゼンテーションのスキルに一層磨きがかかっている。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Humanities（人文教養）	Performing Arts（芸能）	Comparative Theater Aesthetics （比較演劇美学）	Course Description: This advanced course will allow students to explore, in depth, the works of some of the greatest minds of the classical stage, both in Japan and in the West. Primarily this course is dedicated to the aesthetics of theater (design, costume, performance, music, etc.) but it also tackles the social and political frame into which art was placed, as a way of demonstrating the way in which all art is developed as a response to the concerns of our own lives. Course Objectives: At the end of this course, students should be able to: (i) recognize, understand and be able to explain the symbols and significance of several different theatre traditions, (ii) have further perfected the ability to analyze theater arts directly and be able to present refined opinions on the intent of such masters as Zeami and Shakespeare, (iii) understand how the beauty of any given 'national stage' was/is tied into the aesthetics of more than just itself, but was/is an extension of a collective 'character' in which the voices of many can be heard, even to this day, (iv) be able to produce a comprehensive, and critical thesis on their chosen theater form, and (v) refine their presentation skills further through open discussion and contested debate within the class. （授業科目の概要：本授業は、日本ならびに欧米の古典演劇の代表作について深く考察する、上級コースである。主に、劇場美学（デザイン、コスチューム、演技、音楽など）に焦点を当てていくが、芸術というものは、そもそも我々の生活上の心配事や関心事に対する反応という形で発展していくものであることから、芸術がおかれた社会的・政治的枠組みについての分析も行う。 授業科目の目的：本授業終了後、学生は以下を達成することが期待される。（1）いくつかの異なる伝統演劇の意味と重要性について、認識、理解、また説明することができる。（2）劇場芸術そのものに対する分析力をさらに高める。そして、世阿弥やシェイクスピアといった傑出した作者の意図について、明晰に説明することができる。（3）国家的に認められた魅力ある作品が、どのように、それ自身の存在を超えた美学という領域に達し得るかということを理解している。また、そうした名作というものは、今日に至るまで多くの人の関心を惹き付ける特色を数多く持っているということを理解している。（4）自身が選択した演劇形態について、包括的で批判的な論文を書くことができる。（5）公開討議やクラス内での競技討論を通して、プレゼンテーションのスキルに一層磨きがかかっている。）	
		Seminar (Performing Arts) （芸能演習）	Course Description: The role of the seminar is to support the successful completion of the Graduation Research Project (GRP), a graduation requirement for all students. In this seminar we will look at the theme that each student has chosen for the Writing-Across-Curriculum (WAC) program, upon which the GRP is based, through the lens of theories, paradigms, and concepts from the field of Performing Arts. Students will take turns presenting their research at different stages of their thesis development. Their peers, under the supervision of the seminar instructor, will discuss and critique each presentation to give the presenters an opportunity to refine their own thesis. Through such interactions peers will learn how to avoid problems with their own projects. Course Objectives: At the end of this course, students will have: (i) analyzed an important world issue from the perspective of art critic, (ii) conducted at a high level of proficiency their own research project, and (iii) written a high-quality graduation thesis in their own chosen area. （授業科目の概要：本演習の役割は、全ての学生の卒業要件である卒業研究（GRP）を成功裏に完了することを、支援することである。本演習では、各々の学生がカリキュラム横断型作文プログラム（WAC）のために選択したテーマを、芸能分野の理論、理論的枠組み、概念をベースに、検証していく。学生は順番に、自らの論文の進捗状況を発表していく。本演習の教員の監督の下に、他の学生はその発表について議論／批判を行う。そうすることで、発表者は自身の論文をより洗練させる貴重な機会を得ることができる。このような交流を経て、発表者以外の学生も、自らの研究における同様の問題の回避の仕方を、学ぶことができる。 授業科目の目的：本演習終了時に学生は、（1）批評家の視点で、世界の重要な国際問題を分析できる。（2）自らの卒業研究を、高度に習熟した状態で、実行することができる。（3）自らが選択した分野に関する、質の高い卒業論文を書き上げることができる。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Humanities（人文教養）	Performing Arts（芸能）	Workshop: Acting I （ワークショップ：演技実習Ⅰ）	Course Description: This course explores Stanislavski-based principles and the Drama Method to develop a basic grasp on the fundamentals of acting. This course will use voice, speech, and physical exercises, improvisation, text/subtext analysis and scene work to develop a sense of self-awareness, truthful spontaneity, and the ability to "Talk and Listen" with others on stage within specific theatrical circumstances. The interdisciplinary skills of critical thinking and analysis, communication, economy of expression and movement, and detail-oriented observation will merge in the creative and imaginative world of the stage. Students will explore character and scene circumstances as defined by socio-economic status, cultural/political factors, tactics, objectives, obstacles and style. Using focus and concentration exercises and play, students will learn to perform simply and honestly, alone and with fellow actors. Course Objectives: At the end of this course, you will be able to (i) analyze a character's given circumstances within a script to prepare playable objectives and attributes, (ii) build trust, ease and confidence performing and speaking in front of others, and (iii) gain new perspectives by making connections between acted roles (character, topic) and one's own academic field and studies. （授業科目の概要：本授業では、演技の基本を習得するため、スタニスラフスキーの演技論ならびに演劇法について学ぶ。授業では、発声法、スピーチ、体操、即興、テキスト・サブテキスト分析、シーン使いを通し、特定の舞台環境における自己認識や真の自発性を発達させ、また他の演者との「対話」をする能力を身につける。演劇の創造性を学ぶことによって、批判的思考、コミュニケーション、表現や動作の力、そして細部に至る観察力といった、幅広いスキルを育むことができる。学生は、登場人物やそれぞれのシーンを、社会経済的視点、また文化・政治的視点、そして技巧、目的、障害物やスタイルといった視点からそれぞれ分析していく。集中力を高めることによって、シンプルに、正直に、そして一人または複数での演技手法を学んでいく。 授業科目の目的：本授業終了後、学生は以下を達成することが期待される。（1）脚本で描かれている登場人物の目的・特徴を分析できるようになる。（2）自信を持ち、人前で演技・発声できるようになる。（3）自分が演じる役や演劇のテーマと自分の専門研究領域との関連性について考察することにより、新しい視点を得ることができる。）	
		Workshop: Acting II （ワークショップ：演技実習Ⅱ）	Course Description: This class is designed for students with a deeper interest in acting, and will focus on monologues and audition techniques. We will prepare the students for auditioning and acting alone on stage by preparing and rehearsing two contrasting classical and contemporary monologues. Students will explore comedic and dramatic texts and analyze character and script situations using techniques established by Stanislavsky. Students will participate in theater games and exercises that open up the actor creatively and physically, and train the body, mind and voice. We will also work on solo and two-person cold-reading auditions. Course Objectives: At the end of this course, students should be able to: (i) instantly deliver effective and visceral performances of two contrasting monologues in both classic and contemporary styles, (ii) read and understand text and subtext in a script and analyze the given situations (who, when, where, why, what and how) necessary for complete character delineation, and use the "what-if" philosophy to arrive at a playable and believable character, (iii) learn how to conduct oneself professionally and confidently in the standard audition scenario,(iv) present themselves with vocal confidence and physical ease in public speaking or lecture arenas, and (v) formulate and communicate ideas critically, creatively and academically among peers. （授業科目の概要：本授業は、演技についてより深く学びたいと思う学生を対象にし、主に一人芝居とオーディション技術について学ぶ。具体的には、２つの対照的な古典モノローグと現代モノローグを準備・リハーサルすることによって、一人芝居、オーディションへの備えについて学んでいく。スタニスラフスキーの演技術を用い、登場人物や台本の状況を分析し、喜劇や戯曲の台詞の内容を理解していく。学生は、演劇ゲーム／練習に参加し、心身ならびに声を鍛え、創造的で身体的な演技手法を学ぶ。また、単独もしくは複数名によるコールド・リーディングのオーディションも経験する。 授業科目の目的：本授業終了後、学生は以下を達成することが期待される。（1）古典的ならびに現代的スタイルの両方で、２つの対照的な一人芝居を効果的、感情的に演技することができる。（2）台本のテキスト・サブテキストを理解し、登場人物を完璧に描写するために必要な情報（誰が、いつ、どこで、なぜ、なにを、どんなふうに）を分析し、「もし自分だったら」という観点を通じて、説得力のある登場人物象を描けるようになる。（3）一般的なオーディションで、プロとして自信を持って演技する手法を学ぶ。（4）公でのスピーチや講演で、自信を持って発声することができる。（5）自分の考えを、批判的、創造的、そして学術的に整理し、他者に伝えることができるようになる。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Humanities（人文教養）	Performing Arts（芸能）	Workshop: Directing （ワークショップ：演劇監督実習）	Course Description: This course gives hands-on experience directing theatre pieces based on Stanislavskian principles of creating a psychologically real performance. The course will introduce script analysis, including themes, imagery, historical/political/socio-economic factors and characters. We'll work to formulate the vision and concept of the director's world and explore stage composition and picturization in a visceral and exciting way. Students, as directors, will gain experience running auditions, casting and running rehearsals and will gain the vocabulary necessary to work with actors. Students will present a 10-minute play under their own direction. Interdisciplinary skills developed in this course include text analysis, research and critical thinking; communication; people and time management; and team collaboration toward a common creative goal. Course Objectives: At the end of this course, students will be able to (i) analyze a script and direct its presentation on all levels, understand the intention of the script and yourself as the director and create a clear purpose and vision for your production, (ii) speak the language of the theatre while directing actors and efficiently communicate ideas to your production team (stage manager, set, props, lighting, etc.), and (iii) use research and analysis skills to make real-world connections between the content of your productions and your academic studies. （授業科目の概要：本授業では、心理的に真に迫る演技を実現するスタニスラフスキーの演技理論を用い、戯曲の短編の監督を経験する。授業では、戯曲の主題、イメージ、歴史的／政治的／社会経済的な要素と登場人物を踏まえた台本の分析方法を紹介する。演劇監督の世界観について説明し、感動的な舞台設計や表現方法について学ぶ。学生は監督の立場で、オーディション、配役、リハーサルの進行方法について経験を積むとともに、役者たちと働く際に必要な専門用語を身につけていく。最後に、10分間の自作の演劇を監督する。本授業を通して、文脈分析、調査ならびに批判的思考、コミュニケーション、人と時間の管理方法、共通の創造的なゴールに向かうためのチームワークといった、幅広いスキルを習得することができる。 授業科目の目的：本授業終了後、学生は以下を達成することが期待される。（1）台本を分析し、その演出を監督することができるとともに、台本の真意ならびに監督としての自分自身をよく理解し、自身の作品に明確な目的とビジョンを持つことができる。（2）演劇用語を使って、役者たちを監督することができるとともに、舞台制作チーム（舞台マネジャー、セット、小道具、照明など）とも、効率的に意思疎通ができるようになる。（3）調査や分析のスキルを使って、自分が演出する内容と、その他の授業で学ぶ内容における、実社会での関連性を考察することができる。）	
		Workshop: Noh Theater （ワークショップ：能実習）	授業科目の概要：この授業は、650 年以上続いているユネスコ無形文化遺産にも認定されている「能」の歴史と実技を学ぶ。能の基本となる謡、セリフや歌にあたる謡により、心情や情景を描写し、正しい姿勢と腹式呼吸を体得する。同時に動きとなる舞も稽古をし、“かまえ”と“すり足”この二つを踏まえた上で自身が主人公となり科題となる曲目を通して優美な所作を身に付ける。学生は謡と舞の稽古をし最終日は発表会形式を採り、学生のみで謡と舞ができるレベルまでにする。なお、本科目は初学者をも想定した個別指導を行うため、履修者数の上限を10 人とする。 授業科目の目的：学生は科題とされる曲目の稽古を通して、能への知識を得、美しい所作と姿勢を体得する。繰り返し稽古をすることにより、謡と仕舞の精度を上げ、無の空間の中に描写し作り上げる能独自の文化への理解を深める。本学の課外活動団体には古典芸能研究会（喜多流能サークル）があるが、定期的に研鑽を積む当該団体に所属する学生にも劣らない技量をも、このワークショップを通じて身に付ける。 その他：本授業は、全て日本語で行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Humanities（人文教養）	Music（音楽）	How We Listen to Music: Foundations of Music Perception, Cognition, and Acoustics （音楽鑑賞：知覚認知と音響学の基礎）	Course Description: This course serves as a broad and gentle introduction to psychoacoustics, music psychology, and musical acoustics. Relationships between the production, physics, and perception of sound, as well as similarities and differences between music and language are explored. Phenomena such as absolute (perfect) pitch, synaesthesia, and amusia are discussed. Course activities will include lectures, readings, in-class experiments, and student presentations. Course Objectives: Upon completion of this course, students should be able to (i) have a greater understanding of how musical instruments and the human voice operate; (ii) gain a greater awareness of musical parameters, the physical dimensions of sound, and the human auditory system; (iii) gain experience in designing and conducting basic experiments; and (iv) apply knowledge and experience obtained from this course to subsequent courses in music and related areas. （授業科目の概要：本授業は、心理音響学、音楽心理学、そして音楽音響学への、幅広くやさしい入門編である。制作、物理学、音声認識との相互関係、ならびに音楽と言葉との類似・相違点、について学んでいく。絶対音感、共感覚、失音楽症などの現象についても触れていく。本授業は、講義、講読、教室内での実験、学生による発表で構成される。 授業科目の目的：本授業終了後、学生は以下を達成することが期待される。（1）楽器と人間の声がどのように機能するのかに関してより深く理解している。（2）音楽のパラメーター、サウンドの物理的側面、人間の聴覚系について、より深い認識を得ている。（3）基本的な実験を考案し、実施する経験を積んでいる。（4）本授業で得た知識と経験を、後に続く音楽とその関連分野の授業に活用することができる。）	
		History of Western Music （西洋音楽史）	Course Description: A broad survey of Western Classical music, extending from 800 AD to the present. Course activities include lectures, writing and listening assignments, and primary source readings. Salient repertoire from each historical period is situated in a sociocultural and sociopolitical context. The reception histories of particular works will be addressed. Parallels between musical aesthetics and techniques and concurrent tendencies in other art forms, as well as the influence of non-Western music on Western composers are discussed. Course Objectives: This course will introduce students to (i) vocabulary essential for writing about and discussing Western Classical music and (ii) important repertoire from each major historical period, situated in a historical context. （授業科目の概要：西暦 800 年から現在に至るまでの西洋クラシック音楽について、幅広く概観する。本授業は、講義、音楽鑑賞、またそれについてのライティング、一次資料の講読で構成される。歴史上の各時代の顕著なレパートリーが、社会文化また社会政治と絡み、どう位置付けされてきたか、また特定の作品が歴史上どう捉えられてきたかについて学ぶ。音楽美学と技術、そして他の芸術形式との類似性、ならびに西洋以外の音楽が西洋作曲家に与えた影響について、検証する。 授業科目の目的：この授業では、以下の内容に触れる。（1）西洋クラシック音楽について討議・執筆するために必要な語彙を学ぶ。（2）各時代の重要なレパートリー、およびそれぞれの歴史的背景を理解する。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Humanities（人文教養）	Music（音楽）	Japanese Traditional Music （日本の伝統音楽）	Course Description: This is a lecture course surveying the fundamentals of the traditional music of Japan. It will cover the basic structures, musical instruments, ensembles and types of compositions found in traditional Japanese music. The role of traditional Japanese music in relation to Court life and in relation to religious practices will be presented. And also, we consider the relation between Japanese language and music. We analyze the sound of Japanese musical instruments and voice by a spectrum analyzer. Students will read William Malm's Traditional Japanese Music and Musical Instruments plus additional essays; they will be assigned to listen to and study audio and video recordings of representative works and performances of Japanese traditional music. Special topics will include the shakuhachi (bamboo flute) and it's role in Zen Buddhism, the Gagaku orchestra and related Bugaku dance. Recent musical works for traditional Japanese instruments will also be investigated. Gaining insight into a people's music allows insight into that people's culture and traditions. Course Objectives: Upon completion of this course, students will be expected to: (i.) Be able to demonstrate their understanding of traditional Japanese instruments, musical forms, musical ensembles, and Japanese principles or standards of beauty in music; (ii.) Explain and discuss several of the features which distinguish traditional Japanese music from Western classical music; (iii.) Be able to identify Japanese musical instruments and several works from the classic repertoire for each; (iv.) Be able to demonstrate their knowledge of the history and development of Japanese music and its relationship to changes in Japanese culture, social organization, relation to other cultures and to religious practices. （授業科目の概要：この授業は、日本の伝統的な音楽の基礎について概説する。日本の伝統音楽の構造、特性、種目、楽器、演奏、曲について学ぶ。また、言語、生活、宗教と音楽の関係などについても言及する。その声、楽器音を周波数解析することによりその特性を分析する。テキストは、ウィリアム・マーム著の「Traditional Japanese Music and Musical Instruments（日本伝統音楽集成）」を用いる。適宜参考書を示す。代表的な演目の CD／DVD 鑑賞を行う。特別なテーマとして、禅における尺八音楽の役割や、雅楽と舞楽についても講義する。日本の伝統的楽器を用いた最近の音楽作品にも触れる。ある国の人々の音楽について識見を得ることで、その人々の文化や伝統について識見が得られる。 授業科目の目的：本授業終了後、学生は以下を達成することが期待される。（1）日本の伝統音楽の構造、特性、美学、種目、楽器などについて理解したことを発表できる。（2）日本の伝統音楽と西洋音楽の特性の違いを話すことができる。（3）日本の楽器と、それらを用いた古典作品について理解する。（4）日本の伝統音楽の歴史的発展と、それに対する日本の文化的・社会的変化および他の文化や宗教儀式との関係についてその知識を発表できる。）	
		Introduction to Music Technology （音楽技術入門）	Course Description: A comprehensive survey of music notation software, digital audio workstations (DAW's), MIDI, and sound synthesis tools and techniques. Primarily hands-on and project-based, the course introduces students to the basics of computer notation, sound editing and mixing, and sound analysis/synthesis. Introduction to Music Technology culminates in the presentation of final creative projects utilizing the techniques and resources covered in class. No previous experience in music technology or composition is necessary. Course Objectives: Upon completion of this course, students will have obtained the knowledge and experience in music technology software necessary to prepare them for further studies in music composition, production, and analysis, as well as a greater understanding of the tools and techniques employed by professional artists and producers. （授業科目の概要：音楽表記ソフトウェア、デジタル・オーディオ・ワークステーション（DAW）、MIDI、また音の合成ツールや幅広い技術について概観する。本授業は、実践とプロジェクトを中心に構成されており、パソコンでの音楽表記の基礎、サウンド編集と音響調整、サウンド分析と合成を紹介していく。「音楽技術入門」は、授業で扱った技術と情報源を利用した最終制作プロジェクトの発表で締めくくられる。音楽技術や作曲の過去の経験は必要としない。 授業科目の目的：本授業終了時に学生は、作曲、音楽制作、音楽分析といった分野における更なる研究において必要となる、音楽技術ソフトウェアの知識と経験を修得する。そして、プロのアーティストやプロデューサーが使用しているツールと技術についても、より深く理解する。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Humanities（人文教養）	Music（音楽）	History of Modern Music （近代音楽の歴史）	Course Description: An overview of musical currents and techniques since 1900. Foci include the emergence of pre-WWI and post-WWII avant-garde movements, relationships between avant-garde and experimental tendencies in music and other artistic disciplines, and the impact of globalization, sociopolitical instability, and emerging technologies on musical creation. The cross-pollination of jazz, popular music genres, non-Western musical traditions, and "concert music" in the twentieth century is also addressed. Course Objectives: It is intended that this course deepens and broadens student perspectives on music of the past century and increases familiarity with important modern and contemporary repertoire, aesthetic movements, and genres. The ability to draw connections between significant historical events, scientific and technological achievements, and artistic responses to such events and achievements will be enhanced. （授業科目の概要： 1900年以降の音楽の動向と技術について、概観する。本授業では特に、第一次世界大戦以前と第二次世界大戦以降に勃興した前衛的な流れ、前衛的で実験的な音楽とその他の芸術的領域との関係、そしてグローバライゼーション、社会政治的な不安定、技術の台頭といったものが作曲に与える影響、といったことに焦点を当てていく。そして、ジャズ、ポップミュージック、西洋以外の伝統音楽、そして20世紀のコンサート音楽との相互交流についても、触れる。 授業科目の目的： 本授業では、前世紀の音楽に関する視野を広げるとともに、現代の重要な題目や、芸術的な動向、ジャンル等についても、親しむ。歴史的に重要な出来事や科学技術の発展と、そうした変化に対する芸術的な反応との関連性について、分析できるようになる。）	
		Music Fundamentals: Harmony, Musicianship, and Arranging （音楽基礎：和声、音楽的能力、編曲）	Course Description: Thorough and integrated introduction to the basics of musical literacy and the rudiments of music. The course will cover the essentials of tonal harmony, rhythm, form, and instrumentation, and enable students to gain experience in solfège, sight-reading, keyboard proficiency, and conducting. Phrasing, dynamics, articulation, and other modes of musical expression will also be addressed. Course activities will include short performance, dictation, composition, analysis, and arranging exercises. Course Objectives: Music Fundamentals exists as a foundation for the study of music theory, ear training, composition, performance, and arranging. This includes the developing of understanding of basic concepts, and thorough exercising of the rudiments of music. The acquisition of these skills not only prepares students for further study in music composition, performance, and production, but also may enhance music appreciation among enthusiasts. （授業科目の概要：音楽の読み書きを含む音楽の基礎全般を統合的に紹介する授業である。本授業では、音の調和、リズム、形式、また楽器法の要点を網羅し、学生は、ソルフェージュ、初見演奏、キーボード上の技能と指揮などの経験を積む。フレージング、強弱法、調音、また他の音楽表現方法についても学ぶ。本授業は、短い演奏、聴音、作曲、分析、また編曲の練習といった活動を含む。 授業科目の目的：本授業は、音楽理論、聴覚訓練、作曲、演奏、また編曲といった分野の基礎を教えるものである。基本的な概念の理解を高めること、また基礎音楽の徹底した練習も行われる。これらの技術の修得は、学生が作曲、演奏、制作などを今後さらに学ぶための準備となるだけでなく、音楽愛好家間の音楽鑑賞力を高めることにもつながる。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Humanities（人文教養）	Music（音楽）	Music and Other Media: Interdisciplinary Perspectives（音楽と他のメディア：学際的視点）	Course Description: Music has historically been considered the most abstract of artistic disciplines ... but also (perhaps for the same reason) has proven to be quite compatible with other artistic media. Against the background of Wagner's concept of the *Gesamtkunstwerk*, this course considers the myriad intersections between music and the visual and performing arts explored over the past century or so, and the questions, challenges, and collaborative models that have arisen in the process. While emphasis is placed on the interactions between music and visual media (film/video in particular) and music and dance, relationships with theatre, architecture, and literature are also addressed. Although there is a focus on twentieth and twenty-first century multimedia works, historical precedents are also discussed. Course Objectives: This course introduces students to seminal multimedia works and modes of collaboration that have emerged in the past century. Besides obtaining a greater understanding and appreciation for the motivations behind and challenges facing interdisciplinary artistic creation, students will gain a heightened awareness of the cultural ramifications of transplanting music from the concert setting to cinema, gallery installation, and (more recently) video game/interactive media contexts. （授業科目の概要：音楽は、歴史上もっとも抽象的な芸術分野と考えられている。しかし、また（おそらく同じ理由から）他の芸術的表現手段とよく調和がとれることも認められている。本授業では、ワーグナー（Wilhelm Richard Wagner）の「総合芸術（Gesamtkunstwerk)」の概念を背景にして、前一世紀にわたり研究されてきた音楽と視覚芸術、舞台芸術との間に存在する多数の共通点、およびその過程において生じた疑問、課題、また協力的モデルについて考察する。音楽と視覚メディア（特にフィルム／ビデオ)、また音楽とダンスの相互作用に重きが置かれる一方で、劇場、建築、そして文学との関係についても検証していく。焦点は20世紀、21世紀のマルチメディアの作品に合わせているが、それ以外の時代の先例にも触れていく。 授業科目の目的：本授業では、著名なマルチメディア作品と、前世紀に生まれた連携の様式について紹介する。多分野にまたがる芸術作品の背後にある動機、直面している課題に対してより大きな理解と鑑賞力を得るだけでなく、コンサート形態から、映画、ギャラリーの展示、そして（より最近では）ビデオゲーム／インタラクティブ・メディア関連における、音楽の文化的影響についての認識を高める。）	
		Seminar (Music)（音楽演習）	Course Description: The role of the seminar is to support the successful completion of the Graduation Research Project (GRP), a graduation requirement for all the students of this department. In this seminar we will look at the theme that each student has chosen for the Writing-Across-Curriculum (WAC) program, upon which the GRP is based, through the lens of concepts, tendencies, and practices in the field of Music. Students will take turns presenting their research at different stages of their thesis development. Their peers, under the supervision of the Seminar instructor, will discuss and critique each presentation to give the presenters an opportunity to refine their own thesis. Through such interactions peers will learn how to avoid problems with their own projects. Course Objectives: At the end of this course, students will have: (i) analyzed an important world issue from the perspective of a music researcher, (ii) conducted at a high level of proficiency their own research project, and (iii) written a high-quality graduation thesis in their own chosen area. （授業科目の概要：本演習の役割は、本学部の学生すべての卒業要件である卒業研究（GRP）の完成をサポートすることである。この演習では、GRPの根拠となるカリキュラム横断型作文プログラム（WAC）のために各自が選んだテーマを、音楽分野でのコンセプト、傾向、実践といったレンズを通して考察する。学生は、論文の進展上異なる段階で交互に研究発表を行っていく。学生同士が演習の担当教員の監督下で、各々の発表を議論、批評することにより、発表者に論文の完成度を上げる機会を与える。そうした相互分析を通し、各学生は自分自身の研究における課題解決の手法を学んでいく。 授業科目の目的：本授業終了後、学生は以下を達成することが期待される。（1）音楽研究の視点から重要な国際問題を分析する。（2）自分自身の研究プロジェクトを熟達した高いレベルで実行する。（3）自分自身の選択した分野に関する、質の高い卒業論文を執筆する。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Humanities（人文教養）	Music（音楽）	Workshop: Music Practice I (Improvisation Ensemble) （ワークショップ：音楽実習Ⅰ (即興アンサンブル))	Course Description: This hands-on, inclusive workshop introduces students to a variety of improvisation practices. Activities include structured improvisation "game-pieces," improvisation with electronics and homemade instruments, and improvisation with/in response to multimedia (e.g., video and text). The workshop will culminate in a final concert. Emphasis is placed on performer interaction models and the "social dynamics" of collective improvisation, rather than on prowess on a particular instrument. Therefore, no prior performance experience on the part of the students. Course Objectives: Through participating in this workshop, students will (i) become acquainted with cross-cultural and trans-historical notions of improvisation; (ii) enhance their listening and performance interaction skills; (iii) gain a deeper understanding of the interplay between freedom and constraints in the creative process; (iv) explore a broad range of multimedia interaction models; and (v) obtain hands-on experience in constructing instruments from everyday materials, and transforming consumer electronics devices into expressive musical instruments. （授業科目の概要：この実践的で包括的なワークショップでは、学生に即興演奏の多様性を紹介する。授業活動は、構造化された即興の作品「ゲーム・ピース」、電子楽器と手造り楽器による即興、そしてマルチメディア（映像また文章など）への反応による即興を含む。本ワークショップの最後には、ファイナル・コンサートが開催される。本ワークショップは、特定の楽器を操る手腕よりも、演奏者同士の相互作用モデル、集団的即興においての「社会的力学」に重点が置かれている。したがって、学生の過去の演奏経験は問われない。 授業科目の目的：本ワークショップへの参加を通して、学生には以下のことが期待される。（1）即興演奏に関する多様な文化と歴史について精通する。（2）聴く力と演奏を通じた相互作用のスキルを高める。（3）創造的プロセスにおける、自由と制約との間の相互作用について、より深く理解する。（4）幅広い種類のマルチメディア相互作用スタイルを探求する。（5）日常の素材から楽器を組み立てたり、家電製品を表現に富む楽器につくりかえたりといった、実践経験を持つ。）	
		Workshop: Music Practice II (Keyboards) （ワークショップ：音楽実習Ⅱ (キーボード))	Course Description: A workshop class for aspiring students of all levels, where a diversity of keyboard repertoire is practiced, coached, discussed, and performed. Students will be instructed in learning how to produce sound using various aspects of performing on the keys, along with some music fundamentals, keyboard skills, harmony and selected historical and technical contributions. During the course, occasional master-classes will be held, engaging direct dialogues between students and internationally prominent musicians by video conferencing. Students will be introduced to new techniques, practice methods, and artistry from each musician, and they will be able to apply the lesson to their own practice. An individual or duo performance for the performance jury at the end of semester is expected. The student will also be instructed to keep a written "practice journal" during the course, to reflect on the learning experience and its relation to other courses or topics studied. In order to provide sufficient guidance to beginners, the class size will be limited to 10 students. Course Objectives: At the end of this course, students should be able to: (i) have a deeper understanding and appreciation for the art of keyboard music, (ii) read traditional music notation, chord symbols (used primarily in Jazz/Pop) and baroque-style figured bass, (iii) understand tone interpretation and style desirable for each performance, (iv) engage thoroughly in expressing their ideas and feelings through creating music. （授業科目の概要：全レベルの受講者を対象に、鍵盤楽器を用いた様々な練習、指導、演奏及びそれらに関するディスカッションを行う。また、様々な鍵盤の使い方と音の出し方に加え、音楽の基本、鍵盤演奏技術、ハーモニー、及びこの分野の優れた歴史的・技術的作品について学ぶ。適宜、著名な音楽家と直接ディスカッションを行うオンラインクラスを設け、受講者は、各音楽家から新たな技術、練習法、さらに芸術性を学び、それらを各自の実践に応用する。学期末には、ソロまたはデュオによる演奏が審査・評価される。また、受講者は、各自の練習・学習経験の内省と、他のコースとの関連性を考察するために、「練習日記」を記すよう指導される。なお、本科目は初学者をも想定した個別指導を行うため、履修者数の上限を10人とする。 授業科目の目的：本実習を通し、受講者は以下の目標達成を目指す。（1）鍵盤楽器音楽の芸術性に関し、より深く理解するとともに鑑賞力を身につける。（2）伝統的な音楽表記、主にジャズ／ポップで用いられる和音記号、バロック式数字付き低音が読める。（3）音調演出と各演奏・楽曲に適したスタイルを理解する。（4）考えや感情を音楽演奏を通して表現できる。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Humanities（人文教養）	Music（音楽）	Workshop: Music Practice III (Choral Ensemble) (ワークショップ：音楽実習Ⅲ (合唱アンサンブル))	Course Description: Through studying the works from medieval to modern, as well as from non-classical traditions the world over, the choral ensemble will be exploring the expressive potential of the human voice. Open to students of all vocal levels, students will be engaging in weekly choral rehearsals, where they will also be assigned vocal and ear training practice for further improvement. During the semester occasional video conferencing will be held with various accomplished choral/vocal ensembles as well as masters of non-western vocal tradition for students to broaden their knowledge and practice. The student will be expected to keep a shared journal to reflect on the learning experience, learn from others' practice methods and relate with other members of the ensemble. Course Objectives: At the end of this course, students should be able to (i) have a deeper understanding for various choral/vocal music and general music history, (ii) read basic music notation, (iii) sing with accurate pitch, rhythm, and appropriate articulations and (iv) cooperate with other musicians in large ensemble settings. (授業科目の概要：中世から近代・現代の作品、及び世界中の非古典的伝統作品 (non-classical traditions) の学習を通し、本実習では人間の音声による表現の可能性を探る。発声レベルに関わらす受講可能。受講者は毎週の合唱練習、及び発声・聞き取り訓練を受け上達を目指す。学期中、適宜設けるオンラインクラスを通し、受講生各自が熟達した合唱団及び非西洋式音声伝統 (non-western vocal tradition) に属する優れた音楽家から学び、知識と実践の幅を広げる。また、学習経験の内省、他者の練習法からの学び、さらに他の合唱メンバーとの関係構築のために、クラスで共有する「日記」を記すよう指導される。 授業科目の目的：本実習を通し、受講者は以下の目標達成を目指す。(1) 多様な合唱・音声音楽と一般的な音楽史に関し、より深く理解する。(2) 音楽表記が読めるようになる。(3) 正確なピッチ、リズム、及び適切な発声法で歌うことができる。(4) 大きな演奏・合唱団で他の音楽家と協調することができる。)	
		Workshop: Music Practice IV (Japanese Koto) (ワークショップ：音楽実習Ⅳ (琴))	Course Description: A workshop class for aspiring students of Koto, of all levels, based on in-class workshop activities, assigned individual learning activities, practice, and individual and group presentations. This workshop will involve active learning of the methods of playing the Koto. Students will be involved in listening activities and will learn the basics of the traditional Japanese notation system for Koto music. Step by step, students will begin to learn fundamental playing technique, study simple musical pieces and will progress to more complex works. The instructor will coach and encourage students, but also will challenge them to practice in preparation for the next workshop meeting. Students will read essays, listen to and study audio and video recordings of representative works and outstanding performers of Koto. Students will be required to keep a written journal, about their practice and other learning activities in the Workshop and the relationships of these to other classes they are taking. Near semester end, students will prepare a short performance (individual and in various groups) to show the level of skill they have developed in the workshop. In order to provide sufficient guidance to beginners, the class size will be limited to 10 students. Course Objectives: Upon completion of this course, students will be expected to: (i.) Be able to play some simple short pieces on the Koto, to illustrate several methods used in sound production on the instrument and to use appropriate Japanese terminology which apply to performing on the Koto;(ii.)Explain and discuss several of the features which distinguish traditional Japanese music as played on Koto from Western classical music;(iii.)Be able to identify several works from the classic repertoire for Koto;(iv.)Be able to discuss several traditional works for Koto and the historical setting and cultural significance of each. (授業科目の概要：本科目は、全レベルの受講者を対象とした、教室内実習、個人課題学習、演奏練習、個人及びグループ発表による琴のワークショップである。受講者は、琴の演奏方法を能動的に学ぶことが求められる。また、琴の鑑賞法や、伝統的な琴音楽の楽譜表記法についても学ぶ。本実習では、まず基本的な演奏技術の習得にはじまり、段階的に簡単な曲目からより複雑な曲目の練習へと進めていく。担当教員は、受講者を指導・激励すると同時に、次回の実習クラスまでの十分な予習を促す。受講者は、関連文献を閲読するとともに、代表的な作品及び優れた演奏を視聴することとなる。全ての受講者は、各自の練習・学習経験の内省と、他のコースとの関連性を考察するために、「練習日記」を記すよう指導される。また学期末には、本実習受講により修学した技術を示すため、単独及び様々に構成された集団による短い演奏を行う。なお、本科目は初学者をも想定した個別指導を行うため、履修者数の上限を 10 人とする。 授業科目の目的：本授業終了後、学生は以下を達成することが期待される。(1) 基本的な曲の演奏、及び適切な用語を用いて幾つかの出音方法の解説ができる。(2) 西洋古典音楽の特徴と琴による日本の伝統音楽の特徴について幾つかの点を挙げ、説明・議論することができる。(3) 幾つかの古典的な曲目を聴き、曲と曲名を一致させることができる。(4) 伝統的な作品について、それらの歴史的背景や文化的重要性を述べることができる。)	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Humanities（人文教養）	Music（音楽）	Workshop: Music Practice V (Shakuhachi) （ワークショップ：音楽実習Ⅴ（尺八））	Course Description: A workshop class for aspiring students of Shakuhachi, of all levels, based on in-class workshop activities, assigned individual learning activities, practice, and individual and group presentations. This workshop will involve active learning of the methods of playing the Shakuhachi. Students will learn about the importance of proper breathing as it relates to this instrument and the special characteristics of this music and instrument. Students will be involved in listening activities and will learn the basics of the traditional Japanese notation system for Shakuhachi music. Step by step, students will begin to learn fundamental playing technique, study simple musical pieces and will progress to more complex works. The instructor will demonstrate playing of the instrument and provide feedback to encourage students, but also will challenge them to practice in preparation for the next workshop meeting. Students will read essays, listen to and study audio and video recordings of representative works and outstanding performers of Shakuhachi. Students will be required to keep a written journal, about their practice and other learning activities in the Workshop and the relationships of these to other classes they are taking. In order to provide sufficient guidance to beginners, the class size will be limited to 10 students. Course Objectives: Upon completion of this course, students will be expected to: (i.) Be able to play some simple short pieces on the Shakuhachi, to illustrate several methods used in sound production on the instrument and to use appropriate Japanese terminology which apply to performing on the Shakuhachi; (ii.)Explain and discuss several of the features which distinguish traditional Japanese music as played on Shakuhachi from Western classical music; (iii.)Be able to identify several works from the classic repertoire for Shakuhachi; (iv.)Be able to discuss several traditional works for Shakuhachi and the historical setting and cultural significance of each. Near semester end, students will prepare a short performance (individual and in various groups) to show the level of skill they have developed in the workshop. （授業科目の概要：本科目は、全レベルの受講者を対象とした、教室内実習、個人課題学習、演奏練習、個人及びグループ発表による尺八のワークショップである。受講者は、尺八の演奏方法を能動的に学ぶことが求められる。尺八を演奏する上で重要となる呼吸法と、尺八の音楽的特性について学ぶ。また、尺八の鑑賞法や、伝統的な尺八音楽の楽譜表記法についても学ぶ。本実習では、まず基本的な演奏技術の習得にはじまり、段階的に簡単な曲目からより複雑な曲目の練習へと進めていく。担当教員は、模範演奏を適宜行い、受講者を指導・激励すると同時に、次回の実習クラスまでの十分な予習を促す。受講者は、関連文献を閲読するとともに、代表的な作品及び優れた演奏を視聴することとなる。全ての受講者は、各自の練習・学習経験の内省と、他のコースとの関連性を考察するために、「練習日記」を記すよう指導される。なお、本科目は初学者をも想定した個別指導を行うため、履修者数の上限を10人とする。 授業科目の目的：本授業終了後、学生は以下を達成することが期待される。（1）基本的な曲の演奏、及び適切な用語を用いて幾つかの出音方法の解説ができる。（2）西洋古典音楽の特徴と尺八による日本の伝統音楽の特徴について幾つかの点を挙げ、説明・議論することができる。（3）幾つかの古典的な曲目を聴き、曲と曲名を一致させることができる。（4）伝統的な作品について、それらの歴史的背景や文化的重要性を述べることができる。 学期末には、本実習受講により修学した技術を示すため、単独及び様々に構成された集団による短い演奏を行う。）	
		Workshop: Music and Creativity Ⅰ （ワークショップ：音楽と創造性実習Ⅰ）	Course Description: This course is an interactive workshop designed to increase students' creative potential and give students the experience of producing an original, high-quality musical work set to film. This is accomplished through in-class analysis of musical masterworks in multiple genres, and exercises that require students to compose lyrics and melodies for homework. As a team, students will collaborate on creating music for a visual medium (scene from film or video). Through analysis of scenes from major movies, students will learn the role music plays within a movie scene. The course climaxes with presentation of a final project, in which students record the original music they have been working on from the start of the course. Course Objectives: To give students an opportunity to unlock their creativity power and musical ability; To build each students' confidence in their own creative potential; To give students the experience of working together in a collaborative effort to create a multi-faceted/multi-genre musical work, while at the same time introducing various aspects of music production such as producing, composing & arranging, recording & editing, similar to what students would find in real-world professional situations; To give students satisfaction of creating a professionally-produced musical work. （授業科目の概要：本授業は、学生の潜在的な創造力を高め、映像向けの高品質な楽曲制作を体験する、対話型ワークショップである。本ワークショップでは、様々なジャンルの名曲を分析し、課題として作詞作曲も手がける。クラス全体が一つのチームとなって、学生たちは協力しあい、ある映像メディア（映画もしくはビデオからのシーン）のための楽曲を制作していく。人気映画のシーンを分析することを通して、学生たちは、映画のシーンの中での音楽の役割について学ぶ。本ワークショップの最後には、最終プロジェクトとして学生たちが録音したオリジナル楽曲のプレゼンテーションを行う。 授業科目の目的：学生の創造力と音楽能力を解き放つ機会を提供する。各々の学生が、潜在的な創造力に対する自信を持てるよう手助けする。音楽制作の様々な局面（制作、作曲、編曲、録音、編集）を紹介し、学生たちに協力して様々なジャンルの楽曲制作を体験させる。一連の経験は、将来社会人になった際に、実社会でも役に立つ。専門的なレベルの楽曲を制作する体験を通して、学生に達成感を提供する。）	

科目区分		授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
Humanities（人文教養）	Music（音楽）	Workshop: Music and Creativity II （ワークショップ：音楽と創造性実習Ⅱ）	Course Description: An interactive workshop that builds upon topics studied in Workshop: Music and Creativity 1, offering more in-depth exercizes in creativity and more in-depth studies in music composition and production. Unlike Music and Creativity 1, students will have the option of composing and performing their original final project composition by themselves (solo), or in collaboration with other students in the workshop. Because of this flexibility, each student will have the option of choosing the movie scene for use in production of their original music final project. Each student will work toward completion of this project from the very beginning of the course. In addition to professionally recording students' final project original compositions, Music and Creativity 2 culminates with a public performance of the students' original final project compositions, in a university concert. Course Objectives: To give students more control in the production of their final project original musical compositions; To further build students' confidence in their creative abilities; To give students the satisfaction of creating a world-class musical work; To further expose students to professional, music production experiences. （授業科目の概要：この対話型ワークショップは、「ワークショップ：音楽と創造性実習Ⅰ」で学んだテーマをベースに展開される。創造力、そして作曲と楽曲制作のためのより掘り下げた学習機会を提供する。「ワークショップ：音楽と創造性実習Ⅰ」とは異なり、学生は最終作品の作曲／演奏を自分自身（ソロ）、あるいはグループで取り組んでも良いものとする。この柔軟性により、各々の学生は映画のシーンの中から自分の最終作曲プロジェクトに使うシーンを自由に選ぶことができる。本プロジェクトの準備は、授業開始の早期からスタートする。本科目「ワークショップ：音楽と創造性実習Ⅱ」の醍醐味は、最終の作曲プロジェクトで手がけるオリジナル曲を、プロが使う環境で収録できることとともに、学内のコンサートで自ら演奏できるところにある。 授業科目の目的：最終作曲プロジェクトであるオリジナル曲の作曲の作業を学生自身の力で進める環境を与える。学生が自身の創造力に対し自信が持てるよう促し、世界に通用する楽曲制作を体験させることにより、学生に高い満足感を与える。プロ水準の楽曲制作を経験させる。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Humanities（人文教養）	Music（音楽）	Workshop: Music Composition for Western and Traditional Japanese Instruments （ワークショップ：洋楽器と和楽器のための作曲実習）	Course Description: A Workshop for aspiring students of music of all levels, based on in-class activities, assigned individual learning activities, practice, and individual and group presentations. This workshop will involve active learning of how composers write or arrange their own music. Students will be involved in listening activities and will explore standard Western, traditional Japanese, and experimental graphic notation systems. Step-by-step, students will begin to work on simple musical pieces, which can be sung or played on an instrument and will progress to more complex types. Students will try to solve various musical problems to improve their understanding of musical composition and they will then review their own compositions and together, the class will try to perform and study one another's new compositions. Students will investigate the vital relationships relating music composition with dance and theater. The instructor will coach and encourage students, but also will challenge them to complete homework composition activities and exercises in preparation for next workshop meetings. Students will read essays, listen to recordings and review sheet music of selected works studied in the class. Students will keep a journal, writing about their on-going learning activities in the Workshop and its relationship to other classes they are taking. Course Objectives: (1) At each level, students will regularly present and discuss with workshop members, their own compositions and those of fellow workshop participants; (2) Upon completion of this course, students will be expected to: (i) Understand some basic approaches used in composing music both in the western context and in the context of traditional Japanese music; (ii) Be able to compose several, short musical works; (iii) Be able to discuss their own musical compositions and those of others; (iv) Near semester end, students will prepare a short program to present their new works, composed during the semester of the workshop; and (v) The student will be expected to be able to coherently discuss the ideas and methods behind their own (and fellow students') compositions and the performances of them. （授業科目の概要：本ワークショップは、音楽に関心のある全てのレベルの学生を対象にしている。本ワークショップは、教室内の活動、課題提出、練習、個人ならびにグループでのプレゼンテーションで構成され、作曲家がどのように作曲・編曲するかについて実践的に学ぶ。学生たちは、音楽を聞き、また標準的な西洋ならびに日本の伝統音楽、そして実験的な図式表記法について学んでいく。初めは、自分で歌ったり演奏できたりする簡単な楽曲の作曲に取りかかる。そして徐々に、より複雑な作曲に挑戦していく。学生は、自分が作曲するにあたっての様々な音楽的な問題の解決に取り組むことにより、自分自身の楽曲を見直していく。クラスでは、それぞれの学生の新しい楽曲を一緒に演奏し、相互に検証してみる。そうした活動を通して、学生は、作曲とダンスや演劇との密接な関係について学んでいく。担当教員は、学生を指導・鼓舞するだけではなく、次回のワークショップの準備のための作曲課題や練習が、確実に行われるよう監督していく。本ワークショップでは、エッセーを読んだり、録音音源を聞いたり、いくつかの楽譜を論評したりする。学生は、ワークショップで学んだことと、その他のクラスで学んでいることの関係性を日記にまとめていく。 授業科目の目的：（1）学生は、全てのワークショップに参加し、自分自身の楽曲、そしてその他の学生の楽曲について、積極的に議論する。（2）本授業終了後に学生は、(i) 西洋音楽の作曲法ならびに日本の伝統音楽の作曲法の基本について、理解している。(ii) いくつかの短い楽曲を作曲できるようになる。(iii) 自分や他者の楽曲について、議論できるようになっている。(iv) 学期の終盤には、各学生は、自分の楽曲を紹介する演奏プログラムを準備し、実際に演奏する。(v) そして、自分たちの楽曲と、その演奏の背後にある思想や方法論について、一貫した議論ができるようになっている。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Humanities（人文教養）	Music（音楽）	Workshop: Interpretative Dance （ワークショップ：創作ダンス実習）	Course Description: This course is an introduction to Interpretive Dance for students of all levels. Students will learn a variety of dance movements often used in interpretive dance and will begin to explore others. Students will shape their bodies in a manner which makes deeper communication possible. They will be expected to read background essays and to study video materials about important past achievements in interpretive dance, such as the work of Merce Cunningham and his Dance Company, as well as other materials about native dance forms of several indigenous peoples, in order to deepen their own understanding of interpretive dance. Of central importance will be engaging in a process of self-discovery by searching for possibilities of communication with others in an impromptu manner, and thereby finding sources of inner creativity. All students will be expected to keep a written journal during the semester in which a record of learning experiences in the workshops and rehearsals is kept plus reflections on the relation of these learning experiences to other courses that she/he is taking. Near semester end, students will prepare a short performance (individual and in various groups) to show the level of skill they have developed in the workshop. Course Objectives: Students who have successfully completed this course should be able: 1) to explain how he/she uses the self-understanding and skills gained in this workshop to preprare and present her/his part(s) of group interpretive dance presentations and solo dance, 2) to demonstrate several dance movements that she/he has learned or discovered during thte workshop sessions, 3) to coherently and intelligently discuss the work of several well-known dancers and dance companies which have been studied in the course, and 4) to have avanced in his/her skills in interpretive dance during the course of workshops. （授業科目の概要：全レベルの受講者を対象にした創作ダンス入門コース。受講者は、創作ダンスで用いられる多様な動作から始め、次第に他の動きも学んでいく。また、ボディートレーニングを通し、内なる創造性と肉体のとのより深いコミュニケーションを図る。創作ダンスについての理解を深めるため、当該分野の文献閲読、これまでの重要な作品（マース・カニングハムと彼の舞踊団が手がけた作品など）や、いくつかの現住民族による民族ダンスのビデオ視聴も課される。最も重要な点は、即興的なパフォーマンスを通して他者とのコミュニケーションの可能性を探索し、その過程において自己発見を図るとともに内なる創造性を発見することにある。全ての受講者は、各自の練習・学習経験の内省と他の科目との関連性を考察するために、「練習日記」を記すよう指導される。また学期末には、本ワークショップにより修学した技術を示すため、ソロ及びグループでショート・パフォーマンスを行う。 授業科目の目的：本授業を通し、受講者は以下の目標達成を目指す。（1）グループ／ソロのダンス・パフォーマンス準備及び実演において、本ワークショップで得た技術と自己理解をどのように用いるかを説明することができる。（2）本ワークショップ受講中に学んだダンス動作、または自らが発見した動作を実演することができる。（3）本授業で学んだ数人の著名なダンサーやいくつかの舞踊団による作品について、それぞれを関連付け考察し、議論することができる。（4）創作ダンスの技術を向上させる。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Humanities（人文教養）	History（歴史学）	World History （世界史）	Course Description: This course is an invitation to explore faraway places and distant times from a global perspective. We will study the worldwide travel of people, goods, and ideas during the last two millennia. We will learn how global trade, migration, and intellectual exchange transformed the world. We will examine the arrival of new technologies and how they changed the global economy. We will also look at the rise and fall of powerful empires and the origins and aftermath of international armed conflicts. Our global approach will allow us to identify the major events in world history and assess their implications for the world we live in now. Course Objectives: At the end of this course, students should be able to: (1) use the analytical tools of an historian and appreciate the pleasures and challenges of thinking historically (2) identify the key themes of world history and give reasons for their importance (3) put themselves into the position of other people in different places and times and consider their perspective on history (4) apply the knowledge acquired in the lecture by writing an essay on a historical topic and presenting it to the class (5) engage with the daily world news from a historical perspective, think about the historical background of present day events, and assess their global implications （授業科目の概要：本授業は、受講学生にグローバルな視点から遠い地域と遠い過去の時代を探求する機会を与える。過去2000年における人間、物資、思想の全世界に渡る移動について学習する。グローバルな貿易、移民、知的交流がどう世界の形を変えていったのか、加えて新しい技術の出現そしてそれらがグローバル経済をどう変化させていったのかについて検討する。また強力な帝国の勃興と衰退、そして重要な国際紛争や戦争の原因と余波についても分析する。この授業でのグローバルな取組みは、受講学生に世界史の重要な転機を認識させ、その転機が現在私たちの生きる世界に密接に関係していることを検討・評価させる。 授業科目の目的：本授業終了後、学生は以下を達成することが期待される。（1）歴史家の分析手法を用いて、物事を歴史的に考える楽しさと挑戦の価値を認識する。（2）世界史の鍵となるテーマを特定し、その重要性の理由を説明することができる。（3）異なる地域と時代の人々の立場に自らを据え、彼らの歴史的視点を考察できる。（4）授業で学んだ知識を用いて歴史を主題とする小論文を書き、その発表を行う。（5）歴史的視点から日常の世界ニュースに関わり、現在の出来事の歴史的背景について考え、それらの世界的な影響を検討・評価する。）	
		Japanese History （日本史）	Course Description: This course explores Japan’s eventful history from its early beginnings to the present. We begin with a survey of ancient and medieval Japan before turning to the Tokugawa shogunate and its turbulent collapse. We then study the history of modern Japan with close attention to the tensions between Westernization and “Japaneseness.” We focus also on the major changes of postwar economy and politics and how transformations in these areas have affected everyday lives. The course illuminates the tight connection of Japan’s history to a global context. This is an interactive lecture-type course. Students are required to complete homework assignments prior to class and to contribute frequently to class discussions. Course Objectives: At the end of this course, students should: (1) be able to identify historical patterns and recurring themes that help connect Japan’s history with that of other countries (2) know how to access and read primary sources to adopt a historical perspective, identify the concerns and intentions of secondary sources, and develop an awareness of different approaches to make sense of the past (3) gain an awareness of how Japan’s present situation in the world is embedded in the country’s history (4) engage thoroughly in writing about historical events by putting forward an argument and developing it in a clear and coherent manner (5) learn how to articulate and refine ideas in discussions and presentations （授業科目の概要：本授業では、古代から現代に至る日本の歴史について探求する。まず古代日本から中世日本、そして徳川幕府とその衰退までを概観する。次に「西洋化」と「日本らしさ」の摩擦に特に注目して近代日本をたどる。加えて戦後経済と戦後政治の重大な転換に重点を置き、この転換が日常の社会生活にどう影響したのかを検証する。この授業では日本の歴史を世界の状況に密接に結びつけ検証していく。授業は対話式の講義で行われる。学生は事前に出された課題を完了し授業に望むこととし、授業中の議論に参加することを要求される。 授業科目の目的：本授業終了後、学生は以下を達成することが期待される。（1）歴史的なパターンと反復する課題や問題を明らかにすることにより、日本の歴史と他国の歴史を結びつけ理解する。（2）一次資料の入手利用方法とそれらの読み方を学び、歴史的視点を身に付ける。次に、二次資料の関心対象と趣旨を分析し、歴史の解釈には異なった方法があるという認識を学んでいく。（3）世界における現在の日本の状況を歴史的視点から理解する。（4）歴史学的な小論文の書き方を学ぶ。最初に自身の考えを明示し、それを分かり易くはっきりと議論立てて説明していく。（5）議論と発表の場において、自身の考えを明確に説明すること、更に議論を洗練させていくことを学ぶ。）	

科目区分		授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
Humanities（人文教養）	History（歴史学）	History of Technology in Japan （日本技術史）	Course Description: In this class we will examine the role of technology in Japan’s history from the 1800s to the present. In the first part of the course we will follow Japan’s rapid industrialization until the mid-1930s. We will explore the legacy of Tokugawa technology, the role of technology transfer and diffusion during the Meiji period, and the emergence of Japan’s large-scale industries. In the second part will look at icons of modern Japanese technology such as the Zero-sen fighter aircraft, the Shinkansen bullet train, and humanoid robots and put them into a wider context of technology and World War II, technology and Japan’s economic miracle, and technology in Japan’s changing society. Course Objectives: At the end of this course, students should be able to: (1) identify the historical roots of Japan’s technological transformation (2) put Japan’s technological development into a context of international competition and cooperation (3) assess the role of technology in Japan’s rise to an industrial superpower (4) connect the history of Japan’s technology to major political, economic, and social developments （授業科目の概要：本授業では、1800年代から現代に至る日本の歴史における「技術」の役割を検討する。授業前半では、1930年代半ばまでの日本の急速な工業化までの道のりをたどる。まず、江戸徳川期の技術遺産について検討し、次に、明治期における欧米からの技術移転と国内における技術普及、そしてそれに続く大規模工業の出現までを追う。授業後半では、近代日本技術の象徴である零式艦上戦闘機、新幹線、人型ロボット等を取り上げつつ、「技術と第二次世界大戦」、「技術と高度経済成長」、「変化する日本社会における技術」という広い意味での技術の役割を検討する。 授業科目の目的：本授業終了後、学生は以下を達成することが期待される。（1）日本の技術的変化の歴史的起源を明らかにする。（2）日本の技術発展を国際競争と国際協調の背景から説明する。（3）日本の工業超大国としての勃興における技術の役割を検討評価する。（4）日本技術史を日本の政治発展、経済発展、社会発展に関連付けて理解する。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Humanities（人文教養）	Philosophy & Religious Studies（哲学・宗教学）	Philosophy, Culture & Civilization （哲学と文明・文化）	Course Description: This course provides an introduction to central concepts and aims of philosophy by looking at the role of philosophy in relation to some of the world's cultures and civilizations. Special reference is made to Western civilization, but we are equally interested in the differences between civilizations. We examine the early origins of civilization in order to find points in common and to investigate what conditions make civilization possible. While making use of ideas of important philosophers of culture and civilization, such as E. Cassirer and A.N.Whitehead, the course also draws upon contemporary interdisciplinary research, including perspectives from history, archeology, anthropology, religious studies, comparative philosophy, ethics and aesthetics. Introductory general explanations of the major concepts of civilization provide a comparative vision of the human condition, concepts of the self, social organization, and ways of understanding the sources of conflict and the hope for the resolution of conflicts. The course traces some key concepts within several world civilizations in relation to developments in philosophy from antiquity to the present. Special emphasis is placed on concepts, philosophical approaches and ideas that have had foundational significance for Western civilization and which may help us to better understand contemporary human problems. We emphasize that Western philosophy has changed and moved through several stages of development as cultures have interacted and as civilization has been transformed by developments in science, technology, politics, religion, the arts and changing human concerns and values. We will seek to reveal stages in the development of philosophy by investigating how major works of literature and art often reflect these developments. Course Objectives: (i.)To examine the nature and roots of human civilization and philosophy regarded as universal creative phenomena; (ii.) To understand what philosophy is and the primary alternative approaches within philosophical studies provided by different cultures and civilizations; (iii.) To investigate the practical application of philosophy & the study of civilizations to addressing human problems: (iv.) To enhance students' understanding of human culture, values, and history; (v.) To improve students' analytical and critical thinking skills; (vi.)To cultivate in students creative & critical approaches to understanding how philosophy contributes to each civilization. （授業科目の概要：本授業では、世界の主な文化・文明に関する哲学の役割について学ぶことを通して、哲学の中心的な概念や目的について、紹介していく。特に西洋文明について焦点を当てるが、同時に、様々な文明間の違いについても、関心を払っていく。どんなことが要因で人類文明が発祥したかについて考え、その共通点を探るために、文明の発生初期段階を検証していく。エルンスト・カッシーラーやアルフレッド・ノース・ホワイトヘッドといった、人類文化・文明の分野で重要な哲学者たちの思想を活用する。同時に、歴史、考古学、人類学、宗教学、比較哲学、倫理学、美学からの視点に基づく、現代の様々な分野の知見も、活用していく。文明に関する重要コンセプトを概観するために、人間の条件、自我のコンセプト、社会組織、そして紛争の原因を理解する方法と紛争解決のための希望に関する比較認識を、行っていく。本授業では、いくつかの世界文明内の主要な概念を、古代から現在に至る哲学の発展と併せて、たどっていく。特に、西洋文明に重要な足跡を残した概念、哲学的な手法、思想といったものに、焦点を当てる。なぜなら、こうした概念、手法、思想といったものは、現代の人類が抱える課題を、より良く理解する、手助けになると考えるからである。これまで、様々な文化が相互に交流し、科学、技術、政治、宗教、芸術、そして人類の関心や価値観の変化によって、文明が転換してきたように、西洋哲学もいくつかの発展段階を経て現在に至っていることを、強調しておきたい。本授業では、著名な文学や芸術が如何に哲学の発展に貢献してきたかを調べることによって、哲学発展の推移を、解明していく。 授業科目の目的：（1）人類文明と哲学の本質を、普遍性のある創造現象としてとらえ、検証する。（2）まず哲学が何であるかを定義し、様々な文化・文明によって生み出された哲学的な手法を理解する。（3）人類が抱える課題の解決のために、哲学の実際的な適用法を検証し、様々な文明に関する研究を行う。（4）人類の文化・価値観・歴史に対する理解を促進する。（5）哲学が如何に人類文明に貢献してきたかを検証するための、創造的で批判的な手法を、修得する。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Humanities（人文教養）	Philosophy & Religious Studies（哲学・宗教学）	History of Western Philosophy （西洋哲学史）	Course Description: This course investigates themes and thinkers which form the core of the Western philosophical tradition from the ancient Greek philosophers to philosophy in the 20th & 21st Centuries. Attention is given to ways that Western religious traditions, as well as the arts and the sciences, have interacted with Western philosophy. Philosophers and philosophies to be discussed include: The Pre-Socratics; Socrates; Plato; Aristotle; Augustine; Descartes, Spinoza & Rationalism; J. Locke & Empiricism; Kant; Nietzsche; W. James & Pragmatism; Heidegger, Sartre & Existentialism; The rise of Analytic Philosophy and Phenomenology; Philosophy today. We aim to understand Western culture more fully by understanding the central place of philosophy in Western culture. We ask how philosophy can contribute to understanding on a global scale and toward resolving global issues. Course Objectives: At the end of this course, students should be able to: (i.)Identify and understand several central problems of philosophy and how key philosophers in the Western tradition have addressed these problems; (ii.)Express their own views on these philosophical questions and their reasons in support of their own views; (iii.)Understand more fully (as the result of refining their reading, critical and argumentative skills) the different ways in which people have disagreed about such matters as: what is the right or the wrong thing to do or what is real or what we truly know; (iv.)Understand more fully, and with a broad interdisciplinary perspective, how philosophy has developed historically from the ancient Greeks to the present, and has influenced Western thought, culture and institutions. During this course: · The student will develop careful, thorough and precise ways of reading, and listening to, philosophical works. (These are general techniques that you will find apply well to other fields as well, and so will help improve your general reading, studying and listening skills.) · The student will learn about the basic areas or sub-fields within philosophy, the kinds of questions that arise in each area, as well as the importance of reasoning, experience and feeling for each area. · The student will improve his/her logical and critical skills. The student will come to see how the continued study of philosophy can enrich understanding of Western culture and various features of it, such as literature, music, art, science, politics and religion. Students of Western philosophy often say that this study has allowed them to better understand and appreciate Western culture in several contexts. For example, study of American pragmatism may help the student to better understand the emphasis on individual opinion and expression and the ways ideas are tested through social practices within North American culture. By reading beyond the assigned readings in the textbook (as the professor will often suggest), the student will become aware of non-Western alternatives in philosophy. （授業科目の概要：本授業では、古代ギリシャ時代の哲学から 20 世紀、21 世紀の哲学に至る、西洋哲学の伝統の主軸を担うテーマや哲学者たちについて学んでいく。特に、芸術や科学、そして西洋宗教の伝統が、どのように西洋哲学と関わってきたかに、焦点を当てる。次のような哲学者ならびに哲学を取り扱う：ソクラテス以前、ソクラテス、プラトン、アリストテレス、アウグスティヌス、デカルト、スピノザと合理主義、ジョン・ロックと経験主義、カント、ニーチェ、ウィリアム・ジェームスと実用主義、ハイデガー、サルトルと実存主義、分析哲学と現象学、そして現代の哲学。西洋哲学の本流を理解することによって、西洋文化をより深く理解することを目指す。授業の中心となるテーマは、哲学は如何に世界規模の課題の理解と解決に貢献できるか、ということである。 授業科目の目的：本授業終了時に学生は、（1）哲学の重要課題を明確化でき、西洋史上の主な哲学者はそうした課題に如何に取り組んできたかを、理解している。（2）哲学的課題に対する自分自身の意見とその理由を、表現できるようになる。（3）読解力、批判ならびに議論する力を育んだ結果として、容易に合意することができない難題（例えば、なにが、して良いことか、悪いことか？何が真実か？我々が本当に知っていることは何か？）に対する様々な見解について、より深く理解できるようになる。（4）古代ギリシャ時代から現在まで、哲学が如何に発展してきたか、そして西洋の思想、文化、社会に、どのように影響を与えてきたかについて、幅広い視点から、充分に理解できるようになる。 本授業を通して、 · 哲学作品に対して、注意深く、綿密で、正確な、読解力・リスニング力を身につける。（こうした技術は、その他の学習でも役立つものであるので、結果的に一般的な読解力、学習能力、リスニング力の上達に貢献する。） · 哲学の基本領域とそれに付随する領域、それぞれの領域で生じる一連の課題、そして、それぞれの哲学領域における、論理的思考、経験、感情の重要性について、学ぶ。 · 論理的思考、批判的思考を上達させる。 哲学の継続的な学習は、西洋文化とその特徴（文学、音楽、芸術、科学、政治、宗教）の理解に、如何に役立つかを、認識する。本授業の受講生は、西洋哲学の勉強が、西洋文化を様々な視点からよりよく理解する為に、大変役立つことを、理解する。例えば、アメリカの実用主義を学べば、北米文化における個人の意見や表現の自由が実社会で検証されていく様子について、より深く理解できるようになる。西洋哲学以外の哲学に対する認識を深めるため、教員はしばしば指定教科書以外のリーディングも要求することになる。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Humanities（人文教養）	Philosophy & Religious Studies（哲学・宗教学）	History and Philosophy of Science （科学史・科学哲学）	Course Description: This course provides an introduction to key ideas and approaches proposed in philosophy as ways of understanding the aims, practices, and limits of science. We survey several approaches which have been proposed, with special attention to those from the late 19th Century to the present: positivism and Reichenbach's logical empiricism; Popper's critical rationalism; Kuhn's account of scientific revolutions; van Fraassen's constructive empiricism; Giere's perspectivism and several approaches in the sociology of science will be included. In order to assess the adequacy of these accounts of science, we will investigate key developments in the history of science. Following the approach of DeWitt's Worldviews. (2nd edition, 2010), we follow the path from Aristotle's science through Galileo and Newton to Einstein, with special reference to changing theories in astronomy and cosmology. But we also follow the route in biology from Aristotle through Darwin to the discovery of the structure of DNA, as well as a host of other episodes in the history of scientific thought. We ask what strengths and weaknesses we can discover in the various alternative approaches to understanding science which are mentioned above, by reference to case studies from the history of science. We consider the role of logics (deductive and inductive) in science. And we end the term by investigating what the limits of science are, and what relevance scientific knowledge may have to ethical or social issues today. Course Objectives: At the end of this course, students should be able to: (i.)Show an understanding of several major questions central to philosophy of science today; (ii.)Present several of the main approaches used in the past century to interpret science and its history, and several strengths and weakness of each approach; (iii.)Give examples from the history of science which illustrate some of the strengths and weaknesses of the main approaches studied; (iv.)Coherently discuss how theories of the motion of the heavenly bodies were improved from the ancient views of Aristotle and his predecessors to Newton and also to Einstein; (v.)Coherently discuss the transition from Aristotle's ideas in biology to Darwin's theory of evolution and to outline several common misunderstandings of Darwinian evolution; (vi.)Show acquaintance with key concepts and terminology of formal logic; (vii.) Comment in an informed way on whether, and in what ways if any, science can be applied to ethical issues. （授業科目の概要：本授業では、科学の目的、実践、限界について理解する手段として、哲学の主な思考や手法について、学んでいく。特に、19 世紀後半から現在に至る様々な手法について、検証していく。具体的には、実証主義、ライヘンバッハの論理経験主義、ポパーの批判的合理主義、クーンの科学革命の構造、ファン・フラーセンの構成的経験主義、ロナルド・ギエールの遠近法主義、ならびに科学社会学の様々な手法を、学ぶ。科学に対する評価の妥当性を分析するために、科学史における主な発展を、検証していく。デウィット執筆の『Worldviews』（第２版、2010 年）の手法に則って、アリストテレスの科学から、ガリレオ、ニュートン、そしてアインシュタインへと、特に天文学、宇宙論における学説の変遷に注視しつつ、彼らの足跡を辿っていく。また、その他数多くの科学的思考の変遷も追っていく。例えば、アリストテレスから、ダーウィン、DNA 構造の発見に至る、生物学の変遷も、学んでいく。科学史の様々なケーススタディを参照しつつ、上記に紹介した様々な科学的手法の、長所と短所を検証していく。演繹法、帰納法といった科学的論法の役割についても、検討する。そして最後に、科学の限界について、そして現代の倫理的もしくは社会的な課題の解決のために有効な科学的知識について、検討する。 授業科目の目的：本授業終了後に学生は、（1）現代の科学哲学の中心的な問題について理解し、説明できる。（2）科学を解明するために、20 世紀に用いられた主な手法、その歴史、それぞれの長所・短所について説明できる。（3）そうした長所・短所に関する科学史の事例を例示できる。（4）天体の動きに関する理論が、アリストテレスとその先駆者の時代の視点から、ニュートン、アインシュタインの時代に至るまでに、どのように変遷していったかについて、首尾一貫性を持って、議論することができる。（5）生物学におけるアリストテレスの考え方から、ダーウィンの進化論に至るまでの変遷について、首尾一貫性を持って、議論することができる。そして、ダーウィンの進化論の中の、いくつかの誤解についても、説明ができるようになる。（6）形式論理学の主要概念と用語に慣れる。（7）次の質問に対して、意見を述べられる：科学は倫理的な課題に対応できるかどうか？そのためには、どのような方法がありうるだろうか？）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Humanities（人文教養）	Philosophy & Religious Studies（哲学・宗教学）	Creativity in the Sciences and the Arts （科学と学芸における創造性）	Course Description: Creativity is the birthright of every human being. We are creative in ways which we often fail to be aware of, or to consider. But creativity is something which we value when we encounter it in others. We ask ourselves: how can I be more creative? And what is creativity, after all? In this course we aim to investigate the key questions of what creativity is and what factors it involves. Our ideas about creativity are first shaped by our home culture and upbringing. So we begin by considering several myths and stories of creation and what they may reveal about creativity. Then we will consider several ideas developed in philosophy about creativity in the works of A.N.Whitehead, E. Cassirer, I.Kant, and M.Boden. It is commonly held today that the most successful approach to understanding the creative process is by way of interdisciplinary study. This is the approach we will use. Following the lead of works by M.Csikszentmihalyi and H.Gardiner, we explore the core factors identified for the creative process: 1.individual, 2.social, and 3.symbol system of discipline or work. Their interdisciplinary framework is then applied in a careful exploration of several case studies of creative *scientists* (Einstein, Darwin, Copernicus) and *artists* (painter P.Picasso, jazz musician J.Coltrane, and dancer Martha Graham). We attempt to see whether there is a core concept of creativity and certain creative factors which can be traced through the works of these individuals. We try to learn from Darwin by asking what evolutionary theory may reveal about the process of creation. Finally we return to our core questions: what makes creative expression and innovation possible? In the final weeks of the term, student groups present their own case studies and conclusions. Course Objectives: At the end of this course, students should be able to: 1.Outline the core ideas and principles of at least two alternative theories of the creative process and to show how information from several fields have been used in developing these theories; 2.Discuss what is gained by using the interdisciplinary approach of using several fields; 3.Apply at least two theories of the creative process to account for activities of an individual scientist or artist about whom we have studied in the course; 4.Apply at least two theories of the creative process to an artist or scientist not covered in the course; 5. Display critical, inquisitive and creative (!) skills in responding to the presentations of fellow students; 6.Discuss what he/she will do next to apply ideas about creativity. （授業科目の概要：創造力は、人類全てが生まれながらに持っている資質である。我々はその事実を忘れがちであるが、自分以外の他者にそれを見いだした時に、大きな価値を感じるものである。自分自身に対して、どうしたら自分がもっと創造力を発揮できるか、尋ねてみよう。一体、創造力とは、何だろうか？　本授業では、創造力とは何か、創造力はどんな要因で構成されているか、という質問に対して、検証を行っていく。創造力についての思想は、それぞれの国の文化や教育環境によって、形成されるものである。従って、まずはそれぞれの国の天地創造の神話について検討し、そこから創造性についてどんなことが明らかになるか、検証してみよう。次に、ホワイトヘッド、カッシーラー、カント、ボーデンの創造力に関する哲学を、検討してみる。創造的プロセスを理解するための最も有効な手法は、学際的な幅広い学習法によるというのは、現代では衆目の一致するところである。従って、本授業でも、この手法を活用する。ミハイ・チクセントミハイやハワード・ガードナーの業績を参照し、創造的プロセスを、（1）個人レベル、（2）社会レベル、そして（3）シンボルシステムの考え方に分け、その主要因を検証する。次に、そうした横断的な枠組みを活用し、歴史上の何人かの創造力が突出した科学者（アインシュタイン、ダーウィン、コペルニクス）と芸術家（画家／ピカソ、ピアニスト／コルトレーン、ダンサー／マーサ・グラハム）たちを、詳細にケーススタディする。こうした傑出した人物の研究を通して、創造力に関する主要概念とその要因について、検証していく。例えば、ダーウィンの進化論は、天地創造のプロセスに対して、どんなことを明らかにしているかを、ダーウィンに問いかけることによって、学ぶことができる。最後に、何が創造的な表現や変革を可能にするのか、という最初の質問に戻ろう。学期の最終週には、学生はグループに分かれ、自分たちのケーススタディと結論について、発表する。 授業科目の目的：本授業終了後に学生は、（1）創造的プロセスに関する少なくとも２つ以上の理論の概要と原則について説明できるようになる。（2）横断的な枠組みを使うことによってどんなことが学べるかを、理解している。（3）少なくとも２つ以上の創造的プロセスに関する理論を、本授業で学んだ科学者もしくは芸術家の行動説明に、適用することができる。（4）本授業で取り扱わなかった芸術家もしくは科学者に、創造的プロセスに関する少なくとも２つ以上の理論を、当てはめることができる。（5）他の学生の発表を論評することを通して、批判的で、好奇心旺盛で、創造的なスキルを、育成する。（6）創造力に関する思考を、次にどこで適用するつもりか、議論できる。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Humanities（人文教養）	Philosophy & Religious Studies（哲学・宗教学）	Comparative Philosophy （比較哲学）	Course Description: This course is an exploration of several key philosophical issues and concepts in the contexts of several distinct cultures, past and present, by investigating the intellectual or cultural background to the philosophers and issues studied. The course begins with a careful study of Thomas Kasulis's Intimacy and Integrity. Philosophy and Cultural Difference (2002), in which a dynamic general framework for understanding cultural differences between philosophies and traditions is elaborated. Then we turn our attention to examples of philosophy in Europe, China, India and Japan with the aim of developing comparative perspectives by applying Kasulis's model. Themes for the course include: knowledge and rationality; alternative understandings of what is real and the question of cultural relativism; concepts of mind and selfhood; concepts of the good and the ideal society; the role and appreciation of works of art in different cultures. Examples of themes for lectures and/or student group-presentations in the final weeks of the course: experience, self & personal identity in Descartes, Locke and Indian philosophers; the concept of the Good in Ancient Greek and Chinese philosophies; nihilism as interpreted in the work of Western philosophers such as Nietzsche, and in the philosophy of Nishitani Keiji; other themes in the Kyoto School of Philosophy (Nishida and Nishitani) in relation to key Western philosophers; alternative views about the relation of philosophy and religion to creative expression in music; differences between Japanese & Western arts; concepts used in Eastern & Western cultures about our responsibility for nature and environmental problems. Course Objectives: In this course, through the comparative studies we undertake, (i.) Students will develop an appreciation and understanding of several major philosophical issues as they appear in several distinct cultural settings; (ii.) Students will become familiar with applying Kasulis' method of cultural comparison; (iii.) Students will learn ways to uncover similarities and differences between different cultures with special reference to philosophical and religious perspectives; (iv.) Students will develop careful, thorough, and precise ways of reading works in philosophy with attention to making clear comparisons between philosophers & philosophies; (v.) Students will improve their logical and critical skills; (vi.)Students will come to see how the comparative study of philosophy can enrich their understanding of philosophies, religions and other aspects of various cultures as well. （授業科目の概要：本授業では、様々な哲学的課題についての知的／文化的な背景を研究することによって、いくつかの顕著な文化間、そして過去と現在といった文脈で、いくつかの重要な哲学的な課題や概念を、学んでいく。最初に、哲学と伝統との間の文化的な違いについて理解するための大胆な骨組みについて詳説しているトマス・カスリスの『親密性か自己統合性か―哲学と文化差異』(2002年）を、注意深く学習していく。続いて、ヨーロッパ、中国、インド、日本の哲学を例にとり、カスリスのモデルを適用することによって、それぞれの哲学を比較する力をつけていく。本授業では、知識と合理性、現実とは何かや文化相対主義に対する複数の認識、心と自我という概念、善と理想的な社会に関する概念、異なる文化間における芸術の役割と評価、といった主題を取り扱う。本授業の終盤では、次のようなテーマで講義または学生のグループ発表を行う：デカルトやジョン・ロック、インドの哲学者たちにおける経験と自己認識；古代ギリシャならびに中国における善の概念；ニーチェ等の西洋哲学者たちの作品における虚無主義と西谷啓治の哲学における虚無主義；主要な西洋哲学者たちに対しての、西田や西谷に代表される京都学派の主題；音楽表現と哲学や宗教との関係に関する視点；日本と西洋の芸術の違い；自然や環境問題に対する責任感についての東洋文化と西洋文化の違い。 授業科目の目的：比較研究の視点から学ぶことによって、学生は、（1）複数の際立った文化環境の中で出現した哲学的な課題を評価／理解する力を、育む。（2）カスリスの文化比較の手法の応用に慣れ親しむ。（3）特に哲学的・宗教的な視点に重点を置いて、異なる文化間の相違点を明確化する手法を修得する。（4）哲学者と哲学を明確に区別しつつ、哲学書を、注意深く、綿密に、そして正確に、読むことができるようになる。（5）論理的／批判的スキルを向上させる。（6）最終的に、比較哲学の視点が、それぞれの哲学、宗教、文化側面を理解するために、如何に有効であるかを、理解するようになる。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Humanities（人文教養）	Philosophy & Religious Studies（哲学・宗教学）	Philosophy and Environmental Issues （哲学と環境問題）	Course Description: This course provides an introduction to the application of philosophy in response to major contemporary issues about the environment, with special reference to environmental ethics. We will examine several ways that philosophy has been used in trying to clarify our responsibilities for the natural world and will explore a wide range of approaches used in responding to this challenge: the Land Ethic of Aldo Leopold; utilitarian analysis, including cost-benefit environmentalism; A.Naess and the philosophy of deep ecology; eco-feminism; Bookchin's social ecology; the free-market economy vs. political responsibility for future generations. Following this overview of approaches, we will focus on two main themes for the course: sustainability of forest resources and environmental issues relating to the use of nuclear energy. We will investigate how several of the above approaches can be applied to the two issues noted above. After achieving some perspective from study of these core cases, students will then prepare small-group or individual presentations using their own chosen approach to study problems of (for example) diminishing global water resources, climate change, GM foods, or other environmental problems which challenge us today. Course Objectives: At the end of this course, students should be able to: 1. Present in outline the central concepts and principles of several of the major alternative approaches available for using philosophy in the study of environmental issues; 2. Present ways of applying at least two of the approaches to environmental ethics studied within the course to address two or more major environmental issues, not limited to the themes noted above; 3. Present, clarify, criticize and improve arguments *for and against* various approaches to resolving environmental issues.; 4. Demonstrate improved skills in presentation of the student's own positions on major environmental issues. As new information about the environment is uncovered and as interpretations shift, it is extremely rare for anyone's views on environmental issues to remain unchanged over long periods of time. Students who have completed this course should be able to explain in what ways (and especially, *why*) their views on environmental issues have changed over time. （授業科目の概要：本授業では、環境倫理学に焦点を当て、環境に関する現代の主要課題に対応するための哲学の活用法について、紹介していく。自然界に対する人類の責任を明確化しようとするために哲学がどのように活用されてきたかを検証する。環境問題に対応するために実際に使われた数多くの手法を、調査していく。具体的には、アルド・レオポルドの土地倫理、功利主義的分析（費用便益法に基づく環境保護主義を含む）、アルネ・ネスとディープ・エコロジーの哲学、エコフェミニズム、マレイ・ブクチンのソーシャル・エコロジー、そして自由市場経済と次世代に対する政治責任との対比について、検証する。様々な手法を概観した後に、本科目の２つのメインテーマである、森林資源の持続可能性と、原子力エネルギー活用に伴う環境問題に、焦点を当てていく。上記の様々な手法が、この２つのメインテーマにどのように活用できるかを調査する。こうしたケーススタディを通して、いくつかの視座を得た後に、各学生は、様々な環境課題（世界規模での水資源の枯渇、気候変動、遺伝子組み換え食品、その他今日我々が直面している環境課題）を分析するための手法を自ら選択し、それを使って、小グループもしくは個人で、発表の準備をする。 授業科目の目的：本授業終了時に学生は、（1）環境問題の研究における哲学の様々な手法の概念と原則について、概略説明ができる。（2）環境倫理学の２つ以上の手法を使って、２つ以上の主要な環境問題を選択し、そうした手法がそれらの課題に如何に適用できうるかについて、説明できる。ただし、上記手法だけに限定しない。（3）環境問題解決のための様々な手法について、明確に、批判的に、そして上手に、賛成／反対の議論ができるようになる。（4）重要な環境課題に対して、自分自身の立場をしっかりと説明できるスキルを身につける。環境に関する新しい情報が開示され、これまでの解釈が変更されることはあり得ることなので、環境課題に関する意見が長期間にわたって変わらないということは、極めて稀である。本授業を終了した学生は、環境問題に対する自分の意見が、時間とともにどのように（そして特に、なぜ）変わっていったのかについて、説明することができる。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Humanities（人文教養）	Philosophy & Religious Studies（哲学・宗教学）	Seminar (Philosophy) （哲学演習）	Course Description: The role of the seminar is to support the successful completion of the Graduation Research Project (GRP), a graduation requirement for all students. In this seminar we will look at the theme that each student has chosen for the Writing-Across-Curriculum (WAC) program, upon which the GRP is based, through the lens of theories, paradigms, and concepts from the field of Philosophy. Students will take turns presenting their research at different stages of their thesis development. Their peers, under the supervision of the seminar instructor, will discuss and critique each presentation to give the presenters an opportunity to refine their own thesis. Through such interactions peers will learn how to avoid problems with their own projects. Course Objectives: At the end of this course, students will have: (i) analyzed an important world issue from the perspective of a philosopher, (ii) conducted at a high level of proficiency their own research project, and (iii) written a high-quality graduation thesis in their own chosen area. （授業科目の概要：本演習の役割は、全ての学生の卒業要件である卒業研究（GRP）を成功裏に完了することを、支援することである。本演習では、各々の学生がカリキュラム横断型作文プログラム（WAC）のために選択したテーマを、哲学分野の理論、理論的枠組み、概念をベースに、検証していく。学生は順番に、自らの論文の進捗状況を発表していく。本演習の教員の監督の下に、他の学生はその発表について議論／批判を行う。そうすることで、発表者は自身の論文をより洗練させる貴重な機会を得ることができる。このような交流を経て、発表者以外の学生も、自らの研究における同様の問題の回避の仕方を、学ぶことができる。 授業科目の目的：本演習終了時に学生は、（1）哲学的な視点で、世界の重要な国際問題を分析できる。（2）自らの卒業研究を、高度に習熟した状態で、実行することができる。（3）自らが選択した分野に関する、質の高い卒業論文を書き上げることができる。）	
		World Religions （世界の宗教）	Course Description: This course studies the major tradition that can be called “religious” including Judaism, Christianity, Islam, Buddhism, Hinduism, and some of the Eastern Traditions. We will survey each religion in general including history, doctrine, and practices, and in particular we will focus on the interaction of the religion and politics. We will also examine what the religion claims to believe and what they actually practices; how it seems itself and how it is seen from outside. The course will be given in an interactive-lecture style and the students are expected to be actively involved in the class discussions. Besides the attendance and participation, each student will choose a news story from the last five years in which a religion was involved in a social conflict, and write an analysis paper paying attention to both the views of the religious group and of the outsiders. Course Objectives: By the end of the course students should i) have broad understanding of each of the main religious traditions, ii) be able to analyse interactions and influences of religions on each other and on the society as a whole, iii) be able to relate the knowledge of religions to historical and contemporary events in the world, iv) be able to gather relevant information and synthesize it in order to state and defend their own conclusions, and v) learn how to present and argue effectively in discussions. （授業科目の概要：この授業では一般的に「宗教」と呼ばれ、世界的に流布するいくつかの伝統について概観する。ユダヤ教、キリスト教、イスラム教、仏教、ヒンズー教、その他の東洋宗教思想といった、各々の伝統の歴史、教義、実践を概観し、特に宗教と政治の関係について焦点をあてて分析する。授業形式は講義によるが、ディスカッションを交えたインターラクティブな形態をとるので、受講者は積極的に参加することが必須である。ディスカッションでは宗教の教理と実践の間の連関や矛盾などのテーマを批判的かつ理論的に論じることが要求される。また、出席とディスカッションの参加に加え、受講者は過去５年以内の（それ以前の例を用いたい場合は講師と要相談）「宗教」が話題となった国内・国際ニュースをピックアップし、レポートを作成する。レポートではニュースとなった事柄の概要を宗教団体のそれに対する意見、また宗教団体に属さない関係者の意見を示し、それについての分析と自らの見解を論理的に述べなければならない。 授業科目の目的：（1）世界の主要な宗教的伝統についての理解を深める。（2）宗教間、宗教と社会間の相互関係について考察する視点を養う。（3）宗教的伝統について得た知識を歴史や現代の出来事を理解する際に応用することができるようになる。（4）課題に関連性のある情報を集め、それを統合して結論を導きだし、論じることができる。（5）ディスカッションにおいて自分の意見を的確にまとめ、発言することができる。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Humanities（人文教養）	Philosophy & Religious Studies（哲学・宗教学）	Comparative Religious Studies (比較宗教学)	Course Description: In this course we will examine the historical development of the comparative religion, and major contributors and theories since its emergence as a distinct discipline. We will look at the problem of developing the definition of "religion" that captures the behaviors we intuitively call "religious". We will also apply the methods of comparative religion to analyse some important aspects of religious traditions such as taboos, the view of the outsider, role of women, and the structure of society they envision. Particular attention will be given to religions in Japan, including traditional animism, state Shinto, and some of the new religions. The study will be empirical and inductive: drawing conclusions from actual practices rather than deducing from the first principle. Students will be expected to have read assigned material each week and to be ready to argue and defend their views in class discussion. Course Objectives: Students will be expected to i) have a general knowledge of the development of the discipline of comparative religion, ii) understand and be able to apply the methods of comparative religion, iii) be familiar with religious traditions in Japan and what the comparative religion contribute to the study of these traditions, iv) be able to formulate and present effective argument based on knowledge gained on the course. （授業科目の概要：この授業では比較宗教学の歴史的展開とその貢献者たちによる学説を概観し、比較宗教学がどのように学問としての一分野を築くに至ったのか（あるいは至らなかったのか）考察する。そのなかで、「宗教」という定義の起源と限界についても触れられる。後半では、比較宗教の方法を用いて、実際に宗教の主要なテーマ（タブー、他者観、女性観、各々の宗教が理想とする社会観等）を検討していく。特に日本というコンテクストで生まれ、変容・発展してきた宗教的伝統に着目し、国家神道や新宗教を含めて多彩な運動を分析していきたい。授業内で用いられる研究の視点は実証的かつ帰納的であり、実例を取り上げてそこから結論を導きだしていく。受講生は各回の授業の為に該当するテキストを読んでくること。また、読んで自分の考えをまとめてくること。 授業科目の目的：（1）比較宗教学の歴史と概要を理解する。（2）比較宗教学で従来使われてきた方法論を当てはめて宗教の一側面を見ることができるようになる。（3）日本の宗教伝統についての知識を深め、比較宗教の分類がその理解にどのように役立つか理解する。（4）自分の意見を的確にまとめ、発言することができる。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Humanities（人文教養）	Philosophy & Religious Studies（哲学・宗教学）	Spiritual Dimensions and Traditions in the Japanese Martial Arts （日本武道における精神的側面と伝統）	Course Description: The Japanese martial arts, like other traditional arts in Japan, have been heavily influenced by Zen, Shinto, and Confucian traditions. One way to study these is to examine the literature and classic texts written by both spiritual and martial arts masters. Many of these have been translated into English, as well as examined by Western writers. We will take a critical look at excerpts from the writings of D.T. Suzuki, Miyamoto Musashi, Eugen Herigel, Karlfried Graf Von Durkheim, Thomas Cleary, Trevor Leggett, Nitobe Inazo, William Scott Wilson, and others. This course will also look at the stereotypes of the Samurai popularized in film, and help students develop a perspective on the image of the Samurai, as well as how it changed in various eras of Japanese history. We will also examine how some of these concepts have influenced Japanese manners and behavior (*shigusa*). Course Objectives: At the end of this course, students should become able to: (i) better understand the philosophical base behind any practical training that students might also wish to engage in the martial arts, (ii) be able to understand terms used in the martial arts such as *tanden, zanshin, and maai*, (iii) be able in discussions to cite references from the classic and contemporary writings on the Japanese martial arts, (iv) present a short paper on some aspect of Samurai culture or history from topics selected by the professor, and (v) write a paper on the concept of *bunbu ichido*, mastery of martial and liberal arts. （授業科目の概要：日本の伝統芸術と同様に、日本の武道は禅、神道、儒教の多大な影響を受けている。「文武一道」の精神で、それを学ぶ方法の一つとして、歴史的に残されている禅や武道の達人の文献を読むことができる。数多くの文献が英語に訳され、欧米の著者により解説されている。その中から、鈴木大拙、宮本武蔵、ユーゲン・ヘリゲル、カールフリート・デュルクハイム、トーマス・クリアリー、トレヴァー・レゲット、新渡戸稲造、ウィリアム・スコット・ウィルソンなどの本からの引用を批判的に考察していく。授業ではまた、映画によって作られた「サムライ」の先入観を検証し、時代によって変化したサムライのあり方を学ぶことによって、サムライ像に対する認識を発展させる。そのうえ、いかにサムライ文化が現代の日本人の仕草や考え方に影響を及ぼしているのかも検証していく。 授業科目の目的：本授業終了後、学生は以下を達成することが期待される。（1）実際に参加することを含め、武道のあらゆる稽古の背景にある哲学をより深く理解する。（2）「丹田」「残心」「間合い」など、武道でよく使われている用語を理解できるようになる。（3）クラスのディスカッションの中で武道の伝統的な文献からの引用、解説ができるようになる。（4）教員により指定されるテーマに沿ったサムライ文化や歴史に関する短いレポートを書く。（5）「文武一道」の概念についてレポートを書く。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Humanities（人文教養）	Philosophy & Religious Studies（哲学・宗教学）	Workshop: Practicing Zen （ワークショップ：禅実習）	Course Description: Zen is well known in Japan as the way of life, which was transmitted by Dogen from China to Japan and highly developed in the Muromachi Kamakura Period. It helps students gain an appreciation of Japanese traditional culture. This course will introduce how to practice ZAZEN, which is the basis of Zen. Students will learn the basic movements of Zen in daily life, such as Sitting, Standing, Walking, and Eating. They will also learn by reading "FUKANZAZENGI" (An Instruction of Zazen, designated as a national treasure) and "SHOBOGENZO" (The essential heart of Buddha's teaching) written by Dogen. During the winter period, students will stay in Tenryuji (an authorized ZEN DOJO in Fukui) and practice Zen for 2 days. They will also visit Eiheiji (the head Zen monastery founded by Dogen) and take part in the morning service, which is held everyday for more than 700 years. Students are required to participate actively, and to contribute frequently to class discussions. Course Objectives: At the end of this course, students should be able to: (i) understand the basic terminology used in the practice of Zen, and be able to explain the general idea and history of Zen; (ii) sit comfortably in concentration by learning how to adjust the body in the Zen Method; (iii) adopt the "Zen Eating Method" to daily life, which will be a fundamental part of human's life in harmony; (iv) control their posture at ease by practicing sitting, standing, and walking Methods practiced in a Zen monastery; and (v) gain insights on how to live a sustainable and creative life in unpredictable modern society. （授業科目の概要：この授業では、禅の基本である坐禅の方法を学ぶ。坐る、立つ、歩く、食べるといった禅寺での基本的な所作を実践を通じて覚える。坐禅の指南書である普勧坐禅儀（国宝）、正法眼蔵など道元の主要な著書を読み解く。この授業は休暇期間を利用した集中授業とし、授業の最後には一泊二日の日程で学外での体験を行う。具体的には、福井県にある大本山永平寺を訪れ、700 年以上続く朝のお勤めに参加する。また、その側にある永平寺の直末認可僧堂である天龍寺では、体験修行を行う。授業全体を通して自発的に参加し、積極的に質問することが求められる。 授業科目の目的：本授業終了時には、（1）禅の修行で用いられる専門用語を学び、一般的な禅の概念や歴史について説明できるようにする、（2）姿勢の整え方を覚え、一夫（線香が一本燃え尽きる坐禅の時間単位：約 40 分）動かずに集中して楽に坐っていられる身体作法を覚える、（3）調和のとれた集団生活の基本となる禅の食事作法を日常生活にとりいれる、（4）禅の坐り方、立ち方、歩き方のポイントを学び、美しい姿勢の基本を作る、（5）予測不可能な現代社会で、クリエイティブに持続可能な生活を営むヒントを得ることが期待される。）	集中

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Humanities（人文教養）	Philosophy & Religious Studies（哲学・宗教学）	Workshop: Experiencing Shinto （ワークショップ：神道体験）	Course Description: This course will provide a background in the fundamental theory and practice of Shinto, which is an important part of traditional Japanese culture. The course will show how Shinto helped define much of the Japanese culture and arts, as well as influencing the philosophy, religious sentiment, and psychology of the Japanese people. The theory section will start with a comparison of Shinto and other religions and cultures, which will include a comparison not only with religions (including shamanism) of the world, but also with other traditional Japanese cultural expressions, such as Zen, Sado, or Aikido. This section of the course will also cover the history and classics 大祓祝詞 (ooharae no kotoba) of Shinto, followed by the basic philosophy of Shinto 身禊, 祓い, 祭祀 (misogi, yakubarai, saishi). The object of this section is to understand Shinto as a core element of Japanese culture through a critical examination of Shinto in Japan. It will also lead to thought and discussion of the possible practical usefulness of this understanding for students, who will play an active part in international society. In the practice section, the student will learn the manners of Shinto, such as 柏手, 祝詞, 礼 (hakushu, norito, rei) and then study how these movements are related to body language and behavior within the Japanese culture. This section will involve several visits to Shinto shrines and other related sites. Course Objectives: On completion of this course students will be able to do the following: (i) explain the fundamental concepts of Shinto, (ii) explain how Shinto has influenced the Japanese culture, arts and religious feelings of Japanese people, and became the basis of traditional Japanese culture, (iii) introduce Japanese culture to the people of his or her country or of other foreign countries, including the history of how Shinto influenced the development of Japanese culture, (iv) master the basic knowledge and manners of Shinto, and explain these to people of their own or other cultures when visiting a Shinto shrine. （授業科目の概要：この授業は、日本の伝統文化の一つであり、日本の文化、芸術、日本人の哲学、宗教観、心理を特色付けている「神道」についての基礎実習及び基礎理論の学習を行う。理論編は、他の宗教・文化との比較から始まる。世界中の宗教やシャーマニズムと神道の比較の他、他の日本の文化である、禅、茶道、合気道などと神道を比較する。次に、この神道の歴史と古典（大祓祝詞など）を講義する。そして、基本理論である「身禊」「祓い」「祭祀」等について講義する。日本における神道をクリティカルに検討することで、これからの国際社会で活躍する学生たちが、日本文化の核としての神道を理解し、どのように役立つ可能性があるのかを導き出すことを目的に行う。実践編は、実際に神社等を訪問し、神道の作法を実践する。それは、「柏手」「祝詞」「礼」などの作法である。また、この身振りの表現が、日本人・日本文化とどうかかわっているのかを検討する。 授業科目の目的：本授業終了時には、（1）神道がどのようなものであるかという概要を説明できる、（2）神道が、いかに日本文化、宗教観、芸術に影響を与えてきたかということと、日本の伝統文化の基礎になっていることを理解し説明できる、（3）日本文化を自国や諸外国の人々に説明する際に、神道を中心にした発展してきた歴史的経緯とともに説明できる、（4）神道の基本的な作法と知識をマスターし、自国や諸外国の人々を神社等へ案内した際に、神拝作法や基礎知識について説明ができることが期待される。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Social Sciences（社会科学）	Economics（経済学）	Microeconomics （ミクロ経済学）	Course Description: The course is divided into seven sections: (1) introduction; (2) how markets work; (3) markets and welfare; (4) economics of the public sector; (5) firm behavior and organization of industry; (6) economics of labor markets; and (7) topics for further study. Our learning is organized around the following concepts and themes: scientific method and the role of assumptions in economic analysis; understanding what economic models are and how they are used; positive versus normative analysis; market forces of demand and supply; elasticity and its applications; the efficiency of markets; the costs of taxation; international trade; various kinds of externalities; the concept of public goods; design of the tax system; costs of production; perfect competition, monopolistic competition, oligopoly, and monopoly; markets for factors of production; income inequality and poverty; the theory of consumer choice; and frontiers of microeconomics. Course Objectives: At the end of this course, successful students will (i) have learned basic concepts from microeconomics, (ii) understand how these concepts apply to the world around them and to their own lives, and (iii) have constructed a basis from which to study deeper areas of economics. （授業科目の概要：本授業は、次の７つのセクションで構成される：（1）イントロダクション、（2）市場はどのように機能するか、（3）市場と厚生、（4）公共部門の経済学、（5）企業行動と産業組織、（6）労働市場の経済学、（7）より進んだ話題．具体的には、次のような概念やテーマについて学んでいく：経済分析における科学的方法と仮説の役割、経済モデルとその適用に対する理解、実証分析と規範分析、市場における需要と供給の作用、弾力性とその応用、市場の効率性、課税の費用、国際貿易、外部性、公共財の概念、税制の設計、生産の費用、完全競争・独占的競争・寡占・独占、生産要素市場、所得不平等と貧困、消費者選択の理論、ミクロ経済学のフロンティア。 授業科目の目的：本授業終了時には、（1）ミクロ経済学の基本的概念を修得し、（2）そうした概念を実世界や実生活に応用でき、（3）より上級レベルの経済学を学ぶ基礎ができていることが期待される。）	
		Intermediate Microeconomics （中級ミクロ経済学）	Course Description: The course is divided into six sections: (1) introduction and preview; (2) consumer theory; (3) producer theory; (4) the operation of markets; (5) market failures, and (6) asymmetric information. Our learning is organized around the following concepts and themes: the concepts of choice, preferences, and utility; demand and revealed preferences; consumer surplus; time and uncertainty in the context of economics; technology, profit maximization, and cost minimization; supply and aggregation; oligopoly and game theory; Walrasian equilibrium; the concept of externalities; public goods; small number of agents and Nash bargaining; adverse selection, moral hazard, and principal-agent model. Course Objectives: At the end of this course, successful students will (i) have learned intermediate concepts from microeconomics, (ii) understand how these concepts apply to the world around them and to their own lives, and (iii) have constructed a fairly sophisticated basis from which to study other areas of economics. （授業科目の概要：本授業は、次の６つのセクションで構成される：（1）イントロダクションとプレビュー、（2）消費者理論、（3）生産者理論、（4）市場の機能、（5）市場の失敗、（6）情報の非対称性。具体的には、次のような概念やテーマについて学んでいく：選択・選好・効用の概念、需要と顕示選好、消費者余剰、経済学における時間と不確実性、技術・利益最大化・費用最小化、供給と集約、寡占とゲーム理論、ワルラス均衡、外部性の概念、公共財、少数エージェントとナッシュ交渉、逆選択（逆淘汰）、モラルハザード、プリンシパル・エージェント・モデル。 授業科目の目的：本授業終了時には、（1）中級レベルのミクロ経済学の概念を修得し、（2）そうした概念を実世界や実生活に応用でき、（3）経済学の他の分野を学ぶためのかなり高度な基礎ができていることが期待される。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Social Sciences（社会科学）	Economics（経済学）	Macroeconomics （マクロ経済学）	Course Description: The course is divided into eight sections: (1) introduction; (2) how markets work; (3) markets and welfare; (4) data of macroeconomics; (5) real economy in the long run; (6) money and prices in the long run; (7) macroeconomics of open economies; and (8) short-run economic fluctuations. Our learning is organized around the following concepts and themes: scientific method and role of assumptions in economic analysis; positive versus normative analysis; economic models; the circular-flow diagram; production possibility frontier; measuring a nation's income, cost of living, and other macroeconomics variables; production and growth; labor markets; saving, investment, and the financial system; the IS-LM model; the AS-AD model; classical business cycle; price and wage rigidity; short-run tradeoff between inflation and unemployment; the monetary system and monetary policy; fiscal policy; current crises and policy debates; policy in an open economy; and global imbalances. Course Objectives: At the end of this course, successful students will (i) have learned basic concepts from macroeconomics, (ii) understand how these concepts apply to the world around them and to their own lives, and (iii) have constructed a fundamental basis from which to more deeply study other areas of economics. （授業科目の概要：本授業は、次の８つのセクションで構成される：（1）イントロダクション、（2）市場はどのように機能するか、（3）市場と厚生、（4）マクロ経済学のデータ、（5）長期の実物経済、（6）長期の貨幣と価格、（7）開放経済のマクロ経済学、（8）短期の経済変動。具体的には、次のような概念やテーマについて学んでいく： 経済分析における科学的方法と仮説の役割、実証分析と規範分析、経済モデル、フロー循環図、生産可能性フロンティア、国民所得・生計費・その他マクロ経済学データの測定、生産と成長、労働市場、貯蓄・投資と金融システム、IS-LM モデル、AS-AD モデル、古典的景気循環、価格と賃金の硬直性、インフレーションと失業率の短期的トレードオフ、金融システムと金融政策、財政政策、現在の危機と政策論議、開放経済の政策、グローバル・インバランス。 授業科目の目的：本授業終了時には、（1）マクロ経済学の基本的概念を修得し、（2）そうした概念を実世界や実生活に応用でき、（3）経済学の他の分野をより深く学ぶための基礎ができていることが期待される。）	
		Japanese Economy & Business （日本経済とビジネス）	Course Description: We will study the Japanese economy and business world through multiple lenses. We begin with a historical macroeconomic perspective and gradually narrow our focus to industrial structure, Japanese and foreign firms in Japan, and finally to the level of employees. Occasionally, basic concepts from macro, micro, and international economics, accounting and finance, and other areas of social science will be introduced to frame our study and enable systematic and greater depth of understanding of Japanese economic and business and behavior. Course Objectives: The successful student will be able to discuss most important changes in the Japanese economy and business world from the perspectives of macroeconomics, industrial structure, international trade and foreign exchange, finance, and business culture using theories from the fields of economics and finance to provide greater depth to the analysis. （授業科目の概要：本授業では、日本経済とビジネス界について複眼的に学習する。まず歴史的／マクロ経済的視点から始め、徐々に産業構造や日本企業と日本における外国企業といった、より狭い領域に焦点を当てていく。最終的には、従業員レベルでの分析を行う。時折、マクロ経済、ミクロ経済、国際経済、会計や財務、その他社会科学分野の様々な基本概念を使って、日本の経済・ビジネス・行動形態に関する体系的な理解を深めていく。 授業科目の目的：本授業終了後には、経済学やファイナンスの理論を使い、マクロ経済、産業構造、国際貿易、為替、財務、ビジネス文化といった視点から、日本経済ならびにビジネス界の重要な動向について分析し、議論できるようになることが期待される。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Social Sciences（社会科学）	Economics（経済学）	International Trade & Economics of Globalization （国際貿易とグローバル経済）	Course Description: The course is divided into six sections: (1) introduction; (2) comparative advantage; (3) winners and losers in international trade; (4) the importance of scale and scope; (5) globalization of firms within and across industries; and (6) offshoring and outsourcing. Our learning is organized around the following concepts and themes: balance of payments; the terms of trade; tariff and non-tariff barriers; technology and international trade; models of international trade: merchantilism, absolute advantage, comparative advantage, factor proportions theory, international product life cycle, new trade theory, and national competitive advantage; gains from trade and regional agreements; case studies: America and Japan; exporting versus non-exporting firms; multinationals and organization of the firm; offshoring; horizontal FDI; vertical FDI; complex integration; and internalization. Course Objectives: At the end of this course, successful students will (i) have learned basic concepts from international trade, (ii) understand how these concepts apply to the world around them and to their own lives, and (iii) have constructed a fundamental basis from which to more deeply study other areas of economics. （授業科目の概要：本授業は、次の６つのセクションで構成される：（1）イントロダクション、（2）比較優位、（3）国際貿易における勝者と敗者、（4）規模と範囲の重要性、（5）産業内と産業間における企業のグローバリゼーション、（6）オフショアリングとアウトソーシング。具体的には、次のような概念やテーマについて学んでいく： 国際収支、交易条件、関税と非関税障壁、技術と国際貿易、国際貿易モデル（重商主義・絶対優位・比較優位・要素比率理論・国際製品ライフサイクル・新貿易理論・国家競争優位）、貿易利益と地域協定、ケーススタディ（アメリカと日本）、輸出企業と非輸出企業、多国籍企業と企業組織、オフショアリング、水平型直接投資、垂直型直接投資、コンプレックス・インテグレーション、内部化。 授業科目の目的：本授業終了時には、（1）国際貿易の基本的概念を修得し、（2）そうした概念を実世界や実生活に応用でき、（3）経済学の他の分野をより深く学ぶための基礎ができていることが期待される。）	
		Entrepreneurship （起業・ベンチャー論）	Course Description: Throughout the course, students will experience the ‘real world’ of entrepreneurship through eyes and true stories of entrepreneurs of highly successful fast-growing cross-border venture businesses who will visit our class to give their real live stories. Students will also be exposed to a wide range of theories and conceptual frameworks and will learn practical skills through the analysis of case studies many of which are still on-going. Groups (“Companies”) of students will be formed and will participate in a business plan competition to be waged toward the end of the semester. The presentation will be judged by ‘real world’ entrepreneurs and the instructor. In the event that there emerges an exceptionally attractive plan, students may have an opportunity to bring your dream to the real world through the instructor’s own venture capital network. Course Objectives: The objective of the course is to learn management theories of entrepreneurship and experience the real entrepreneurial stories through case studies, guest lectures by real successful entrepreneurs, and students’ group business plan contest to nurture future entrepreneurs, who are also expected to easily cross national borders in their venture business activities related to Japan in future. （授業科目の概要：受講学生は本授業の全体を通じ、起業・ベンチャーの様々な要因・内容・形態・手法・成功／不成功例、及び生きる姿勢としての起業家的な姿勢・起業家精神を学ぶ。そのために、その大半が現在進行中である日本関連ベンチャーを中心とするケースメソッドによる多数のケースの分析（Harvard Business School／Stanford Business School 等のもの）を通じ、広範にわたる本分野の理論・概念の枠組みを米国の一流の教科書・副読本等から修得つつ、さらに国境を跨ぎ大成功を収めている起業家（複数）をゲストスピーカーとして招いて実際の体験談を聞く機会を持つ。一方、授業期間を通じ、学生は数名ずつのグループに分かれ（仮想の「会社」として取扱う）、授業の最終回に予定する「事業計画書発表審査会」に向けてのプレゼンテーション準備を演習として行う。各「会社」のプレゼンテーションの審査・評価は、ゲストスピーカーとして招いた実際の起業家及び担当教員が行う。特に優れた評価を受けた事業計画書のプレゼンテーションの内容は、担当教員自身が有するベンチャーキャピタルの人脈等に紹介し、実際の起業に結びつく場合もあり得る。 授業科目の目的：本授業の目的は、（1）本場米国の起業・ベンチャー論関連の経営諸理論を修得すること、（2）実際の多様な成功・失敗例を、ケーススタディーや、成功した起業家を中心とするゲストスピーカーの講演を通じて体験すること、（3）日本関連の事業計画書発表審査会のグループによるプレゼンテーション演習を通じて、将来の日本国内・海外を跨いで活躍する起業家予備軍を目指すことである。また、同時に、実際に将来起業しないという者も、いかなる職場・人生においても起業家的な生きる姿勢を学び、将来に実際に活かす方途を知る。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Social Sciences（社会科学）	Economics（経済学）	Corporate Finance （コーポレートファイナンス）	Course Description: Corporate finance concerns two distinct but related activities: the acquisition of financial capital and its investment in productive assets to generate economic profit. The course begins with an introduction to the objectives of firms from the perspectives of shareholders and other stakeholders. During the first few weeks, students become familiar with the concepts of time value of money, present and future value, valuation of stocks and bonds, discounted cash flow, and net present value. The rest of the semester focuses on risk and return and the management of risk, market efficiency, cost of capital, hurdle rates and capital budgeting, financing and capital structure theories, agency theory, dividend policy, corporate governance, foreign exchange, financial statement analysis, and the market for corporate control. Course Objectives: At the successful completion of the course, students will be able to: (i) demonstrate a familiarity with basic corporate finance topics and tools for decision-making, (ii) calculate future and present values, (iii) compute discounted cash flow and net present value, (iv) explain the relationship between risk and return and understand its relevance in the context of decision-making, and (v) know how to use basic techniques for simple analysis of financial statements. （授業科目の概要：企業財務は、それぞれ別個でありながらも相互に関連する２つの活動に関する学問である。その２つの活動とは、財務資本の獲得と、経済的利益を得るための生産的な資産への投資である。本授業の導入部では、まず株主ならびにその他関係者の視点から、企業の目的について学ぶ。最初の数週間で、貨幣の時間的価値、現在価値／将来価値、株式ならびに債券の価値、割引キャッシュフロー、正味現在価値といった概念について学ぶ。その後は、リスクとリターン、リスク管理、市場の効率性、資本コスト、ハードル・レイト、資本予算、財務／資本構造理論、代理人理論、配当政策、企業統治、為替、財務諸表分析、そして企業経営権市場といった分野に、焦点を当てていく。 授業科目の目的：本授業終了後には、（1）基本的な企業財務トピックや意思決定のためのツールについて理解し、（2）将来価値／現在価値の算出法を修得し、（3）割引キャシュフローと正味現在価値の計算法を修得し、（4）リスクとリターンの関係ならびにそれが意思決定に果たす役割を理解し、（5）財務諸表の基本的な分析手法の使い方を理解していることが期待される。）	
		Economic Growth: Theories and Evidence （経済成長：理論と実証）	Course Description: The course is divided into five sections: (1) development and underdevelopment; (2) key factors in the development process; (3) perpetuation of underdevelopment; (4) the role of the State in the allocation of resources and sustainable development; and (5) financing economic development. Our learning is organized around the following concepts and themes: the development gap and measurement of poverty; characteristics of underdevelopment and structural change; the role of institutions in economic development; theories of economic growth: why growth rates differ between countries; role of agriculture and surplus labor for industrialization; capital accumulation, technical progress and techniques of production; population and development; resource allocation in developing countries and sustainable development; project appraisal, social cost-benefit analysis and shadow wages; development and the environment; financing development from domestic resources; and foreign assistance, aid, and debt and development. Course Objectives: At the end of this course, successful students will (i) have learned the fundamental arguments for why certain economies have progressed while others remain backward, (ii) understand how these concepts apply to the world around them and to their own lives, and (iii) have constructed a fundamental basis from which to more deeply study other areas of economics. （授業科目の概要：本授業は、次の５つのセクションで構成される：（1）開発と低開発、（2）開発プロセスの主要因、（3）低開発の永続化、（4）資源配分と持続可能な開発における国家の役割、（5）経済開発のための資金調達。具体的には、次のような概念やテーマについて学んでいく： 開発格差と貧困の測定、低開発の特徴と構造転換、経済開発における制度の役割、経済成長理論（経済成長率はなぜ国によって違うのか）、産業化のための農業と労働余剰の役割、資本蓄積、技術発展と生産技術、人口と開発、開発途上国における資源配分と持続可能な開発、プロジェクト評価、社会費用便益分析と影の賃金、開発と環境、国内資源による開発資金の確保、対外援助・対外債務と開発。 授業科目の目的：本授業終了時には、（1）なぜ、一部の経済が発展する一方で他の経済は発展しないのかという問題に対する基本的な議論を学び、（2）そうした概念を実世界や実生活に応用でき、（3）経済学の他の分野をより深く学ぶための基礎ができていることが期待される。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Social Sciences（社会科学）	Economics（経済学）	History of Economic Thought （経済思想史）	Course Description: Economics has been defined as the study of how society distributes scarce resources that have alternative uses. The five big questions of economics are: Which economic system is best? What goods and services should a society produce? How should they be produced? How many should be produced? And for whom should they be produced? These questions have been present in societies from our beginnings. As we trace the history of economic thought (HET) through its major stages: pre-classical thinking from moral philosophers Aristotle to the catholic schoolmen, feudalism, merchant capitalism, producer capitalism, to consumer capitalism, we will pay attention also to advances in other perspectives of world history. A few of the main characters in our study of HET include: William Petty, John Locke, Bernard Mandeville, David Hume, Francis Quesnay, Jacques Turgot, Adam Smith, Thomas Malthus, David Ricardo, J S Mill, Karl Marx, J M Keynes, Milton Friedman, and many others. Course Objectives: (i) To be familiar with the essential ideas of the greatest contributors to HET, (ii) to create in students an awareness that many of the theories and concepts from the fields of economics and business that are often assumed to be recent advances in human thought are in fact restatements of awareness of human condition that were understood in some cases many hundreds of years earlier, and (iii) to be able to trace the development of core concepts from the field of economics, such interest rates, risk-adjusted future cash flow/present value, and economic value. （授業科目の概要：経済学とは、様々な使い道のある限られた資源を、社会がいかに配分すべきかということを研究する学問である。経済学における５つの大きな課題として、どんな経済システムが最良か？　ある社会は、どんな製品もしくはサービスを生産すべきか？　どのようにそれらを生産すべきか？　どの位の量を生産すべきか？　誰のために生産すべきか？という問題がある。こうした疑問は、人類の歴史の初期から存在するものであった。アリストテレスの哲学からカソリックに至るまでの古典派以前の思想、そして封建制度、商業資本主義、工業資本主義、消費者資本主義まで、経済思想史の様々な段階を辿りつつ、他の視点から見た世界史の進展も同時に見てゆく。本授業では、ウィリアム・ペティ、ジョン・ロック、バーナード・マンデヴィル、デビッド・ヒューム、フランソワ・ケネー、ジャック・テュルゴー、アダム・スミス、トマス・マルサス、デビッド・リカード、J.S.ミル、カール・マルクス、J.M.ケインズ、ミルトン・フリードマン他、様々な人物を取り扱う。 授業科目の目的：（1）経済思想史に大きな貢献をした人々の基本的な思想を理解し、（2）ごく近年になってから発展したものであると考えられがちな経済やビジネス分野の理論や概念の多くは、時には数百年以上前から人間の条件として認識されていたものの焼き直しにすぎないという点を理解し、（3）利子率、リスク調整後の将来キャッシュフロー／現在価値、そして経済価値といった、経済学の主要概念の発展の歴史を辿ることができる。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Social Sciences（社会科学）	Economics（経済学）	Money & Banking （金融論）	Course Description: The course is divided into five sections: Foundations; Financial Markets; Banking; Money and the economy; and Monetary Policy. Our learning is organized around the following concepts: the financial system; money and central banks; asset prices and interest rates; foreign exchange markets; asymmetric information in the financial system; the banking industry; the business of banking; bank regulation; money supply and interest rates; short-run economic fluctuations; economic fluctuations, monetary policy, and the financial system; inflation and deflation; policies for economic stability; monetary institutions and strategies; monetary policy and exchange rates; and financial crises. Course Objectives: At the end of this course, successful students will (i) have learned the fundamental concepts related to money, banking, other financial institutions and financial markets, (ii) understand how these concepts apply to the world around them and to their own lives, and (iii) have constructed a fundamental basis from which to more deeply study other areas of economics and macro finance. （授業科目の概要：本授業は、次の５つのセクションで構成される：基礎、金融市場、銀行、通貨と経済、金融政策。具体的には、次のような概念やテーマについて学んでいく： 金融システム、通貨と中央銀行、資産価格と利子率、外国為替市場、金融システムにおける情報の非対称性、銀行業界、銀行の業務、銀行規制、貨幣供給と利子率、短期経済変動、経済変動・金融政策・金融システム、インフレーションとデフレーション、経済安定化政策、金融機関と戦略、金融政策と為替レート、金融危機。 授業科目の目的：本授業終了時には、（1）金融論とその他金融機関と金融市場に関する基本的概念を修得し、（2）そうした概念を実世界や実生活に応用でき、（3）経済学の他の分野をより深く学ぶための基礎ができていることが期待される。）	
		Japanese Economy & Business （in Japanese） （日本語による日本経済とビジネス）	授業科目の概要：日本経済の明治維新以来の発達史と特に戦後の経済発展と成熟化、バブル経済とその崩壊、さらにその後の新しい経済の再生を実際に各時代に活躍してきた諸産業・諸企業のケースの分析を通じて修得する。授業の前半では、学生は毎回のテーマごとに、書籍に紹介された事例や実際の企業の分析を輪番で発表し議論することにより、過去150年弱に及ぶ日本経済発展の要因と内容分析を行う。後半では、各学生は各々のテーマ（一定の時期における特定企業・特定産業を担当教員のアドバイスに基づき選択）につき、各種文献・雑誌・新聞・ホームページ等の資料、及び必要に応じて実際に当該企業を訪問／インタビューすることを通じて30頁程度のレポート作成を行い、授業の最終回では、このレポートを全員の前で発表する。授業の後半では担当教員による個別指導が中心となるが、途中経過の発表・講評も随時行う。 授業科目の目的：本授業の目的は、（1）テーマ設定に基づく討論により、日本の明治維新から第二次世界大戦を経て戦後の経済発展に至るまでの変遷の要因と結果の分析から、現在の日本の経済大国への軌跡と限界を理解、（2）今後の在り方を各学生に洞察せしめ、また成功と失敗の要因を様々な角度から考察、（3）各々の時期を担った個別企業・業界（現在の企業も含む）の分析方法を学び、それらの発展の歴史を分析を通じて学び、日本企業の強さと弱さ、グローバル化も含む今後の進むべき道のりを考察することである。 その他：本授業は、全て日本語で行う。	
		Competitive Strategy （競争戦略）	Course Description: Over the semester, students will become familiar with more than 300 concepts and theories related to corporate strategy. An attempt will be made to integrate what students are learning in this course with what they have learned in other courses in the fields of economics and other areas of the curriculum not obviously related to the world of business and economics. Frequently, after students have been introduced to a concept or theory, they will be required to explain how it applies, or in some cases explain why it does not apply, in the context of Japanese firms. The structural framework of our study will be the Strategic Planning Process (SPP), a widely taught and practiced model for the formulation and implementation of strategy. The major elements of the SPP are: (1) mission and goals, (2) SWOT analysis, (3) the three levels of strategy: corporate, business, and functional, (4) organizational structure, (5) control systems, (6) matching of strategy to structure and controls, and (7) management of strategic change. Course Objectives: Students will be able to apply facts, concepts and theories from the field of strategic management to analyze and propose solutions to various strategic challenges and dilemmas facing managers in the real world of business, and to discover when the concepts and theories do not apply, or may apply uniquely, to the Japanese market. （授業科目の概要：本授業では、300 以上の企業戦略に関する概念や理論を学ぶ。そして、本授業で学んだことを、他の経済学の授業や、一見ビジネスや経済と関連のなさそうな他の授業で学んだことと統合させることを試みる。本授業では、概念や理論を学んだ後に、それらが日本企業の実情にどのように適用されるか、また適用できない場合はその理由について説明できることが求められる。本授業で取り扱う構造的フレームワークは、戦略立案と実施のための標準的なモデルである戦略計画過程（Strategic Planning Process; SPP）である。SPP の主な構成は、（1）ミッションならびにゴール、（2）SWOT 分析、（3）戦略の３段階：企業、ビジネス、機能、（4）組織構造、（5）管理システム、（6）経営戦略と組織構造の適応、（7）戦略的変化のマネジメント、である。 授業科目の目的： 本授業終了後には、戦略的経営分野の事実、概念、理論等を活用して分析を行い、実際のビジネスで経営者が直面する様々な戦略上の困難やジレンマに対し、解決策を提案できるようになる。そして、概念や理論が日本市場に当てはまらない、もしくは日本市場にのみ当てはまるのはどんな場合かについて、検証できるようになる。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Social Sciences（社会科学）	Economics（経済学）	Seminar (Economics) （経済学演習）	Course Description: The role of the seminar is to support the successful completion of the Graduation Research Project (GRP), a graduation requirement for all students. In this seminar we will look at the theme that each student has chosen for the Writing-Across-Curriculum (WAC) program, upon which the GRP is based, through the lens of theories, paradigms, and concepts from the field of Economics. Students will take turns presenting their research at different stages of their thesis development. Their peers, under the supervision of the seminar instructor, will discuss and critique each presentation to give the presenters an opportunity to refine their own thesis. Through such interactions peers will learn how to avoid problems with their own projects. Course Objectives: At the end of this course, students will have: (i) analyzed an important world issue from the perspective of an economist, (ii) conducted at a high level of proficiency their own research project, and (iii) written a high-quality graduation thesis in their own chosen area. （授業科目の概要：本演習の役割は、本学部の卒業必須要件である卒業研究（GRP）の完成をサポートすることである。本演習では、卒業研究の基礎となるカリキュラム横断型作文プログラム（WAC）のために各学生が選択したテーマを、経済学分野の理論、枠組み、概念を通して検証していく。学生は、論文作成の各段階を通じて順番に各々の研究を発表しあう。他の学生は、演習担当教員の指導の下、発表を考察・批判し、発表者に論文の精度を上げるための機会を提供する。このような相互分析を通じて、各学生は自分自身の研究における課題解決の手法を学んでいく。 授業科目の目的：本演習終了後には、（1）世界の重要課題について、経済学者の視点で分析し、（2）自身の研究プロジェクトを高い習熟度をもって行い、（3）自ら選んだ分野で質の高い卒業論文を書き上げることができるようになる。）	
	Political Science（政治学）	Introduction to Political Science （政治学入門）	Course Description: This course provides the basic analytic frameworks and theories for understanding contemporary Political Science. Drawing on the great historical political philosophers, modern political theorists and empirical political scientists, the basic aspects of politics (who gets what, why, when, and how?) are explored. Special attention will be given to the major Political Science models that guide contemporary research in government, international relations and public policy. Course Objectives: At the conclusion of this course, the student will be able (i) to identify and use in an evaluative framework the significant theories and models of Political Science, (ii) to articulate the major contributions of major figures in Political Science from Plato to Rawles, (iii) to articulate in spoken or written form an argument over major policy issues using appropriate intellectual frameworks found with Political Science literature. Additionally, the students (iv) will understand the importance of effective politics and good governance for the citizens of increasingly complex societies. （授業科目の概要：本科目は現代政治学を理解するための基本的な分析枠組みと理論を提供することを目的とする。歴史上の偉大な政治哲学者、現代の政治理論学者および実証政治学者の功績に基づき、政治学の基本的課題（すなわち、誰が、何を、いつ、どのようにして得るか）を探求する。特に、政府機関、国際関係、公共政策についての近年の研究における理論的モデルに注意を払っていく。 授業科目の目的：本科目の履修後、学生は以下を達成することが期待される。（1）評価の枠組みとして政治学の主要理論とモデルを認識し活用すること。（2）プラトンからロールズにいたる主要な政治学者の功績を分かりやすく説明すること。（3）口頭あるいは文書で、主要な政治課題に対する主張を政治学の知見に基づく学問的な枠組みを用いて展開すること。加えて、（4）複雑さを増す社会における市民にとっての実効性のある政治と良い統治の重要性を理解すること。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Social Sciences（社会科学）	Political Science（政治学）	Social Policy （社会政策）	Course Description: This course is divided in two parts. In the first segment we will look at the policy and administration practice in social services (including health, education, and community care) as well as at the traditional models of welfare (corporatist, social democratic, and liberal regimes). In the second part, we will focus specifically on the forms of service delivery (targeting, rationing, discretion, and empowering users). Here we will argue that the provision of services takes place through a variety of forms, direct government provision being only one of them. Increasingly, nonprofit and for-profit organizations, businesses, and government contractors deliver services in partnership with government. However, those partnerships often fail to make the most of the wide range of users' assets that could help to transform services and improve outcomes. Best practices from around the world will be used to gain new knowledge of the processes for deciding when and how to engage users in service delivery. Course Objectives: By the end of this course students will know how i) to apply social policy theory learnt in the class to solve the real-world social problems; ii) to harness the potential of collaborative approaches in the service delivery by empowering users; iii) service users and the public sector come together in new creative, innovative and collaborative ways to make better use of each other's assets and resources to achieve better outcomes and improve efficiency. （授業科目の概要：本授業は大きく２つのパートに別れる。前半は、医療、教育、地域介護といった社会サービスに関する政策と行政について学ぶ。同時に、コーポラティズム、社会民主主義、自由主義レジームといった伝統的な福祉モデルについても検証する。後半は、受益者の選定、配給、裁量権の付与、受益者のエンパワメント等、サービス提供の体制に焦点を当てていく。ここでは、サービス供給は様々な形態を取りうること、政府からの直接提供はその一部でしかないこと、について議論を深めていく。実際に、非営利団体や営利団体、企業、政府の受託業者といった機関が、政府とパートナーシップを結んでサービス提供するケースが益々増えてきている。しかしながら、残念なことにそうしたパートナーシップは多くの場合、受益者の「資産」を活用して受益者に最も良いサービスを提供する結果にはなっていない。世界中のベストケースから、受益者がサービス提供にいつどのように関わるべきかを決定するプロセスを学んでいく。 授業科目の目的：本授業終了後、学生は以下を達成することが期待される。（1）授業で学んだ社会政策理論を、世界の実際の社会問題解決に応用してみることができる。（2）受益者のエンパワメントによる協調的なサービス提供の可能性を検証できる。（3）サービスの受益者と公共部門が一緒になって、お互いの資産と資源を、最大限にそしてより効率的に活用するために、創造的で、革新的、協調的な手段を講ずるにはどうすれば良いかを考察できるようになる。）	
		US Politics （アメリカ政治）	Course Description: This course is an introductory course on American Government and Politics. The course offers both theoretical and practical information on American politics. It is a foundation course for many of the more specialized courses within the broader field of Political Science. We will examine the sociological, political and economic forces that cause individuals to participate in American politics. Later we will examine the relationship between the major American political institutions and governmental policy. This course is an introductory level course in Political Science. It assumes no prior knowledge regarding American government. All the materials you need will be presented in lectures, textbooks or readings. Course Objectives: At the conclusion of this course, the student would be (i) familiar with the important academic research on American politics and government; (ii) understand the roles played by various institutions in the formation of laws and policy made by actors in all three branches and two levels of American government; (iii) understand the nature of American political behavior with particular emphasis on recent and forthcoming American elections; (iv) acquire the skills needed to analyze and understand major media interpretations of American government, politics and policy; (v) be able to conduct and produce a research paper that analyzes an important political variable in American politics; and (vi) understand the major policy debates and current public policy problems of American politics. （授業科目の概要：本授業はアメリカの政府と政治に関する入門である。したがって、本授業では、アメリカ政治に関する理論と実際を紹介し、広範な政治学の分野において、より専門的な講義を受講するための基礎を築くことを目標とする。授業ではまず、アメリカ政治において個人の政治参加を促す社会的、政治的および経済的な要因を考察した後、アメリカの主要な政治機関と政策との関係について検証する。本科目は政治学の入門レベルであるため、アメリカ政治に関する予備知識は必要とされない。本授業で必要な資料は講義、教科書、またはその他の文献により提供される。 授業科目の目的:本科目の履修後、学生は以下を達成することが期待される。（1）アメリカの政府と政治に関する重要な学術研究についてよく理解している。（2）アメリカ政府における三権および連邦・州の両レベルにおいて、法律や政策を形成する様々な機関・主体が果たす役割について理解している。（3）近年および将来の選挙を中心に、アメリカにおける政治行動の性質を理解している。（4）アメリカの政府、政治および政策に関する主要メディアの解説を分析・理解するスキルを獲得している。（5）アメリカ政治における重要な変数について分析したレポートを書くことができる。（6）アメリカ政治における主要な政策論議やアメリカ政治が現在抱える公共政策に関する課題について理解している。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Social Sciences（社会科学）	Political Science（政治学）	Nationalism & Ethnic Conflict in Asia （ナショナリズムとアジアの民族紛争）	Course Description: This course explores the theories and cases of nationalism, mainly focusing on Asia. What is nationalism? Why and how does it occur? How does it affect our lives? Is it going to disappear or persist in the future? Should we support or criticize the idea of nationalism? To contemplate these questions, the students will learn the existing theories developed by the major scholars in the field. The theories will function as the "tools" by which the students analyze and understand the social phenomena called "nationalism" and "ethnic conflict". The cases in Asia will be chosen for analysis. Nationalism in Japan will be scrutinized especially, focusing on 3 periods: "nation building" period of Meiji Restoration (1850s-1880s), wartime period of maximizing national prestige (1890s-1945), and postwar period of "national reconstruction" and regaining national prestige (1945-). The course will also deal with the cases of China, Korea, India and Pakistan. Course Objectives: Upon finishing this course, the students are expected to: (1) understand what a nation is and grasp the concept of nationalism, (2) understand why and how nationalism occurs, (3) know what consequences nationalism might incur, and (4) gain knowledge about nationalism in Japan, as well as other Asian countries. （授業科目の概要：この授業は、ナショナリズムの理論とケースを、特にアジアにフォーカスしながら学ぶ。ナショナリズムとは何か。なぜ、どのようにしてそれは生じるのか。それはどのように我々の生活に影響するのか。将来的にそれは消えていくのか、それとも持続するのか。ナショナリズムの思想は支持されるべきか否か。これらの問いについて熟考するために、ナショナリズム研究で著名な学者によって提唱された理論を学生は学ぶことになる。それらの理論は、「ナショナリズム」や「民族紛争」と呼ばれる社会現象を分析し、理解するための「道具」として機能する。分析の対象として、アジアのケースが扱われる。日本のナショナリズムは三つの時期、すなわち「ネーション建設期」の明治維新前後（1850 年代～1880 年代）、ネーションの威光を極限まで高めようとした戦時期（1890 年代～1945 年）、そして「ネーションの再構築」とネーションの威光を回復しようとする戦後（1945 年～）に分けられ、熟覧される。また、中国、韓国・朝鮮、インド、パキスタンなどのケースも扱われる。 授業科目の目的：この授業を修了することにより学生は（1）ネーションとは何かを理解し、ナショナリズムの概念を捉え、（2）ナショナリズムがなぜ、どのように生じるかを理解し、（3）ナショナリズムがどのような結果や現象を引き起こすかを知り、日本と他のアジア諸国のナショナリズムについての知識を深めることが期待される。）	
		Japanese Politics and International Relations （日本の政治と国際関係）	Course Description: The first 75% of the course is a (i) comprehensive examination of the significant institutions of Japanese government and politics with special emphasis on the national level of politics and the important contemporary public policies. Japanese government and politics will also be discussed within the (ii) frameworks of Japanese history and culture. The final 25% is dedicated to an (iii) examination of Japanese international relations with the nations of East Asia and (iv) other significant trade and security partners such as the United States and the EU. Course Objectives: At the end of this course, the students will (i) understand the development and operation of Japan's political institutions and policies in the Post-War era, (ii) the inter-dynamics of Japan's political party system, elections and the parliament, (iii) the contemporary security issues that impact Japan in its relations with China, Russia and South Korea, (iv) the significance of the Japan-United States Security Treaty as well as the economic ties between them, (v) and be able to write a analytical and scholarly essay on a significant aspect of contemporary Japanese politics and government. （授業科目の概要：本科目の最初の 75%は以下の課題に割くものとする。（1）日本の政府と政治における主要な制度の包括的検証。特に国政レベルの政治と現代の公共政策に重点を置く。（2）日本の政治と政府の歴史的、文化的枠組みにおける検討。残りの 25%は以下の課題に割くものとする。（3）日本と東アジアの周辺諸国との国際関係。（4）重要な通商並びに安全保障関係を持つ米国や欧州連合等の国々との関係。 授業科目の目的：本科目の履修後、学生は以下の点を理解することが期待される。（1）戦後日本の政治制度と政策の発展と仕組み。（2）日本政治における政党システム、選挙、および国会の相互関係と動態。（3）中国、ロシア、韓国との関係における日本の現在の安全保障課題。（4）日米安保条約と日米経済関係の重要性。ならびに（5）現代日本の政治と政府の重要な課題に関して学術的な立場から分析を加えたレポートを書く能力の獲得も期待される。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Social Sciences（社会科学）	Political Science（政治学）	Global Politics （グローバル政治）	Course Description: The increased globalization of world cultures and politics has altered the traditional ways international relations have been practiced and studied by scholars. This course will begin with (i) a historical perspective on the traditions of international politics followed by (ii) a careful examination of the patterns since the Treaty of Westphalia. More recently, (iii) the impact of the new phase of globalization in its many forms will be examined as to how it has changed Global Politics—both positively and negatively. Among the topics to be covered are the (iv) roles played by international organizations, non-governmental organizations and regional economic and security organizations. Finally, (v) major forms of global interactions such as wars and economic conflicts will be studied. Course Objectives: Students in this course will be familiar with (i) major Political Science theoretical models of Global Politics/International Relations, (ii) the history of modern diplomacy, (iii) the rise of international organizations such as the UN, the World Bank and the International Monetary Fund, (iv) the significance of regional economic and security arrangements, (v) be able to discuss and analyze important Global Politics issues within the frameworks of major Political Science models, (vi) major Political Science articles and books that structure the understanding of contemporary Global Politics, (vii) and be able to make well structured oral presentations summarizing the assigned readings for each week's seminar. （授業科目の概要：世界の政治と文化のグローバル化は、学者による国際関係の従来の研究とその実践方法に変化をもたらしている。本科目では、まず（1）国際政治の伝統における歴史的な視点を紹介し、次に（2）ウェスファリア条約以降の国際政治のパターンを注意深く検証する。さらに、現代においては（3）グローバル化が様々な形で世界政治を良くも悪くもいかに変化させてきたかを探る。その際に取り上げるトピックには、（4）国際機関、非政府組織、地域経済・安全保障機構のそれぞれが果たす役割、（5）戦争、経済紛争といった形の世界規模の主要な相互作用が含まれる。 授業科目の目的：本科目の履修を通じて、学生は、以下の知識や能力を獲得することが期待される。（1）世界政治及び国際政治の主要な理論モデル、（2）現代外交史、（3）国連、世界銀行、国際通貨基金といった国際機関の発展、（4）経済および安全保障に関する地域的合意に関する知識、（5）主要な政治学の理論的枠組みを用い、世界政治の重要な課題について議論および分析する能力、（6）現代の世界政治を理解する上で鍵となる政治学の主要文献に対する知識、そして（7）毎週課題として出される文献に関して、口頭で秩序立てた報告をできる能力。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Social Sciences（社会科学）	Political Science（政治学）	Comparative Political Systems （比較政治体制）	Course Description: This course is about government and politics across the 200 or more nations of the world. Theoretical perspectives for trying to understand the enormous diversity found among nations will be presented in the initial part of the course followed by organizing frameworks for understanding the differences among various sub-units of comparative politics including constitutions, party systems, parliaments, executive branches, judicial branches, and national local governmental arrangements as well as comparative frameworks for understanding the role that is played by national cultures and patterns of political behavior based on historical governmental experiences such as the role of the military in politics and the extent of corruption in the economies and governments. The concept of "good governance" reforms as advocated by the World Bank and IMF will also be used to evaluate comparative politics in the 21st Century. Course Objectives: The students at the conclusion of this course will have the (i) analytical skills to research the government, politics and policies of a variety of different forms of political structures commonly found among today's nation states. They will also (ii) understand the evolution of modern forms of governments and (iii) place individual nation states into various comparative frameworks of development and (iv) understand the major NGO initiatives for modernizing underdeveloped nation state governance structures and behavior patterns. The students will also (v) be familiar with the macro-level arguments regarding the advantages and disadvantages of "western style democracy" in the "third and fourth waves of democracy" as articulated by Diamond and Huntington. Finally, (vi) the students will be able to make analytical oral and written presentations of their research in the field of comparative politics. （授業科目の概要：本科目では世界に存在する 200 あまりの国々の政府と政治を扱う。まず、国家間に存在する多様性を理解するための理論的視点を紹介し、次に憲法、政党システム、議会、行政府、司法府、中央と地方政府の関係などといった政府の下部単位に注目した理論的枠組みを紹介する。さらに、一国の文化および、政軍関係や政治経済における腐敗の程度といった、政府の歴史的経験に基づく政治行動のパターンを理解するための比較枠組みを紹介していく。最後に、世界銀行と国際通貨基金の提唱する「良い統治」のための改革という概念も、21 世紀の各国の政治を比較・評価する指針に用いる。 授業科目の目的：本科目の履修を通じて、学生には、以下を修得することが期待される。（1）様々な政治構造をもった今日の国民国家の政府、政治、政策を研究するための分析能力、（2）現代的な政府形態への発展過程への理解、（3）比較発展論の枠組みの中で個々の国を位置づける知識、（4）発展途上国の政治構造と政治的行動を近代化する上での非政府組織が果たす役割への理解、（5）ダイアモンドとハンティントンの提唱した「民主化の第三・第四の波」における「西洋型民主主義」の利点と欠点に関するマクロな視点からの議論に対する知識、そして（6）比較政治の分析的研究を口頭と文書で発表できる能力。）	
		Seminar (Political Science) （政治学演習）	Course Description: The role of the seminar is to support the successful completion of the Graduation Research Project (GRP), a graduation requirement for all students. In this seminar we will look at the theme that each student has chosen for the Writing-Across-Curriculum (WAC) program, upon which the GRP is based, through the lens of theories, paradigms, and concepts from the field of Political Science. Students will take turns presenting their research at different stages of their thesis development. Their peers, under the supervision of the Seminar instructor, will discuss and critique each presentation to give the presenters an opportunity to refine their own thesis. Through such interactions peers will learn how to avoid problems with their own projects. Course Objectives: At the end of this course, students will have: (i) analyzed an important world issue from the perspective of an political scientist, (ii) conducted at a high level of proficiency their own research project, and (iii) written a high-quality graduation thesis in their own chosen area. （授業科目の概要：本演習の役割は、全学生の卒業要件である卒業研究（GRP）の完成をサポートすることである。本演習では、各学生がカリキュラム横断型作文プログラム（WAC）のために選択したテーマを検証していく。各テーマは卒業研究（GRP）の基盤となるものであり、政治学の分野における理論、パラダイム、概念の視点を通して検証される。各学生は、論文執筆の様々な段階において順番に各々のリサーチを発表しあう。演習担当教員による指導の下、同演習内の他学生が発表を批判・議論し、発表者に論文の完成度を上げるための機会を提供する。同時に、そうした相互分析を通じて、各学生は自分自身の研究における課題解決の手法を学んでいく。 授業科目の目的：本授業終了後、学生は以下を達成することが期待される。（1）重要な国際問題について、政治学者の視点で分析できるようになる。（2）自分自身の卒業研究（GRP）について高いレベルで実施できるようになる。また、（3）自身が選択した分野に関する高いレベルの卒業論文を書き上げることができるようになる。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Social Sciences（社会科学）	Political Science（政治学）	Workshop: Political Simulation Game （ワークショップ：政治シミュレーションゲーム）	Course Description: This workshop gives students an opportunity to experience political decision processes. The games are designed to represent the negotiating power of the various institutional actors (politicians (government and opposition), bureaucrats, and interest groups) and to simulate the political systems of the relevant countries. By playing this game students learn not only how the institutional frameworks influence policy decisions, but also that some actors have very little influence on those decisions. This is an intensive course which will be conducted two weekends during the semester plus one preparatory meeting in order to create group dynamics and simulate decision under time restrictions. Students are required to prepare their role for the simulation game and write a report about their experiences. Course Objectives: At the end of this course, students should be able to (i) understand how specific political systems work, (ii) recognize the role of lobbyists in policy making, (iii) realize the difficulty of harmonious decision in politics, and (iv) understand that actors involved in political decision processes have not the same amount of power. （授業科目の概要：このワークショップは、学生に政策決定過程を経験する機会を与えることを目標とする。課題となるゲームは、様々な政治主体（例えば与野党の政治家、官僚、利益集団）の交渉能力や対象国の政治システムを反映させるように設計されたものである。このゲームに参加することで、学生は制度的な枠組みが政策決定に与える影響だけでなく、政治主体の中にはそうした政策決定にほとんど影響力を発揮しないものもいることを理解する。このワークショップは、集団力学と時間的制約の中での意思決定をシミュレーションするために、初回のオリエンテーションのほかは週末２回にわたって開催される。学生は事前にシミュレーション・ゲームでの自身の役割を準備し、また、ゲーム終了後にその体験についてレポートを書くことが要求される。 授業科目の目的：本科目の履修後、学生には以下の達成が期待される。（１）特定の政治システムの働きに対する理解。（２）政策決定におけるロビイストの役割に対する認識。（３）政治おける調和的決定の困難性を実感すること。（４）政策決定過程において、様々な主体がもつ影響力の差を理解すること。）	集中・共同
	Sociology（社会学）	Workshop: Fuji Culture （ワークショップ：富士山と文化）	Course Description: This course explores the cultural and historical aspects of Mt. Fuji. When Mt. Fuji was registered as a World Cultural Heritage in 2013, 25 properties were listed as its component parts. The component parts include worship sites, Sengen Jinjya shrines, “Oshi” lodging houses, historical ascending routes, lava tree molds, and the Five Lakes and Oshino Hakkai springs. The students will visit many of the component parts in a 4-day field study held in early August. Every morning, the instructor will give lectures to the students on the history and cultural aspects of the properties and sites, and in the afternoon, the students will visit the actual properties and sites, and study more closely about their history and culture. On the last day, the students will climb up the Yoshida ascending route which Fuji-ko groups (historical religious groups who worshiped Mt. Fuji) took in the past, and explore the remains of their religious activities. The students are required to write a report based on the contents studied during the field study. Course Objectives: During the 4-day field study, the students are expected to: (1) gain knowledge about history and culture pertaining to Mt. Fuji, (2) identify the meaning and significance of the properties and sites listed in the World Cultural Heritage, (3) know the spiritual and religious activities of the historical Fuji-ko groups, and (4) appreciate the beauty and greatness of Mt. Fuji as the most celebrated mountain in Japan. （授業科目の概要：この授業は、富士山の文化的・歴史的側面に着目し、それらを学ぶ。2013 年に富士山が世界文化遺産に登録された際、25 の構成資産がリストアップされた。その構成資産は、祈祷場所、浅間神社、御師の家、登山道、胎内樹形、富士五湖、忍野八海等を含む。学生は、８月初旬に行われる４日間のフィールド・スタディによって、それらの構成資産の多くを訪れることになる。午前中、講師は構成資産の歴史的・文化的側面に関する講義を学生に対して行い、午後は現地に赴き、構成資産の歴史・文化に関してより深く調査する。最終日には、過去において富士講が利用した吉田口登山道を登り、その宗教的活動の史跡を調査する。学生は、フィールド・スタディに即してレポートを作成し、提出することが求められる。 授業科目の目的：４日間のフィールド・スタディによって学生は、（１）富士山の歴史と文化に関する知識を得、（２）世界文化遺産にリストアップされた構成資産の意義と重要性を確認し、（３）富士講の精神的・宗教的活動について知り、（４）日本で最も名高い山である富士山の美しさと雄大さを認識することが期待される。）	集中

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Social Sciences（社会科学）	Sociology（社会学）	Social Theory (社会理論)	Course Description: Theories determine consciously or unconsciously our perception of reality. We can increase our knowledge of the social world by applying different theories to a certain social issue, because we will be able to see it from different perspectives. This course introduces students to the major classical and contemporary social theories. We discuss their advantages and disadvantages. And we apply these theories to relevant contemporary social problems. This is an interactive lecture-type course. Students are required to complete homework assignments prior to class, to contribute frequently to class discussions, to make a presentation, and to write a mid-term test and a final paper. Course Objectives: At the end of this course, students should be able to: (i) understand the major social theories, (ii) compare, contrast and critically analyze theories, (iii) use social theories as schemes of interpretation in order to analyze social problems from different perspectives, (iv) apply theories creatively to everyday life, and (v) write about social theory in clear and concise prose. （授業科目の概要：理論というものは、我々が意識しようとも意識せずとも、我々の現実認識を決定する。従って、ある社会課題に対して、様々な理論を適用することによって、社会に対する理解をより深めることができる。本授業では、社会学における主要な古典理論と現代理論の両方を学び、それぞれの長所・短所について議論していく。そして、そうした理論を、現在の様々な社会課題に適用していく。本授業は、参加型の講義形式を取っている。学生は、事前課題を終えた上で各授業に参加し、積極的にクラス討議に参加することが求められる。また、プレゼンテーション、中間試験、そして期末レポートが課される。 授業科目の目的：本授業終了後、学生は以下を達成することが期待される。（1）主要な社会理論を理解できる。（2）それぞれの理論について、比較・対照し、批判的な分析ができる。（3）社会問題を多様な視点から分析・解釈するために、様々な社会理論を使いこなせる。（4）柔軟に理論を日常生活に応用できる。（5）社会理論について、明晰に、しかも簡潔にまとめられる。）	
		Methods of Social Research (社会調査方法論)	Course Description: This course provides students with the general understanding of social research. Social research method has two major aspects: quantitative and qualitative aspects. This course mentions both aspects with some practical exercise, such as comparative reading of quantitative and qualitative literatures, a group project on survey implementation exercise, and introductory practice of statistical software on a computer. Active participation to class discussions and voluntary contribution to the group project are strongly expected. Course Objectives: The course aims to: i) provide general knowledge of social research; ii) strengthen the skill to develop a "good" questionnaire in order to collect quality data; iii) strengthen the skill to analyze data by using computer software; and iv) strengthen the skill to apply social research methods to students' own research. （授業科目の概要：本授業では、社会調査の概要について学ぶ。社会調査には、定性・定量という、大きく２つの側面がある。本授業では、実際の練習を交えつつ、両側面について学んでいく。具体的には、定量調査と定性調査に関する論文の読み込み・比較、調査実施練習のためのグループ・プロジェクト、統計ソフトウェアの入門練習を行う。クラス討議への積極的な参加と、グループ・プロジェクトへの自発的な貢献が強く求められる。 授業科目の目的：本授業の目的は、以下の通りである。（1）社会調査の概要を学ぶこと。（2）有効な調査データを得るために、適切な質問表を作成するスキルを身につけること。（3）コンピューター・ソフトウェアを使って、データ分析のスキルを身につけること。（4）学んだ社会調査の手法を、自分の調査プロジェクトに応用できるようになること。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Social Sciences（社会科学）	Sociology（社会学）	Sociology of Globalization （グローバル化の社会学）	Course Description: Since the 1990's it became a conventional wisdom that we live in the age of "globalization." The various meanings of this claim are rarely explored, much less its basic assumptions ever challenged. We investigate the economic, political, and social dimensions of globalization and address several fundamental questions: Does globalization exist? Is it really global? Is globalization historically unprecedented? What are the economic, political, and social effects of globalization? Can it be stopped or altered? And what are the alternatives? This is an interactive lecture-type course. Students are required to complete homework assignments prior to class, to contribute frequently to class discussions, to make a presentation, and to write a mid-term test and a final paper. Course Objectives: At the end of this course, students should be able to: (i) discern the many angles of globalization, (ii) analyze the image of globalization as a supernatural force beyond human control critically, (iii) understand the historicity of globalization, and its character as a socio-political project (including its ideological aspects), (iv) detect differences between various anti-globalist standpoints, and (v) reasonably forecast possible directions in which globalization might head. （授業科目の概要：1990年代以降、我々がグローバル化した時代に生きているということは、ある種の社会通念となった。しかしながら、このことの本当の意味についてはあまり議論されてこなかったし、その前提についてもほとんど全く議論されることはなかった。本授業では、グローバル化について経済・政治・社会的側面から分析し、次のような基本的疑問について、討議していく：グローバル化は本当に起こっているのか？それは本当にグローバル（世界規模）なのか？グローバル化は、歴史上前例がないのか？グローバル化の経済・政治・社会的影響は何なのか？グローバル化は止められるか、もしくは変更できるか？グローバル化以外の選択肢にはどんなものがあるか？本授業は、参加型の講義形式を取っている。学生は、事前課題を終えた上で各授業に参加し、積極的にクラス討議に参加することが求められる。また、プレゼンテーション、中間試験、そして期末レポートが課される。 授業科目の目的：本授業終了後、学生は以下を達成することが期待される。（1）グローバル化について様々な視点から認識・理解できる。（2）グローバル化を、人類の制御力を超えた超自然現象とする見方に対し、批判的に分析できる。（3）社会政治的な出来事（イデオロギー的な面も含む）として、グローバル化の歴史性を理解できる。（4）様々なグローバル化反対論者たちの視点の差異を、認識できる。（5）グローバル化が今後進む方向性について、合理的に予測できる。）	
		Sociological Analysis of Nihonjinron （日本人論の社会学的分析）	Course Description: The topic of this course is a comparison of the *nihonjinron* (theories about the uniqueness of Japanese and Japanese culture) and Western social theory. The *nihonjinron* is the *only* complex of social theories which was developed in a non-Western context. Key concepts of the *nihonjinron* are taken from the Japanese language completely independent of the '*universal*' scientific concepts that have their roots in the West. By comparing these theories we are not only challenging our ideas and stereotypes of Japanese culture but also the Western belief that we can explain everything with ethnocentric Western theories. The major concepts and theories of the *nihonjinron* will be introduced. This is an interactive lecture-type course. Students are required to complete homework assignments prior to class, to contribute frequently to class discussions, to make a presentation, and to write a mid-term test and a final paper. Course Objectives: At the end of this course, students should be able to: (i) know the major theories of the *nihonjinron* and social theories, (ii) compare, contrast and critically analyze theories, (iii) understand how culture influenced the development of different theoretical traditions, and (iv) challenge their taken-for-granted ideas about the world. （授業科目の概要：本授業では、「日本人論」（日本人と日本文化の独自性に関する理論）と西洋社会理論との比較分析を行う。日本人論は、西洋以外を扱うものとしては、唯一の社会理論体系である。日本人論の主要概念は、西洋で生まれ世界共通に通用している科学的概念とは一線を画した、日本語という言語から形成されたものである。それぞれの理論を比較することによって、日本文化に対する固定概念と、全てを西洋発の民族中心的な理論で説明できると考える西洋の思想の両方について、議論していく。同時に、日本人論の主要概念と理論も学ぶ。本授業は、参加型の講義形式を取っている。学生は、事前課題を終えた上で各授業に参加し、積極的にクラス討議に参加することが求められる。また、プレゼンテーション、中間試験、そして期末レポートが課される。 授業科目の目的：本授業終了後、学生は以下を達成することが期待される。（1）日本人論の主要理論と社会理論について理解している。（2）そして各理論を、比較・対照し、批判的に分析できる。（3）文化が、様々な理論的伝統の発展にどのような影響を与えてきたのかについて、理解している。（4）世界についての既成概念に疑問を呈することができる。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Social Sciences（社会科学）	Sociology（社会学）	Cross-Culture Studies （比較文化研究）	Course Description: Are we all becoming Americans as a result of globalization? Or are we keeping our local identities and values? Are Japanese giving up their preference for harmony, just because they are drinking Coca-Cola and eat at McDonald's? The topic of this course is an introduction and critical analysis of different approaches to investigate cultural differences between social groups. We mainly focus on evaluating the relevance of several cultural dimensions and on how those relevant dimensions could be investigated empirically. We discuss dominant management (e.g. Hofstede), psychological (e.g. Triandis), and sociological/anthropological approaches (e.g. Trommsdorff). This is an interactive lecture-type course. Students are required to complete homework assignments prior to class, to contribute frequently to class discussions, to make a presentation, and to write a mid-term test and a final paper. Course Objectives: At the end of this course, students should be able to: (i) understand the major comparative approaches to study culture, (ii) identify important cultural aspects which vary between cultures, and (iii) formulate a reliable and valid empirical research project. （授業科目の概要：グローバル化の結果、日本人は全てアメリカ人のようになるのだろうか？それとも、日本人特有のアイデンティティと価値を維持していくのだろうか？日本人はコカコーラを飲み、マクドナルドを食べるからといって、和を尊ぶ文化を捨ててしまっているのだろうか？本授業では、社会グループ間の文化的差異を調べる際の様々な手法を紹介するとともに、それぞれの手法に批判的な分析を加えていく。具体的には、いくつかの文化的側面の妥当性を調べ、そうした側面をどのように実証調査するかを検討していく。主要な、経営学的（ホーフステッドなど）、心理学的（トリアンディスなど）、社会学的／文化人類学的（トロムスドルフなど）手法について、議論していく。本授業は、参加型の講義形式を取っている。学生は、事前課題を終えた上で各授業に参加し、積極的にクラス討議に参加することが求められる。また、プレゼンテーション、中間試験、そして期末レポートが課される。 授業科目の目的：本授業終了後、学生は以下を達成することが期待される。（1）主要な文化比較手法を理解している。（2）それぞれの文化によって異なる重要な文化的側面を識別することができる。（3）信頼性の高い実証可能な調査プロジェクトを立案できる。）	
		Seminar (Sociology) （社会学演習）	Course Description: The role of the seminar in sociology is to support the students' individual research projects. Students have the responsibility to present their research at different stages of their project. Problems and challenges experienced with the research project will be discussed in the seminar (by all participants and not only by the professor). Such discussions give the presenters an opportunity to see their research from different perspectives and to learn from the advice of peers as well as from professors. Furthermore, through such interactions students may discover how to avoid problems in their own projects. Course Objectives: At the end of this course, students should be able to: (i) know how to analyze an issue from a sociological perspective, (ii) conduct their own research projects, and (iii) write their graduation thesis. （授業科目の概要：本授業の目的は、個々の学生の卒業研究をサポートすることにある。学生は、それぞれの段階で、自身の卒業研究の状況を発表する。授業では、それぞれの発表を基に、卒業研究実施の際に生じる課題について、教員を含む参加者全員で議論をする。そうした議論を通して、発表者は自分の卒業研究をより多面的に観察し、教員や他の学生から助言をもらうことができる。さらには、そうした交流を通して、学生は自身のプロジェクト上の課題を回避する術を発見することもできる。 授業科目の目的：本授業終了後、学生は以下を達成することが期待される。（1）社会学的な視点から課題分析ができる。（2）自分自身の卒業研究を実施できる。（3）卒業論文を執筆することができる。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Quantitative Reasoning & Natural Sciences（数的推理・自然科学）	Quantitative Reasoning（数的推理）	Math for Liberal Arts （リベラルアーツのための数学）	Course Description: This course gives an introduction to the beauty and power of the ideas of mathematics. Topics include: numbers, games, infinity, harmony and symmetry, chaos and fractals, voting theory. Course Objectives: In this course the students will practice thinking like mathematicians, see how this process involves creativity, and that this may be relevant in scientific as well as social and artistic contexts. The emphasis of the course will be on developing critical reasoning and effective thinking skills. （授業科目の概要：この授業は、受講学生へ「数学の発想」が持つ美しさと力を紹介する入門的な授業である。「数」、ゲーム理論、「無限」、「調和と対称性」、「カオスとフラクタル」、投票理論などのトピックを紹介する。 授業科目の目的：この授業では、受講学生が数学的な発想や思考を身につけ、その際、創造性がどのように伴うのかを見い出し、科学的文脈においてだけでなく社会的・芸術的な文脈においても数学的発想・思考が関連していることを学ぶ。特に、批判的推理の力と実際的思考力の養成に、授業の重点をおく。）	
		College Algebra （大学代数学）	Course Description: The course covers all the topics of a standard College Algebra course: (i) Sets and numbers; (ii) Equations and inequalities; (iii) Coordinates and graphs; (iv) Functions (polynomials, rational functions; logarithms; exponentials; etc.); (v) Systems of equations; (vi) Vectors and vector calculus; (vii) Matrices and determinants; (viii) Sequences and series; (ix) Elementary probability. Course Objectives: At the end of this course, students should have gained basic literacy in mathematics and be able to: (i) solve algebraic equations and inequalities; (ii) plot the graph of a function, (iii) perform algebraic simplifications with functions (e.g.: factorization and simplification of functional expressions involving trigonometric functions, polynomials, logarithms, exponentials, etc.); (iv) solve systems of linear equations; (v) do basic operations with matrices; (vi) compute series and sequences; (vii) perform permutations, combinations, and very elementary probability calculations. At the end of the course, the students should have sufficient preparation to follow more advanced courses (statistics, calculus, and subjects requiring elementary quantitative skills.). （授業科目の概要：この授業では、大学代数学におけるトピックを学ぶ。I. 数と集合 II. 方程式と不等式 III. 座標とグラフ IV. 関数（多項式／有理関数／対数関数／指数関数など） V. 連立方程式 VI. ベクトルとベクトル解析 VII. 行列と行列式 VIII. 数列と級数 IX. 確率（初歩） 授業科目の目的：この科目の終了時には、受講学生が数学における基礎知識と以下の能力を身につけることが期待される。 （1）代数方程式／不等式を解く。（2）関数をグラフに描く。（3）関数を代数的に簡約化する（三角関数、多項式、対数、指数等を用いた数式の因数分解と簡約化）。（4）連立一次方程式を解く。（5）行列を用いた基礎演算を行う。（6）数列と級数の計算を行う。（7）順列、組み合わせ、初歩の確率計算を行う。科目終了時には、受講学生は、より高度な授業科目（統計学や微積分、初歩の数的能力を要求される科目）の履修に必要な準備ができているはずである。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Quantitative Reasoning & Natural Sciences（数的推理・自然科学）	Quantitative Reasoning（数的推理）	Calculus （微積分学）	Course Description: The course offers an introduction to methods and ideas of calculus. It covers the following topics: (i) Preliminary notions (numbers, sets, logic, metric spaces); (ii) Functions and models; (iii) Limits; (iv) Series and sums; (v) Differentiation and applications (e.g.: maximization/minimization); (vi) Integration and applications; (vii) Primer on differential equations and examples; (viii) Functions of many variables (basic concepts, derivatives, simple integrals). Course Objectives: At the end of the course students will have acquired a basic knowledge of calculus and relevant computational skills. Students will be able to differentiate and integrate functions, understand the meaning of these operations, solve simple differential equations, and be able to apply the techniques and ideas of calculus to analyze simple models. This course would be an ideal preliminary to courses requiring more advanced quantitative skills. （授業科目の概要：微積分の発想と解法について入門的授業を行う。具体的には、以下のトピックを扱う。（1）予備的概念（数、集合、論理、距離空間）。（2）関数とモデル。（3）極限。（4）級数と和。（5）微分とその応用（最大化／最小化など）。（6）積分とその応用。（7）微分方程式の入門と例題。（8）多変数関数（基本概念、導関数、簡単な積分）。 授業科目の目的：この科目の終了時には、受講学生は、微積分学の基本知識と関連の計算能力を身につけていることが期待される。具体的には、関数の微分と積分ができることや、これらの演算の意味を理解できること、簡単な微分方程式を解く能力とともに、これらの微積分のテクニックと発想を、簡単なモデルの解析に応用することができる能力を身につけているはずである。この科目は、より高度な数的能力を要求される授業科目への入門として適している。）	
		Statistics （統計学）	Course Description: This course will introduce the students to statistical methods, reasoning and evaluation used in investigations in a wide range of fields. The course will cover the following topics: (i) Methods of data collection, graphical and numerical displays to understand the data; (ii) Error analysis; (iii) Probability and distributions; (iv) Confidence intervals; (v) Significance tests; (vi) Linear regression; (vii) Some simple case-study examples. The course may also include an introduction to the R programming language with examples and assignments involving writing simple codes in R. Course Objectives: Proficient students will be able to: (i) Produce convincing oral and written statistical arguments in a variety of applied settings. (ii) Acquire basic knowledge of R programming; (iii) Choose and use a variety of statistical techniques for: producing data surveys, experiments observational studies simulations, analyzing and modeling data (graphics, probability, distributions, error analysis); (iv) Drawing conclusions from data (confidence intervals, significance tests); (v) Communicate statistical results effectively. （授業科目の概要：この授業では、受講学生に、幅広い分野の研究と調査に使われている統計学的な手法・推論・評価の紹介を行う。この授業では以下のトピックを扱う。（1）データ収集の方法、データ理解のためのグラフ／数値的表記。（2）誤差解析。（3）確率と分布。（4）信頼区間。（5）有意性検定。（6）線形回帰。（7）簡単なケーススタディの例。さらに、この授業では、例や簡単なコード記述を含む課題を使った「R」プログラミング言語の紹介も視野に入れている。 授業科目の目的：この科目の終了時には、受講学生は以下の能力を身につけていることが期待される。（1）様々な応用的な状況において、口頭でも書面上でも説得力のある統計学的議論を行なうことができる。（2）R言語の基礎知識を有する。（3）データ調査の作成、実験研究や観察研究のシミュレーション、データの分析とモデル化（グラフ化、確率、分布、誤差解析）を行うための様々な統計学的テクニックを選択し活用することができる。（4）データから結論を引き出すことができる（信頼区間、有意性検定）。（5）統計学的な結果を効果的に伝えることができる。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Quantitative Reasoning & Natural Sciences（数的推理・自然科学）	Natural Sciences（自然科学）	Integrated Science （科学総合）	Course Description: Natural Science is at the heart of our daily life. We need a public that possesses sufficient knowledge of Natural Science to create a healthier, greener, more productive society. Any decision making process involving modern medicine, green biotechnology, or novel energy sources demands a working knowledge of science, how scientific knowledge is developed, as well as the limitations of science. Consequently, the students will develop sufficient knowledge in Physics, Chemistry, Biology and Earth Science. Course activities will include lectures, student presentations, in-class experiments and readings that connect the obtained knowledge to the daily life. Course Objectives: We aim to enable any student, especially those whose specialties are not Natural Science, to read articles about Genetic Engineering or Astronomy with the same ease as articles about sports and politics. Sufficient knowledge will be developed to understand a series of scientific concepts, scientific subjects and equations. The students will connect them to a network. This will create “critical thinkers” that can use science information for a better and healthier society. Prof. Antonino Flachi will cover the Introduction to Physics (Force and Motion; Sound and Waves; Electrostatics, Electricity and Magnetism) during the Weeks 2, 3 and 4. On the final exam, Prof. Antonino Flachi will evaluate student responses specific to Physics. （授業科目の概要：自然科学は我々の日々の生活の核になっている。我々は、より健全で自然環境に優しく、生産的な社会を創造するために、自然科学に関する充分な知識を持たなければならない。現代医学やグリーン・バイオテクノロジー、新たなエネルギー源などに関するどんな意思決定過程にも、実用的な科学の知識、科学的知識の生成過程・方法、そして科学の限界についての知識が不可欠である。それ故に学生は、物理学、化学、生物学、地球科学の十分な知識を身に付けることが必要である。本授業では、講義、学生によるプレゼンテーション、教室内実験、リーディングなどを通じて、ここで得た知識を日常生活に関連付けていく。 授業科目の目的：本授業は、どの学生でも、特に自然科学を専門としない学生でも、遺伝子工学や天文学の文章をスポーツや政治の文章のように容易に読みこなせるようになることを目標にしている。科学的な概念や課題、そして科学方程式を充分に理解するための科学的知識の修得を目指す。そうした多様な知識を一つの体系にまとめられる能力を養成する。本授業では、より良く健全な社会を作るために科学情報を利用する「クリティカル・シンカー」の育成を目指していく。） （オムニバス方式／全３０回） （１８　フラキ、アントニノ／６回） 物理学の範囲（力と運動、音と波動、静電気学・電気・磁気）を担当する。 （１９　ラサール、ミヒャエル・ウルフガング／２４回） 化学、生物学、地球科学の範囲を担当する。）	オムニバス方式
		Integrated Science Laboratory （科学総合実験）	Course Description: The Integrated Science laboratory accompanies and deepens the knowledge gained in the Integrated Science lecture and applies concepts that have been have been taught in the Integrated Science lecture to other phenomena. Experiments will include classical Physics (Force and Motion, Light and Color, Sound and Waves, Electrostatics, Magnetism, Electricity), Chemistry (Organic and Inorganic Chemistry) and Biological related experiments. The students will not follow a defined protocol. Instead, they should develop the skills for scientific thinking; making an observation, proposing a hypothesis, designing and performing of an experiment to prove the hypothesis, refine the hypothesis, and confirm the hypothesis to obtain a natural law. Course Objectives: Upon completing this course the students can follow laboratory safety rules, recognize hazardous situations and be able to carry out laboratory procedures correctly. Furthermore, it will be possible for the students to convert experimental data to a model, judge if the models “make sense” and learn how to communicate and record data correctly. These hands-on experience will enable the student to gain trust into the natural laws, hypothesis and dogma that have been explained in the Integrated Science lecture course. （授業科目の概要：本実験は、「科学総合」と対になるものであり、当該講義で学んだ知識を、より深め、他の現象へ適用する。実験内容は古典物理学（力と運動、光と色、音と波動、静電気学、磁気、電気）や化学（有機・無機化学）、生物学を含む。学生は決められた手順に従うのではなく、科学的思考力を養うように活動していく。そのために学生は、観察をしたり、仮説を提示したり、その仮説を証明するために実験を計画し行い、仮説を修正し、自然法則を導くために仮説の裏付けをする。 授業科目の目的：この授業終了時には、学生は、実験室の安全規範に従い、起こりうる危険を認識し、実験手順を正しく実施することができる。それだけでなく、学生は実験データをモデル化し、モデルが妥当そうかどうかを判断することができるようになるとともに、どのようにデータを正しく伝達、記録するのかを学ぶ。このような実験を実際に行うことで、「科学総合」の講義で学んだ自然法則や仮説、定説の理解が深まる。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Quantitative Reasoning & Natural Sciences（数的推理・自然科学）	Natural Sciences（自然科学）	Modern Physics (現代物理学)	Course Description: The course will cover the evolution of 20th century modern physics and the major steps that led to our present understanding of the Universe. In this course the students will learn the basics ideas of modern physics along with the modern experiments designed to test physical laws. The topics to be covered are: (i) Introduction to the basic ideas of quantum mechanics; (ii) The gravitational force from Newton to Einstein; (iii) Basics of modern cosmology: facts about the Universe, its origin, and its evolution; (iv) Nuclear physics and nuclear energy; (v) Recent developments (the future of materials, the discovery of the Higgs particle; the LHC experiment); (vi) String theory, extra dimensions, and parallel universes. The level of the course is elementary and it requires only a sufficient knowledge of high school level mathematics. Course Objectives: Upon successful attendance of the course, students are expected to have learned the historical steps that led to the modern scientific evolution in physics, the basic ideas of and the current issues behind research in modern physics. Proficient students will have acquired a sufficient knowledge to understand at deeper level science divulgation and introductory research material. （授業科目の概要：この授業では、20 世紀の現代物理学の発展と、宇宙に関する現在の理解にたどり着くまでの主要な道のりについて扱う。受講学生は、現代物理学の基本的な考えや物理法則を理解するために考案された現代的実験について学ぶ。具体的には、以下のトピックを扱う。（1）量子力学の基礎概念の紹介。（2）ニュートンからアインシュタインに至る重力の概念。（3）現代宇宙論の基礎（宇宙と、その起源と進化についての事実）。（4）核物理学と核エネルギー。（5）近年の展開（物質の未来、ヒッグス粒子の発見、大型ハドロン衝突型加速器（LHC）の実験）。（6）ひも理論、余剰次元と平行宇宙。この授業は入門レベルで、履修にあたっては、高校程度の数学の知識があればよい。 授業科目の目的：この科目の終了時には、受講学生は、物理学における現代の科学的な進化に至る道のりと、現代物理学の基本概念とその研究の背後にある現在の課題について理解することが期待される。また、より望ましくは、科学的発見に関する発表や初歩的な研究論文をより深く理解するための十分な知識を修得しているはずである。）	
		History of Biotechnology (バイオテクノロジーの歴史)	Course Description: Biotechnology is a combination of all Natural Sciences and at the interface of basic and applied science. Biotechnology uses engineering principles to manipulate biological processes; especially, genetic manipulation. We will follow the historical development of modern Biotechnology in different countries, discuss the Ethics of Biotechnology, point out the career development options, research the Science and Safety of Biotechnology and discuss the legal issues involved in Biotechnology. Course activities will include lectures, student presentations, and readings that connect the obtained knowledge to other scientific subjects (Ethics, Law, and Economy). Course Objectives: This course will introduce the students to: *Red Biotechnology*: Applied to medical processes and used to obtain novel antibodies or other biosimilars to cure diseases. *White Biotechnology* (Grey Biotechnology): Applied to industrial processes, for example to catalyze reactions. *Green Biotechnology*: Plant breeding; controversially discussed, and the influence on the environment is a topic of considerable debate. *Blue Biotechnology*: Using sea resources to create products and applications of industrial interest. At the end of the course the students can judge the influence of Biotechnology on society. （授業科目の概要：バイオテクノロジーは全ての自然科学が交差する技術であり、基礎科学と応用科学とが接する技術でもある。バイオテクノロジーは、生物学的過程を操作（特に遺伝子操作）するために工学原理を用いている。本授業では、様々な国における現代バイオテクノロジーの歴史的発展をたどり、バイオテクノロジーの倫理を議論し、キャリア上の選択肢に目を向けていく。また、バイオテクノロジーの科学と安全や、バイオテクノロジーに関する法律問題に関しても議論する。本授業では、講義、学生によるプレゼンテーション、リーディングなどを通じて、ここで得た知識を他の科学的主題（倫理、法律、経済）と関連づけていく。 授業科目の目的：この授業を通じて、学生は以下のバイオテクノロジーの概要に触れる。 「レッド・バイオテクノロジー」（医療プロセスに応用されたもの。病気を治療するために新たな抗体やバイオシミラーを製造する。） 「ホワイト（グレー）・バイオテクノロジー」（工業プロセスに応用されたもの。例えば、触媒反応などである。） 「グリーン・バイオテクノロジー」（植物育種。賛否両論あり、環境への影響は激しい議論の対象となっている。） 「ブルー・バイオテクノロジー」（産業的価値のある製品や応用を海洋資源を用い生み出す。） 本授業終了時に学生は、バイオテクノロジーの社会に対する影響を評価できるようになる。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Quantitative Reasoning & Natural Sciences（数的推理・自然科学）	Natural Sciences（自然科学）	Genetics （遺伝学）	Course Description: Genetics is a basic part of Biotechnology, and there is a high demand of specialists that can transform genes to efficient drugs. For teaching, we will use an approach that emphasizes the application of genetics. The students will learn how to read scientific articles; for example: "Shark antibodies may target breast cancer" (http://www.bbc.co.uk/news/uk-scotland-north-east-orkney-shetland-24259939). They will be encouraged to construct questions to understand the text. The questions will be clarified by a combined approach of presentation and homework. Once the questions have been answered, the obtained knowledge will be enhanced further by assessments to the students. Course Objectives: The students will learn about genetic information and to manipulate genes to develop new drugs or other important products. Upon completing this course the students will have a basic knowledge of genetic topics. This course provides the foundation for understanding deeply the background of Bioscience in the current century. （授業科目の概要：遺伝学はバイオテクノロジーの基礎であり、遺伝子を有効な薬に変えることができる専門家への需要は高い。授業には、遺伝学の応用に力を入れた方法を用いる。学生は、"Shark antibodies may target breast cancer"（http://www.bbc.co.uk/news/uk-scotland-north-east-orkney-shetland-24259939）といった科学文献の読み方を学ぶ。学生は文献を理解するために質問を組み立てるように促され、その答えはプレゼンテーションと課題が組み合わされた学習方法によって明らかにされる。解答が明らかになったのち、学生に評価がフィードバックされることにより、知識がさらに定着していく。 授業科目の目的：学生は遺伝子情報や、新薬やその他の重要な製品を開発するために遺伝子を操作することについて学ぶ。本授業終了時には、学生は遺伝子に関するトピックの基礎知識を持つことになる。この授業は今世紀のバイオサイエンスの背景知識を深く理解するための基礎を提供するものである。）	
		Genetics Laboratory （遺伝学実験）	Course Description: "*Doing* science" differs from "*using* science" and the Genetics Laboratory class is the practical application of the Genetics course, which deepens the knowledge gained in the Genetics Lecture. Basic Molecular Biology knowledge will be obtained (Plasmid Design, transformation, Polymerase Chain Reaction, DNA staining, Plasmid purification) and Proteins will be purified. The students have to utilize the knowledge obtained in the Integrated Science course to understand modern Spectroscopic methods. Course Objectives: The students will learn the three basic steps in the Bioindustry: Upstream (Gene modification), Downstream Processing (Protein Purification) and Quality assurance (Protein function). This will allow the students to understand the importance of Proteins as Drugs. This course will enable the students to have first-hand experience in modern Molecular Biology and Genetics, develop their scientific thinking, and solve problems in this area. （授業科目の概要：科学を「研究すること」と「利用すること」とは異なる。本実験は、「遺伝学」の講義で学んだ知識を深める、実践的な科目である。分子生物学の基礎的知識（プラスミドデザイン、形質転換、ポリメラーゼ連鎖反応、DNA染色、プラスミド精製）を学び、タンパク質の精製も理解する。学生は現代の分光法を理解するために、「科学総合」の講義で学んだ知識を活用することになる。 授業科目の目的：学生は、バイオ産業における３つの主な段階を理解する。それらは、アップストリームプロセス（遺伝子操作）、ダウンストリームプロセス（タンパク質精製）、品質保証（タンパク質機能）の３つである。これによって、学生は薬品としてのタンパク質の重要性を理解する。学生はこの科目を通じて現代の分子生物学と遺伝学の実験を直に体験することができるだけでなく、科学的な思考を養い、この分野の問題を解決できるようになる。）	

科目区分		授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
Quantitative Reasoning & Natural Sciences(数的推論・自然科学)	Natural Sciences（自然科学）	Cell Biology Laboratory （細胞生物学実験）	Course Description: In this course the function and structure of cells will be employed. We will use the Light Microscope to quantify the differences between prokaryotic and eukaryotic cells, measure an Enzyme for the Krebs cycle, isolate Chloroplast and measure the Hill Reaction for Photosynthesis. Furthermore, we will study the membrane and Chromatin structure. The most typical Cell Biology technologies will be explained by hands-on experience. Course Objectives: The students will be able to distinguish prokaryotic and eukaryotic cells, understand the basic components, know how the cell produces energy and are able to connect changes of cell structure and function to disease. （授業科目の概要：この実験では、細胞の機能と構造を取り扱う。原核細胞と真核細胞との相違を光学顕微鏡を用いて測定し、クレブス回路の酵素測定や葉緑体の単離、光合成のヒル反応の測定を行う。さらに、細胞膜と染色質構造も観察する。最も一般的な細胞生物学の技術を、実際に体験しながら解説していく。 授業科目の目的：学生は原核細胞と真核細胞の見分け方や主要成分の理解をし、細胞がどのようにエネルギーを生み出すのかを理解した上で、細胞の構造と機能の変化を病気と関連づけることができるようになる。）	
Health & Physical Education	（保健体育）	Health & Physical Education 1 (Nanba) （保健体育１（種目：ナンバ式骨体操））	Course Description: Nanba is best known in Japan as the style of walking or running which was highly developed in Japan in the Edo Period, as exemplified in the *hikyaku* or “flying legs” messengers, as well as in the highly compact, efficient, and well-coordinated movements of Japanese Samurai, Noh and Kabuki actors, artists, and craftsmen. Nanba helps students gain an appreciation of Japanese traditional culture. In modern times, the 心身技術研究所 at Toho Gakuen Daigaku under Yano Tatsuhiko has developed applications for Nanba movements in sports and music. This course will teach students Nanba exercises for balance, flow, and health, as well as practical applications that students can make in sports and the martial arts. Students will learn how Nanba walking (*nanba-aruki*) can help them experience natural movement and connection to nature. Course Objectives: At the end of this course, students should become able to: (i) perform the 12 Nanba balance exercises (*hone taiso*), (ii) perform the 7 Nanba flow exercises (*ogenki taiso*), (iii) be able to demonstrate and practice Nanba walking and running (*nanba-aruki, nanba-bashiri*), (iv) present portions of the notes from their Nanba diary (*nanba nikki*), (v) write a paper on how they have applied Nanba to a sport, martial art, or physical activity, and its effect on their performance. （授業科目の概要：江戸時代に開発された「ナンバ」は、飛脚や、サムライ、能、歌舞伎、また職人に見られた無駄のない摺り足、効率良く身体を使った歩き方／走り方である。このナンバを通じて学生は、日本の伝統文化や身体意識の理解を深める。近年、桐朋学園大学の心身技術研究所において矢野龍彦教授の下、このナンバの音楽やスポーツへの適用が開発された。本授業では、ナンバ体操を通じて、バランス、フロー、健康を始め、スポーツや武道への実践的な応用も学ぶ。ナンバ歩きを通じて、自然な動き、及び自分と自然との対話を経験することできる。 授業科目の目的：本授業終了後、学生は以下を達成することが期待される。（1）12 のナンバ式骨体操ができるようになる。（2） 7つのナンバ式お元気体操ができるようになる。（3）ナンバ歩き、ナンバ走りができるようになる。（4）ナンバ日記を作り、その一部を共有する機会をもつ。（5）スポーツ、武道、運動の分野におけるナンバ応用として、どのような変化、進化を体験したかについてレポートを書く。）	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Health & Physical Education（保健体育）	Health & Physical Education 1 (Aikido) (保健体育１（種目：合気道))	Course Description: Aikido is a Japanese martial art developed in the 20th Century by Ueshiba Morihei, but with roots going back into Traditional martial arts. Like other martial arts, Aikido is now represented by a variety of schools, but it is known throughout the world as the *Way of Harmony*, teaching how to blend with an opponent's movements and subdue them without collision. It teaches how to coordinate movements of mind and body, how to sense an opponent's actions as they arise, and deal with the conflict in a non-violent manner. Sometimes known as the philosopher's martial art, it has the benefit of being both effective for self-defense, and teaching people how to remain calm under pressure, and avoid unnecessary conflict. The course will cover the basic exercises and techniques of Aikido, as well as meditation and breathing techniques. Students will be required to purchase and practice in an Aikido *gi* for training. Course Objectives: At the end of this course, students should become able to: (i) perform all of the basic solo Aiki exercises including *ukemi*, which contain the essential movements of Aikido, (ii) demonstrate each of the fundamental Aikido techniques with a partner at a basic level, (iii) be able to perform meditation and breathing exercises, (iv) have a basic understanding of self-defense from an Aikido perspective, (v) understand all of the basic Japanese terminology and concepts used in the practice of Aikido. （授業科目の概要：合気道（「合氣道」とも表記される）は 20 世紀に植芝盛平翁により生み出された武道であるが、そのルーツは日本の伝統的な武道にさかのぼる。他の武道と同様に、今は色々な流派に分かれているが、争わず、相手の動きに入り込んで、怪我をさせることなく相手を制する、文字どおり「合気（The Way Of Harmony)」の武道として世界的に知られている。心身の動きを統一して、相手の心や身体の動きを瞬時にとらえ、攻撃を抑える武道である。哲学的な武道として、護身術はもちろん、プレッシャーの元で落ち着きを保ち、非暴力的手段をもって解決することを学ぶ。この講座では合気道の基本の体操、技、瞑想法、呼吸法を学ぶ。受講する学生は、合気道着を購入し着用して稽古に参加することが必須である。 授業科目の目的：本授業終了後、学生は以下を達成することが期待される。（1）受け身、合気体操など、個人による合気道の基本の動きができる。（2）相手のある状態で合気道の基本の技を行うことができる。（3）合気道の瞑想法、呼吸法を修得している。（4）合気道の観点からの基本的な護身術を理解している。（5）合気道の道場で使われている基本的な用語や概念の理解ができる。）	
	Health & Physical Education 1 (Judo) (保健体育１（種目：柔道))	授業科目の概要：本授業は、嘉納治五郎が創始した「日本傳講道館柔道」を学ぶ。柔道の母体となったのは、柔術・和・体術などといわれた、徒手格闘の武術である。それが 1882 年（明治 15 年）嘉納治五郎によって新たに柔道として創始されたものである。嘉納は、「柔道とは心身の力を最も有効に使用する道である。」と定義している。「保健体育１（種目：柔道)」の授業では、礼法・基本動作・受け身・投げ技・固め技及び理合いなどを学習させ個人の体力・能力に応じた安全で効果的な練習方法によって柔道技術を修得させる。 授業科目の目的：本授業では、柔道の基本ともいえる「礼」「受け身」「基本動作（組手・歩き方・崩)」を中心に教える。礼は、ただ単に形を理解させるだけでなく礼の考え方を理解させ厳格で正しい礼を実践させることにある。受け身に関しても形だけではなく、怪我をしない・させないことを理解させながらの練習を進め、基本動作では技を教え乱取りに入る直前の大切な動作であるから、身体にしっかり認識をさせるように教えていく。このように技術面だけではなく、意味合いを理解させながらの授業を行う。 その他：本授業は、全て日本語で行う。	
	Health & Physical Education 1 (Karate) (保健体育１（種目：空手))	授業科目の概要：「保健体育１（種目：空手)」では、初学者を対象に一武道としての空手道の特性とその歴史を教え、技の修練と礼儀作法を通じて豊かな人間形成を培えるように指導する。基本的な技とその統合・発展した形を理論的に分析して解説することで、機能的な身体の動きを最大限に発揮するために、空手道を科学的に研究する。 授業科目の目的：（1）「空手に先手なし」と言われるように、攻撃より防御に重きを置く武道の特性を伝え、（2）空手道の誕生とその変遷についての歴史を学ぶ。実技では、（3）武道における正座、立礼などを通して礼の心を学び、（4）①受け方（下段払い、上段揚受け、中段内受け、中段外受け）②攻め方（その場突き、追い突き、逆突き、前蹴り、上段回し蹴り）③攻撃と防御の組み合わせ等の基本動作を修得する。 その他：本授業は、全て日本語で行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Health & Physical Education（保健体育）	Health & Physical Education 1 (Shugendo) （保健体育１（種目：修験道））	授業科目の概要：修験道は、古来仏教、神道をはじめ日本の宗教実践の基盤をなしてきた実践を重んずる日本独特の宗教である。その方法は大自然である山中を母の胎内とみなし、そこを踏破（抖そう『とそう』）し、山中に寝起きし擬死再生の思想により悟りを求めた。その修行法は、「滝行」「山駈け」など独自のものを有し、また身体運用法は、武術、忍術などに多大な影響を与えた。また里に降りては、民衆の苦しみをとりのぞこうと、各地を駆けまわった。その活動の一つである山伏神楽は民舞などの展開を見せる。また修験道の唱える山伏祭文はその後、浪花節に展開する。まさに修験道は日本の心身技術の宝庫ともいえる。本授業では以上の修験道の様々な心身鍛錬法をワークショップ形式で学習をする。それにより日本人の自然観に根ざした心身一如の世界への理解を深める。 授業科目の目的：本授業では、道場及び野外で心身の準備訓練を行い、その後、実際に自然の行場、世界文化遺産で知られている富士山にて二度の実習を行う。I（1）滝行、大自然と一体化し、非日常的な意識状態に入ることにより、「深い自分」を知ることができるようになる。（2）山林抖・(とそう)、山歩きが速くかつ安全にできるようになる。（3）自己整体術、自分の身体を自分で整え、痛みをとることができるようになる。（4）禅定、大自然の中ならではの深い瞑想状態に入ることができるようになる。（5）古武術、武道および忍術などの技術は、修験道など山岳修行により養われてきた歴史がある。従って一般的なスポーツ理論とは異なる武芸十八般に通底する心身論を基盤にした「文武一道」の理合と精神を体現できるようになる。 その他：本授業は、全て日本語で行う。	
	Health & Physical Education 2 (Aikido) （保健体育２（種目：合気道））	Course Description: Health & Physical Education 1 (Aikido) is a prerequisite for this course. Building on the fundamentals of Aikido, students in this class will also be introduced to advanced Aikido arts, including sword and stick arts, varied responses to continual attacks, responding to multiple attackers, as well as the philosophy behind the art. Students will also learn about the history and development of Aikido, and its applications in daily life. Course Objectives: At the end of this course, students should become able to: (i) achieve some rank in Aikido, possibly up to *Shodan* if they have the hours and pass the grading test, (ii) demonstrate several sword and stick *kata*, (iii) be able to perform a series of arts in rapid sequence without hesitation, (iv) be able to explain the philosophy of Aikido, (v) write a paper on how Aikido has affected and improved their lives. （授業科目の概要：本授業の履修には、「保健体育１（種目：合気道）」を修了していることを必須条件とする。合気道の基本に基づいた合気道の中級や上級の技として、丈・木剣の型、組み太刀、様々な攻撃への対応、多人数のかかり稽古などの導入、また合気道の哲学、生き方をはじめ、武道の歴史、合気道の発展や日常生活への応用についても学ぶ。 授業科目の目的：本授業終了後、学生は以下を達成することが期待される。（1）必要な履修時間および審査を受けた上で、級や段を獲得する。（2）丈・木剣の型を見せることができる。（3）積極的に連続の技を行うことができる。（4）合気道の哲学を説明することができる。（5）合気道の稽古が自分の人生観や生き方にどのような影響を及ぼしたかについてレポートすることができる。）	
	Health & Physical Education 2 (Judo) （保健体育２（種目：柔道））	授業科目の概要：本授業は、嘉納治五郎が創始した「日本傳講道館柔道」を学ぶ。柔道の母体となったのは、柔術・和・体術などといわれた、徒手格闘の武術である。それが 1882 年（明治 15 年）嘉納治五郎によって新たに柔道として創始されたものである。嘉納は、「柔道とは心身の力を最も有効に使用する道である。」と定義している。柔道の授業では、礼法・基本動作・受け身・投げ技・固め技及び理合いなどを学習させ個人の体力・能力に応じた安全で効果的な練習方法によって柔道技術を修得させる。 授業科目の目的：本授業では、「保健体育１（種目：柔道）」で修得した「礼」「受け身」「基本動作」を使いながら「投げ技」「固め技」及び「理合」などを理解させ教えていく。投げ技では、「足技」・「腰技」・「手技」など、順に技術を修得させ、また実際に投げられたときに受け身が取れるように練習させる。固め技では、「抑え込み」「絞め技」「関節技」などを順を追って教えていく。特に、「絞め技」「関節技」に関しては危険性を伴う技であるから、事前に技の意味合いと危険性を理解させて技術練習に入るようにする。 その他：本授業は、全て日本語で行う。	
	Health & Physical Education 2 (Karate) （保健体育２（種目：空手））	授業科目の概要：「保健体育２（種目：空手）」では、「保健体育１（種目：空手）」で習得した基本的な形と分解形を実践的に応用するために組手を導入する。形は、新たに指定形とその分解形を加える。鍛錬と実践の中で、礼節を重んじ、互いの人格を尊重し合うことの大切さを知り、空手道が自己の人間形成の一助となることを認識させる。 授業科目の目的：（1）組手に関しては、移動稽古、打ち込み稽古を行い、前に相手をたて、相手との関係の中で相互に技の攻防を行い、投げ、崩しの技を習得させ約束組手・一本組手を中心に行う。（2）礼法を重んじ、相手を尊重しながら試合形式の形と組手へと発展させる。（3）全日本空手道連盟公認の審査会において、段級資格を取得させる。 その他：本授業は、全て日本語で行う。	